



| | |
|---------|---|
| Title | 東京歯科大学研究年報 : 平成17年度 |
| Journal | 東京歯科大学研究年報, (): - |
| URL | http://hdl.handle.net/10130/390 |
| Right | |

1. 解剖学講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|-------|-------|--|
| 教 授 | 井出 吉信 | 成長・加齢・歯牙喪失に伴う顎骨の構造変化の解析 － μ CTによる立体構築と解析－（A97-0010-2） |
| 助 教 授 | 阿部 伸一 | 環境変化が摂食・嚥下関連筋群の筋線維特性に与える影響（A03-0010-1） |
| 講 師 | 上松 博子 | 乳歯象牙質の特異性に関する観察（A04-0010-1） |
| | 坂 英樹 | 乳歯歯根吸収に関する形態学的研究（A91-0010-6） |
| 助 手 | 御手洗 智 | ヒト骨膜の微細血管構築に関する研究（A96-0010-3） |
| | 崎山 浩司 | 筋線維形成過程における筋収縮蛋白と接着蛋白の発現に関する研究 （A01-0010-3） |
| 研究助手 | 塩崎 一成 | ヒト胸鎖乳突筋、僧帽筋に分布する副神経について（A02-0010-1） |
| 大学院生 | 柳澤 伸彰 | 実験的舌癌発症マウスの病巣周囲筋線維特性の変化（A03-0010-2） |
| | 松永 智 | マイクロCTを用いた骨口蓋内部構造の三次元的観察（A04-0010-4） |
| | 津守 伸明 | 上咽頭収縮筋の解剖学的観察（A04-0010-3） |
| | 大久保宏治 | マウス顎二腹筋の筋線維特性（A04-0010-2） |
| | 杉崎 正規 | マイクロCTによる有歯顎・無歯学下顎頭内部構造の三次元的観察（A05-0010-1） |
| | 鈴木 祐輔 | マイクロCTによるデンタルインプラント周囲の顎骨再建に関する研究 （A04-0010-5） |
| | 本田 敦郎 | <i>mdx</i> マウス咬筋の筋線維特性（A05-0010-2） |
| | 岩沼 治 | 筋線維に機械的負荷を与えた際に発現する遺伝子の解析（A06-0010-1） |
| | 大橋 卓史 | デンタルインプラント周囲の骨梁に対する有限要素解析（A06-0010-2） |
| | 奥田 真平 | ヒト口蓋咽頭筋に関する解剖学的研究（A06-0010-3） |
| | 染田 英紀 | 歯牙の三次元計測による年齢推定法についての検討（A06-0010-4） |
| | 呂 玟諤 | びんろうが歯牙に与える影響（A06-0010-5） |
| 専 攻 生 | 平出百合子 | 下顎骨の力学的性質とその組織学的構造（A94-0010-2） |
| | 添島 正和 | 乳歯象牙質の特異性に関する観察（A04-0010-1） |
| | 大西 正治 | 下顎骨の力学的性質とその組織学的構造（A94-0010-2） |
| | 野並 幹三 | ヒト骨膜の微細血管構築に関する研究（A96-0010-3） |
| | 白倉 由貴 | 成長・加齢・歯牙喪失に伴う顎骨の構造変化の解析 － μ CTによる立体構築と解析－（A97-0010-2） |
| | 廣瀬 大希 | 筋線維形成過程における筋収縮蛋白と接着蛋白の発現に関する研究（A01-0010-3） |
| | 小山 泰輔 | 環境変化が摂食・嚥下関連筋群の筋線維特性に与える影響（A03-0010-1） |

2. 成果の概要

1) μ CT を用いた顎骨ならびに歯の内部構造の観察 (A91-0010-6, A94-0010-2, A97-0010-2, A04-0010-1, A04-0010-4, A04-0010-5, A05-0010-1, A06-0010-2, A06-0010-4)

骨、歯などの内部構造を三次元的に観察する際には従来、連続切片を作製し、それを重ねることによって像を得ていた。しかし、この方法では試料を破壊すること、観察視点が1つに限られるうえ、立体構造の把握が困難であるという欠点があった。そこで、 μ CT を用いて非破壊的に顎骨、歯の内部構造を観察した。その結果、顎骨内部を占める海綿質骨梁の明瞭な立体的構造を得ることができ、海綿質骨梁の体積率など三次元的な骨形態計測を行うことができた。さらに、 μ CT のデータをもとに有限要素法を用いて力学的な解析を試みた。歯については、外形の立体構築像とともにX線透過度の違いからエナメル質、象牙質、歯髄腔それぞれの形態を観察した。さらに、それぞれの体積率、各部位の厚さなどについても検索することが可能であった。

Dent Traumatol **22**(1), 18~24, 2006.

2) 臨床肉眼解剖 (A02-0010-1, A04-0010-3, A06-0010-3)

歯科治療における偶発症防止、義歯製作、嚥下機能の解明など、歯科臨床とかわる解剖に関して、肉眼解剖からのアプローチを試みている。視点を考えることによって多くの知見を見出している。

形態科学 **9**(1), 23~26, 2005.

形態科学 **9**(1), 27~30, 2005.

3) 摂食・嚥下関連筋群の筋線維特性の解析 (A01-0010-3, A03-0010-1, A03-0010-2, A04-0010-2, A05-0010-2, A06-0010-1)

高齢者の嚥下障害による誤嚥性肺炎などが社会問題となっている。そこで、摂食・嚥下関連筋群の分子生物学的な検索、特に分子量の大きい筋収縮タンパクであるミオシン重鎖に属する各アイソフォームの組成の解明に焦点を絞り、それぞれの筋線維特性から、関連筋群のもつ摂食・嚥下に関する制御機構を解明するため研究を展開している。これら筋群のほとんどが口腔内、外より明視的に位置を同定することができ、医療現場に對しての情報提供につなげたい。

Biomed Res **26**(2), 61~68, 2005.

Arch Oral Biol **50**(12), 988~993, 2005.

3. 科学研究費補助金・各種補助金

| 研究代表者 | 研究課題 | 研究費 |
|-------|--|------------------------------|
| 井出 吉信 | 摂食・嚥下関連筋群の分子機構の解析 | 大学院整備重点化経費 研究科特別経費 (研究科分) |
| 阿部 伸一 | バイオマーカーによって特定された口腔癌周囲組織の機能異常を探索プロジェクト | 文科省科研費・萌芽研究 |
| 柳澤 伸彰 | 成長期におけるマウス舌筋の筋線維特性の変化 | 大学院整備重点化経費・研究科特別経費 (学生分) |
| 大久保宏治 | 成長期におけるマウス顎二腹筋の筋線維特性の変化 | 大学院整備重点化経費・研究科特別経費 (学生分) |
| 本田 敦郎 | 筋ジストロフィーモデルマウス (<i>mdx</i>) 咬筋の筋線維特性について | 大学院整備重点化経費・研究科特別経費 (学生分) |

4. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

| シンポジスト | 年月日 | 講演演題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|--------|-------------|--|-------------------------|------|
| 松 永 智 | 2005. 6. 1 | マイクロ CT でみる顎骨の内部構造 | 日本顕微鏡学会 第 61 回 学術講演会 | つくば市 |
| 阿部 伸一 | 2006. 3. 29 | 口腔・顎顔面領域における再生と分化 ― Krox20 Null Mutation マウスにおける筋収縮タンパクの発現― | 第 111 回日本解剖学会総会 | 横浜市 |
| 松 永 智 | 2006. 3. 31 | マイクロ CT でみる顎骨の内部構造： Implant を介した咬合力が顎骨内部構造に及ぼす影響の解析 | 第 111 回日本解剖学会総会・学術大会 | 相模原市 |

学会等招待講演

| 講演者 | 年月日 | 演 題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------|--------------|----------------------|-------------------|----------------|
| 井出 吉信 | 2005. 4. 24 | 顎関節の形態と機能 | 第 17 回日本顎関節学会 | 横浜市 |
| 井出 吉信 | 2005. 6. 12 | 総義歯と解剖 | 第 23 回日本顎咬合学会 | 東京 |
| 阿部 伸一 | 2005. 5. 8 | 無歯顎治療のための機能解剖の重要ポイント | 日本顎咬合学会 | 浦添市 |
| 阿部 伸一 | 2005. 10. 21 | Implant Anatomy | Yonsei University | Soul, Koria |
| 阿部 伸一 | 2006. 3. 12 | Implant Anatomy | 日本顎咬合学会 | 大阪市 |

5. 教育講演等教育に関する業績、活動

教育講演等

| 講演者 | 年月日 | 演 題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------|--------------|----------------------------------|-----------------------------------|------|
| 井出 吉信 | 2005. 5. 9 | 誤飲・誤嚥の基礎と臨床 | ラジオNIKKEI 「生涯研修ライブラリー」 | 東京 |
| 井出 吉信 | 2005. 5. 14 | 神経麻痺の発現環境 | クインテッセンス研修会 | 東京 |
| 井出 吉信 | 2005. 5. 29 | インプラントにおける解剖学的な基礎知識 | 2005 年度日本インプラント臨床研究会 100 時間コース | 東京 |
| 井出 吉信 | 2005. 6. 11 | 食事と嚥下障害 | 武蔵野市歯科医師会講演会 | 東京 |
| 井出 吉信 | 2005. 6. 19 | 摂食嚥下を理解するための解剖学 | 日本有床歯科施設協議会 | つくば市 |
| 井出 吉信 | 2005. 6. 26 | 『「食べる」「話す」「笑う」を考える』～歯科と高齢者の QOL～ | 日本歯科先端技術研究所 | 東京 |
| 井出 吉信 | 2005. 7. 3 | 解剖学から見えてくる日常臨床のヒント | 栃木歯学研究会 | 栃木市 |
| 井出 吉信 | 2005. 7. 14 | 日常小手術の勘所—卒後再び解剖標本に触れて再確認する— | 東京都歯科医師会 平成 17 年度卒後研修 | 東京 |
| 井出 吉信 | 2005. 7. 20 | 歯の健康について | 千葉市文化振興財団 | 千葉市 |
| 井出 吉信 | 2005. 7. 22 | 口腔周囲組織の機能解剖と老化について | 神奈川歯科大学特別講義 | 横須賀市 |
| 井出 吉信 | 2005. 8. 20 | 歯科臨床・知っておきたい解剖学 (摂食・嚥下、顎関節) | 宮崎県支部学術講演会 | 宮崎市 |
| 井出 吉信 | 2005. 9. 4 | 無歯顎治療に必要な機能解剖 | PTDC セミナー | 千葉市 |
| 井出 吉信 | 2005. 9. 17 | 歯科臨床・知っておきたい解剖学 (摂食、嚥下・顎関節) | 信越地域支部連合会学術講演 | 軽井沢郡 |
| 井出 吉信 | 2005. 10. 2 | 歯科衛生士のための口腔解剖学 | 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科 御茶ノ水さつき会同窓会公開講座 | 東京 |
| 井出 吉信 | 2005. 10. 17 | 歯科臨床で知っておきたい解剖学 | 東京都丸の内歯科医師会学術講演会 | 東京 |
| 井出 吉信 | 2005. 11. 6 | 摂食・嚥下障害の解剖 | 神奈川県歯科医師会平成17年度摂食・嚥下障害歯科医師担当研修会 | 横浜市 |
| 井出 吉信 | 2005. 11. 10 | 摂食嚥下のメカニズム | 船橋歯科医師会特殊歯科学術講演会 | 船橋市 |

| 講演者 | 年月日 | 演 題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------|--------------|--|---|------|
| 井出 吉信 | 2005. 11. 26 | 摂食・嚥下障害知っておきたい解剖学 | 静岡県支部学術講演会 | 静岡市 |
| 井出 吉信 | 2005. 12. 4 | 歯科医療・歯科技工に知っておきたい解剖学 | 日本歯科技工学会関東支部 第2回学術大会 | 東京 |
| 井出 吉信 | 2006. 1. 16 | 歯科臨床で知っておきたい解剖学 | 東京都丸の内歯科医師会学術講演会 | 東京 |
| 井出 吉信 | 2006. 1. 28 | 摂食・嚥下のメカニズム ー解剖・生理ー | 摂食・嚥下機能療法・口腔ケアセミナー | 高崎市 |
| 井出 吉信 | 2006. 3. 5 | 「インプラントの基礎と臨床」 解剖から外科処置、補綴まで | 平成17年度日本顎咬合学会認定医教育研修会 | 名古屋市 |
| 阿部 伸一 | 2005. 4. 17 | 嚥下機能を取り込んだ義歯作製の重要性とその解剖学的根拠 | GC 友の会 仙台コミュニティ | 仙台市 |
| 阿部 伸一 | 2005. 5. 22 | 補綴治療に役立つ解剖学的診断 | 東京都立心身障害者口腔保健センター | 東京 |
| 阿部 伸一 | 2005. 7. 11 | 嚥下機能を取り込んだ義歯作製の重要性とその解剖学的根拠 | 東京歯科大学同窓会浅草支部 | 東京 |
| 阿部 伸一 | 2005. 10. 26 | 明日からの診療に役立つ機能解剖を考慮した無歯顎治療 ー患者・術者が安心できる総義歯を目指してー | 東京歯科大学同窓会豊島支部 | 東京 |
| 阿部 伸一 | 2006. 1. 28 | 総義歯治療で知っておきたい解剖学的知識 ー治療用義歯の意味を機能解剖の立場から考察するー | 明海大学・朝日大学生涯研修セミナー | 東京 |
| 阿部 伸一 | 2006. 1. 29 | 患者さんと話していますか ーコミュニケーションを考える。今学生たちはこう学んでいるー | 磐周歯科医師会 | 磐田市 |
| 阿部 伸一 | 2006. 2. 4 | 嚥下機能の概念を取り入れて歯科臨床をワンランクアップ ー総義歯治療、インプラントから MFT までー | 松戸歯科医師会 | 松戸市 |
| 上松 博子 | 2005. 4. 10 | 摂食・嚥下機能を理解するための発生学的解剖学の知識 | 平成17年度東京都立心身障害者口腔保健センターBasic 摂食・嚥下障害集団研修会 | 東京 |

教育ワークショップ等

| 氏 名 | 年月日 | ワークショップ名 | 役 割 | 開催地 |
|-------|----------------|---------------------------|----------|-----|
| 井出 吉信 | 2005. 5. 21～22 | 第17回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ | サブディレクター | 千葉市 |

| 氏 名 | 年月日 | ワークショップ名 | 役 割 | 開催地 |
|-------|-----------------|---|----------|------|
| 井出 吉信 | 2005. 8. 6～7 | 第 18 回東京歯科大学カリキュラム 研修ワークショップ | サブディレクター | 千葉市 |
| 井出 吉信 | 2005. 11. 19～20 | 第 19 回東京歯科大学カリキュラム 研修ワークショップ | サブディレクター | 千葉市 |
| 井出 吉信 | 2005. 10. 22～23 | 第 1 回東京歯科大学試験問題作成 とセキュリティの確保に関するワ ークショップ | サブディレクター | 船橋市 |
| 井出 吉信 | 2005. 12. 3～4 | 第 2 回東京歯科大学試験問題作成 とセキュリティの確保に関するワ ークショップ | サブディレクター | 船橋市 |
| 井出 吉信 | 2005. 3. 17～18 | 第 3 回東京歯科大学試験問題作成 とセキュリティの確保に関するワ ークショップ | サブディレクター | 木更津市 |
| 阿部 伸一 | 2005. 7. 15 | 平成 17 年度教育ワークショップ 歯学教育モデル・コア・カリキュラ ムを踏まえた歯科臨床概論 | 作業部会委員 | 千葉市 |
| 阿部 伸一 | 2005. 10. 22～23 | 第 1 回東京歯科大学試験問題作成 とセキュリティの確保に関するワ ークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 阿部 伸一 | 2005. 12. 3～4 | 第 2 回東京歯科大学試験問題作成 とセキュリティの確保に関するワ ークショップ | タスクフォース | 船橋市 |
| 阿部 伸一 | 2006. 3. 17～18 | 第 3 回東京歯科大学試験問題作成 とセキュリティの確保に関するワ ークショップ | タスクフォース | 木更津市 |
| 坂 英樹 | 2005. 10. 22～23 | 第 1 回東京歯科大学試験問題作成 とセキュリティの確保に関するワ ークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 上松 博子 | 2005. 12. 3～4 | 第 2 回東京歯科大学試験問題作成 とセキュリティの確保に関するワ ークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 崎山 浩司 | 2005. 8. 6～7 | 第 18 回東京歯科大学カリキュラム 研修ワークショップ | 参加者 | 千葉市 |
| 崎山 浩司 | 2006. 3. 17～18 | 第 3 回東京歯科大学試験問題作成 とセキュリティの確保に関するワ ークショップ | 参加者 | 木更津市 |

共用試験等

| 氏 名 | 年月日 | 種 別 | 役 割 | 開催地 |
|-------|-------------|--------------------------|--------|-----|
| 井出 吉信 | 2006. 2. 9 | 平成 17 年度第 4 学年 CBT | 運営委員 | 千葉市 |
| 井出 吉信 | 2006. 2. 26 | 平成 17 年度第 4 学年 OSCE | 副運営委員長 | 千葉市 |
| 阿部 伸一 | 2006. 2. 9 | 平成 17 年度第 4 学年 CBT | 試験実施委員 | 千葉市 |
| 阿部 伸一 | 2006. 3. 8 | 平成 17 年度第 4 学年 CBT 追・再試験 | 試験実施委員 | 千葉市 |

論文

1. 津守伸明, 阿部伸一, 宇佐美晶信⁽¹⁾, 中島 功⁽²⁾, 井出吉信 : 上咽頭収縮筋類咽頭部の形態, 形態科学 **9**(1), 23~26, 2005. 原著 A04-0010-3 (1)奥羽大・歯・口解,(2)昭和大・歯・口解
2. 宇佐美晶信⁽¹⁾, 北野良英, 阿部伸一, 津守伸明, 中島 功⁽²⁾, 井出吉信 : 下歯槽神経、下歯槽動脈の走行形態, 形態科学 **9**(1), 27~30, 2005. 原著 (1)奥羽大・歯・口解,(2)昭和大・歯・口解
3. Sakiyama,K., Abe,S., Tamatsu,Y.⁽¹⁾, Ide,Y. : Effect of stretching stress on the muscle contraction proteins of skeletal muscle myoblasts, Biomed Res **26**(2), 61~68, 2005. 原著 A01-0010-3 細生研 (1)鹿大・大学院・歯科応用解剖
4. Agematsu,H., Abe,S., Shiozaki,K.⁽¹⁾, Usami,A.⁽²⁾, Ogata,S.⁽³⁾, Suzuki,K., Soejima,M., Ohnishi,M., Nonami,K., Ide,Y. : Relationship between large tubules and dentin caries in human deciduous tooth, Bull Tokyo Dent Coll **46**(1-2), 7~15, 2005. 原著 A-04-0010-1 細形研 (1)鶴見大・歯・解剖,(2)奥羽大・歯・口解,(3)鹿大・医・保健学科・臨床看護学
5. James,H.E.⁽¹⁾, Hashimoto,M.⁽²⁾, Saka,H. : Thai Tsunami victim identification - overview to date, J Forensic Odontostomatol **23**(1), 1~18, 2005. 原著 (1)Forensic Odontology unit, University of Adelaide Australia,(2)法人類学
6. Ichikawa,J., Hara,T., Tamatsu,Y.⁽¹⁾, Ide,Y. : Morphological Changes in the Internal Structure of the Articular Eminence of the Temporal Bone during Growth from Deciduous to Early Mixed Dentition, J Oral Biosci **47**(3), 263~271, 2005. 原著 A01-0010-2 脳科学研 分析生研 (1)鹿大・大学院・歯科応用解剖学
7. 志田 剛⁽¹⁾, 阿部伸一, 上松博子, 津守伸明, 井出吉信, 鈴木計将⁽¹⁾, 川村和久⁽¹⁾ : 咬合支持と食形態がHDS-Rに与える影響について, 日摂食嚥下リハ会誌 **9**(3), 291~294, 2005. 原著 (1)静岡県
8. Maejima,M., Abe,S., Sakiyama,K., Agematsu,H., Hashimoto,M.⁽¹⁾, Tamatsu,Y.⁽²⁾, Ide,Y. : Changes in tongue muscle fiber properties of mouse before and after weaning., Arch Oral Biol **50**(12), 988~993, 2005. 原著 A-03-0010-1 細形研,細生研 実動施設 (1)法人類学,(2)鹿大・大学院・歯科応用解剖学分野
9. Takada,H., Abe,S., Tamatsu,Y.⁽¹⁾, Mitarashi,S., Saka,H., Ide,Y. : Three-dimensional bone microstructures of the mandibular angle using micro-CT and finite element analysis: relationship between partially impacted mandibular third molars and angle fractures., Dent Traumatol **22**(1), 18~24, 2006. 原著 分析生研 (1)鹿大・大学院・歯科応用解剖学分野
10. 河田英司⁽¹⁾, 佐野 司⁽²⁾, 一戸達也⁽³⁾, 小田 豊⁽¹⁾, 石井拓男⁽⁴⁾, 井出吉信 : 本学総合学力試験と共用試験CBTの比較, 日歯教誌 **22**(1), 23~25, 2006. 原著 (1)理工,(2)歯放,(3)歯麻,(4)社会歯

解説

1. 阿部伸一 : 咀嚼・嚥下運動における機能解剖の重要ポイント, 全身咬合 **11**(2), 31~35, 2005.
2. 坂 英樹, 橋本正次⁽¹⁾ : スマトラ沖地震被害者の身元確認活動における歯科の役割, 東京歯医師会誌 **53**(5), 281~287, 2005. (1)法人類学

3. 阿部伸一, 井出吉信 : 誤嚥防止への解剖学的考察, 日歯医師会誌 **58**(4), 316~327, 2005.
4. 井出吉信, 上松博子 : どうして舌はどの方向へも自由に動かせるのだろうか?, デンタルダイヤモンド **31**(4), 76~79, 2006.

単行図書

1. 井上 孝⁽¹⁾(a),(l),(o) 編集, 中村弘明⁽²⁾(b),(e),(g), 太田一正⁽³⁾(c),(d),(m), 渡邊弘樹⁽⁴⁾(d),(n), 関口 浩⁽⁵⁾(f), 大畠 仁⁽⁶⁾(h),(k), 橋本貞充⁽⁷⁾(i),(m),(o), 阿部伸一(j): 著分担 : 病態からみた発生 (a)病態からみた発生序論 1~7 頁,(b)受精から妊娠 8~12 頁,(c)ES細胞 13 頁,(d)全身の発生 14~19 頁,(e)胚葉形成・神経管形成 20~21 頁,(f)奇形の原因, 遺伝子異常と診断 22~24 頁,(g)顔のイントロダクション、頭頸部の形成 25~27 頁,(h)顔面の形成と先天異常 28~32 頁,(i)発育性嚢胞の発生 33~34 頁,(j)歯牙の発生、交換、加齢 35~40 頁,(k)歯周組織の発生と疾患 41~45 頁,(l)歯原性腫瘍、歯原性嚢胞の発生 46~56 頁,(m)歯の発生異常と遺伝子 57~64 頁,(n)舌・唾液腺、甲状腺の発生 65~68 頁,(o)舌・唾液腺、甲状腺の病態 69~80 頁, 南山堂, 東京, 2005.
(1)臨検査,(2)生物,(3)生化学,(4)超微構造,(5)小児歯,(6)口外,(7)病理
2. 阿部伸一(a),井出吉信(a): 著分担 :よくわかる口腔インプラント学 (a)第2章口腔インプラントのための基礎科学
1. 解剖学 23~36 頁, 医歯薬出版, 東京, 2005.
3. 井出吉信(a): 著分担 :よくわかる顎口腔機能 咀嚼・嚥下・発音を審査・診断する (a)嚥下器官 148~154 頁, 医歯薬出版, 東京, 2005.
4. 櫻井 薫⁽¹⁾, 石井拓男⁽²⁾(a), 井出吉信(b), 松井 隆⁽³⁾(c) : 著分担 :POSによる歯科診療録の書き方 (a)教育改革の流れと大学における診療録書き方指導 16~17 頁,(b)口腔解剖の名称と記載要領 86~92 頁,(c)処方ならびに処方せんの書き方 97~101 頁, 医歯薬出版, 東京, 2005. (1)補綴I,(2)社会歯,(3)口健臨・口外科
5. 井出吉信(a): 著分担 :わかる!摂食・嚥下リハビリテーション I 評価法と対処法 (a)摂食・嚥下のメカニズム 14~30 頁, 医歯薬出版, 東京, 2005.
6. 阿部伸一(a),上松博子(a),井出吉信(a): 著分担 :目で見える人口歯排列&歯肉形成 (a)人口歯排列・歯肉形成にかかわる機能解剖学 6~17 頁, 医歯薬出版, 東京, 2005.

プロシーディングス

1. Abe,S., Agematsu,H., Ide,Y. : Superficial and deep layer muscle fiber properties of the mouse masseter before and after weaning, Proceedings of 2005-SINO-JAPANESE conference on stomatology, 57~58,
2005.(2005-SINO-JAPANESE conference on stomatology, Shanghai) A03-0010-1 細形研,細生研 実動施設

その他

1. 井出吉信, 阿部伸一, 渡邊 裕⁽¹⁾ : デンチャーが上手になりたい早く名医と呼ばれたいー解剖学的視点で作る印象と総義歯ー, ジーシー, 2005. ビデオ (1)市病・オーラルメディシン

2. 阿部伸一：質疑応答－誤嚥しにくい摂取時の姿勢－，医事新報(4268)，112～114，2006.

学会抄録

1. 西村文子⁽¹⁾，原 麻子⁽¹⁾，関口 浩⁽¹⁾，薬師寺 仁⁽¹⁾，井出吉信：マイクロCTを用いた下顎第一乳臼歯咬合面溝の三次元的観察，小児歯誌 **43**(2)，250，2005.(第43回日本小児歯科学会大会および総会，仙台市) (1)小児歯
2. 鈴木一成，本田敦郎，崎山浩司，上松博子，阿部伸一，井出吉信：筋収縮タンパク MyHC-2d の機能的役割，歯科学報 **105**(3)，246，2005.(第279回東京歯科大学学会例会，千葉市) A-03-0010-1 細形研，細生研 実動施設
3. 松永 智，井出吉信：マイクロCTでみる顎骨の内部構造，顕微鏡 **40**(suppl2)，42，2005.(日本顕微鏡学会第61回学術講演会，つくば市) A04-0010-4 分析生研
4. 黒川勝英⁽¹⁾，崎山浩司，武田友孝⁽¹⁾，阿部伸一，井出吉信，石上恵一⁽¹⁾：培養筋芽細胞の伸展刺激に対する筋線維特性の影響について，歯科学報 **105**(3)，244，2005.(第279回東京歯科学会例会，千葉市) A00-0790-11 細生研 (1)スポーツ歯
5. 津守伸明，阿部伸一，井出吉信：嚥下運動に関与する咽頭収縮筋の形態，歯科学報 **105**(3)，245，2005.(第279回東京歯科大学学会例会，千葉市) A04-0010-3
6. Yoshinari,M.⁽¹⁾，Inoue,T.⁽²⁾，Matsuzaka,K.⁽²⁾，Abe,S.，Miake,Y.⁽³⁾，Shibahara,T.⁽⁴⁾，Kato,T.⁽⁵⁾，Hirayama,A.⁽⁶⁾：Development of Smart Biomaterials Modified with Salivary Protein.，Bull Tokyo Dent Coll **46**(3)，96～99，2005.(平成17年東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ，千葉市) A05-0240-1 HRC5A10,和訳 細形研，細生研，分析生研 (1)理工,(2)臨検査,(3)超微構造,(4)口外,(5)微生物,(6)RI研
7. 津守伸明，阿部伸一，井出吉信：嚥下機能に関与する咽頭収縮筋の形態，日摂食嚥下リハ会誌 **9**(3)，367，2005.(第11回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会，名古屋市) A04-0010-3 細形研
8. 鈴木祐輔，松永 智，井出吉信：マイクロCTを用いたデンタルインプラント周囲の三次元微細構造の観察および有限要素解析，J Oral Biosci **47**(suppl)，82，2005.(第47回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会，仙台市) A04-0010-5 分析生研
9. 崎山浩司，岩沼治，大久保宏治，阿部伸一，井出吉信：マウス舌癌周囲における筋組織の筋線維特性に与える影響について，J Oral Biosci **47**(suppl)，109，2005.(第47回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会，仙台市) A01-0010-3 細形研，細生研 実動施設
10. 本田敦郎，柳澤伸彰，阿部伸一，上松博子，井出吉信：筋再生時におけるMyoDとMyHC-perinatalの経時的変化，J Oral Biosci **47**(suppl)，109，2005.(第47回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会，仙台市) A05-0010-2 細形研，細生研 実動施設
11. 山田雅司⁽¹⁾，加藤広之⁽¹⁾，中川寛一⁽¹⁾，松永 智，井出吉信：マイクロCTを用いた上顎第一大臼歯近心頬側根管口の3次元的観察，日歯保存誌 **49**(秋季特別号)，19，2005.(第7回日韓歯科保存学会学術大会 秋季学術大会(123回) 50周年記念大会，東京) 分析生研 (1)保存I

12. 橋本正次⁽¹⁾, 坂 英樹, 井出吉信, 笠原典夫⁽²⁾, 高田英紀⁽³⁾, 染田英利⁽³⁾, 藤井宏治⁽⁴⁾, 畑山龍治⁽⁵⁾, 竹谷 修⁽⁵⁾, 村田幸信⁽⁵⁾, 横山 豊⁽⁵⁾ : スマトラ沖大地震による津波犠牲者の身元確認作業ータイ・プーケット周辺において(その 1)ー, 日本法科学技術誌 **10**(別冊), 29, 2005.(第 11 回日本法科学技術学会学術集会, 大阪市) (1)法人類学,(2)千葉医療福祉専門学校,(3)自衛隊,(4)科警研,(5)警視庁刑事部鑑識課
13. 坂 英樹, 井出吉信, 橋本正次⁽¹⁾, 笠原典夫⁽²⁾, 高田英紀⁽³⁾, 染田英利⁽³⁾, 藤井宏治⁽⁴⁾, 畑山龍治⁽⁵⁾, 竹谷 修⁽⁵⁾, 村田幸信⁽⁵⁾, 横山 豊⁽⁵⁾ : スマトラ沖大地震による津波犠牲者の身元確認作業ータイ・プーケット周辺において(その 2)ー, 日本法科学技術誌 **10**(別冊), 30, 2005.(第 11 回日本法科学技術学会学術集会, 大阪市) (1)法人類学,(2)千葉医療福祉専門学校,(3)自衛隊,(4)科警研,(5)警視庁刑事部鑑識課
14. 大橋卓史, 坂 英樹, 阿部伸一, 井出吉信, 井上 孝⁽¹⁾ : OVXラットにおける歯槽骨内部構造の 3 次元的観察, 歯科学報 **105**(5), 497, 2005.(第 280 回 東京歯科大学学会総会, 千葉市) A06-0010-2 分析生研 (1)臨検査
15. 山田雅司⁽¹⁾, 加藤広之⁽¹⁾, 中川寛一⁽¹⁾, 松永 智, 井出吉信 : マイクロCTを用いた上顎第一大臼歯近心頬側根管口の 3 次元的観察, 歯科学報 **105**(5), 498, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) 分析生研 (1)保存I
16. 奥田真平, 御手洗 智, 上松博子, 阿部伸一, 井出吉信 : ヒト口蓋咽頭筋の付着部に関する解剖学的研究, 歯科学報 **105**(5), 512, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) A06-0010-3
17. 岩沼治, 柳澤伸彰, 崎山浩司, 阿部伸一, 井出吉信 : 成長期におけるマウス側頭筋の筋線維特性の変化, 歯科学報 **105**(5), 513, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) A06-0010-1 細形研,細生研 実動施設
18. Sakiyama,K., Yoshii,M., Yanagisawa,N., Abe,S., Ide,Y. : Changes in the Muscle Fiber Characteristics of the Anterior Belly of the Digastric Muscle Before and after Weaning in Mice., ASCB(suppl), 142, 2005.(45th Annual Meeting The American Society for Cell Biology, San Francisco, USA) A01-0010-3 細形研,細生研 実動施設
19. Yanagisawa,N., Sakiyama,K., Abe,S., Ide,Y. : Properties of myosin heavy chain in tongue muscle of microphthalmic (mi/mi) mice before and after weaning., ASCB(suppl), 142, 2005.(45th Annual Meeting The American Society for Cell Biology, San Francisco, USA) A03-0010-2 細形研,細生研 実動施設
20. 松永 智, 井出吉信 : インプラントを介した咬合力が顎骨に及ぼす影響ー三次元有限要素解析を用いた考察ー, 日口腔インプラント会誌 **19**(1), 75, 2006.(第 35 回日本口腔インプラント学会総会学術大会, 弘前市) A04-0010-4 分析生研
21. 阿部伸一, 崎山浩司, 井出吉信 : Krox20 Null Mutation マウスにおける筋収縮タンパクの発現, 解剖誌 **81**(suppl), 91, 2006.(第 111 回日本解剖学会全国学術集会, 相模原市) A-03-0010-1 細形研,細生研 実動施設
22. 松永 智, 井出吉信 : マイクロ CT でみる顎骨の内部構造ーImplant を介した咬合力が顎骨内部構造に及ぼす影響の解析, 解剖誌 **81**(suppl), 116, 2006.(第 111 回日本解剖学会総会・学術大会, 相模原市) A04-0010-4 分析生研
23. 本田敦郎, 柳澤伸彰, 阿部伸一, 上松博子, 井出吉信 : 筋再生時における MyoD と MyHC-perinatal の経時的変化, 解剖誌 **81**(suppl), 146, 2006.(第 111 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 相模原市) A05-0010-2 細形研,細生研 実動施設

24. 吉成正雄⁽¹⁾, 井上 孝⁽²⁾, 松坂賢一⁽²⁾, 阿部伸一, 見明康雄⁽³⁾, 柴原孝彦⁽⁴⁾, 加藤哲男⁽⁵⁾, 平山明彦⁽⁶⁾: 唾液タンパク質の吸着特性を制御した生体新素材の開発, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 36~38, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市)
- HRC5A10 細形研, 細生研, 分析生研, 生素研 (1)理工, (2)臨検査, (3)超微構造, (4)口外, (5)微生物, (6)RI研

2. 口腔超微構造学講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|------|-------|---|
| 教 授 | 柳澤 孝彰 | 歯牙硬組織の脱灰と再石灰化 (A85-0020-1) |
| 助 授 | 澤田 隆 | 萌出と機能に伴う歯と歯周組織の超微構造的変化 (A79-0020-1) |
| | 見明 康雄 | キシリトールによる唾液の再石灰化促進効果に関する研究 (A97-0020-2) |
| 講 師 | 森口美津子 | 象牙質および歯髄におけるプロテオグリカンについての免疫組織化学的研究 (A92-0020-2) |
| | 渡邊 弘樹 | <i>In situ</i> hybridization 法による骨芽細胞, 線維芽細胞の細胞骨格 (A93-0020-1) 骨組織、口腔組織における活性酸素及びフリーラジカル関連酵素遺伝子の発現 (A99-0020-1) |
| 大学院生 | 桑名 誠 | <i>In situ</i> hybridization 法による骨芽細胞, 線維芽細胞の細胞骨格 (A93-0020-1) |
| | 荻原 正也 | 歯牙漂白がエナメル質結晶におよぼす影響に関する研究 |
| | 塩谷 宗大 | インプラント表面性状の違いによる付着上皮接合能の変化について |
| | 菅原 優 | ラット臼歯の咬合に伴う歯根膜弾性系線維の発現 一免疫組織化学的および <i>in situ</i> hybridization 法による検討一 |

2. 成果の概要

1) 骨組織、口腔組織における活性酸素及びフリーラジカル関連酵素遺伝子の発現 (A99-0020-1)

歯髄や歯肉における活性酸素およびフリーラジカル関連酵素についての免疫組織化学的研究が報告されているが、その発現機構や形態学的動態については不明な点が多い。今回、正常マウスと NOS1 ノックアウトマウスを用い、それぞれの動物の歯髄と歯肉におけるフリーラジカル合成酵素の発現動態を免疫組織化学的に比較検討した。その結果、正常マウスの歯肉と歯髄では n-NOS が陽性で e-NOS は弱陽性を示したが、NOS1 ノックアウトマウスでは両組織ともに e-NOS が強陽性反応を示した。これは、n-NOS の欠如により、e-NOS が代償性に増加していることを示唆する。

解剖誌 **80** (補遺 2), 34~36, 2005.

解剖誌 **80** (補遺 2), 37~39, 2005.

2) 化学療法を受けた小児白血病児の形成障害歯に関する病理組織学的検討

化学療法を受けた小児白血病児の歯を形態学的に検索した。その結果、歯根の短縮（歯冠長の約 60%）が認められた。これは化学療法により歯根形成時期において Hertwig 上皮鞘細胞の分裂と増殖の阻害が生じたものと考えられる。エナメル質には最表層に幅約 25 μ m の低石灰化層が認められたが、これは成熟期エナメル芽細胞の機能障害によりエナメルタンパクの脱却が阻害されたため、エナメル質石灰化度の上昇が抑制されたものと推測される。象牙質には、象牙芽細胞の有機質分泌障害によると思われる未石灰化領域が、象牙質の成長線や象牙細管に沿って観察された。セメント質の構造に異常は特に認められなかった。

障害者歯 **26** (2), 220~226, 2005.

3) 萌出と機能に伴う歯と歯周組織の超微構造的変化(A79-0020-1)

ラット臼歯歯根膜における弾性系線維の局在を明らかにするために、光学顕微鏡および電子顕微鏡的に検討した。その結果、Weigert's レゾルシン・フクシンあるいはGomori's アルデヒド・フクシンに好染する線維がわずかに歯根膜のほぼ中央を歯軸方向に走行していた。この線維を電子顕微鏡で観察すると、マイクロフィブリルの集合体に少量のエラスチンを混在させていたことから、エラウニン線維であることが同定された。歯根膜に分布するエラウニン線維は、おそらく歯根膜に加わる咀嚼圧に抗して血管の恒常性保持に関与しているものと推測される。

歯科学報 **105** (6), 602~608, 2005.

3. 学外共同研究

| 担当者 | 研究課題 | 学外研究施設 | | |
|----------------|--|----------------------------|----------------|---------------|
| | | 研究施設 | 所在地 | 責任者 |
| 柳澤 孝彰 見明 康雄 | キシリトールに関する一連の研究 | ロッテ・中央研究所 北京大学・口腔医学院・防齲研究室 | さいたま市 中国北京市 | 鈴木 義久 張 博学 |
| 柳澤 孝彰 見明 康雄 | フッ素症歯の超微構造的 コラーゲンスポンジを用いた培養骨 芽細胞の硬組織形成に関する研究 | 広大・院・歯・歯科理工 | 広島市 | 岡崎 正之 |
| 澤田 隆 | 萌出と機能に伴う歯と歯周組織 の超微構造的変化 | McGill 大・医・解剖・細胞生物 | Canada | 井上 貞行 |
| 見明 康雄 | キシリトールとリン酸オリゴ糖 カルシウム溶液における結晶形 成能の違いに関する電顕的研究 | 鶴見大・歯・解剖 | 横浜市 | 下田 信治 |
| 見明 康雄 | リン酸オリゴ糖カルシウムの再 石灰化能に関する研究 | 高知学園短大・保健・歯科衛生 | 高知市 | 三島 弘幸 |
| 見明 康雄 | ハイドロキシアパタイト薄膜コー ティングインプラントの物性 に関する研究 | プラトンジャパン | 東京 | 神蔵 功 |
| 渡邊 弘樹 | <i>In situ</i> hybridization 法による 骨芽細胞、線維芽細胞の細胞骨格 | 岡山大・院・医歯総合・細胞 組織 | 岡山市 | 佐々木順造 |
| 森口美津子 | 象牙質および歯髄におけるプロ テオグリカンについての免疫組 織化学 | 新潟医療福祉大・医療技術・ 理学療法 | 新潟市 | 山田まりえ |

4. 科学研究費補助金・各種補助金

| 研究代表者 | 研究課題 | 研究費 |
|-------|--------------------------------|------------------------------------|
| 見明 康雄 | 唾液による歯牙硬組織石灰化度の恒常性維持に 関する研究 | 文科省科研費・基盤研究(C) |
| 見明 康雄 | 唾液による歯牙硬組織石灰化度の恒常性維持の 解明 | 学術研究高度化推進経費・ハイテクリサー チセンター経費(第5) |

5. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

| シンポジスト | 年月日 | 演 題 | 学会名 | 開催地 |
|--------|-------------|---|--|----------------|
| 柳澤 孝彰 | 2005. 5. 30 | Prevention and Restoration of Initial Enamel Caries by Remineralization Enhanced with Xylitol +2 Chewing Gum - in vitro study - | International Symposium on Xylitol Study, National Committee for Oral Health | Beijing, China |

6. 教育講演等教育に関する業績、活動

教育ワークショップ等

| 氏 名 | 年月日 | ワークショップ名 | 役 割 | 開催地 |
|-------|----------------|--|--------|------|
| 見明 康雄 | 2005. 7. 15 | 平成 17 年度教育ワークショップ 歯学における準備教育－物質の科学－ | 作業部会委員 | 千葉市 |
| 見明 康雄 | 2005. 12. 3～4 | 第2回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 渡邊 弘樹 | 2005. 12. 3～4 | 第2回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 千葉市 |
| 澤田 隆 | 2005. 8. 3～5 | 平成 17 年度 大学の教育・授業を考えるワークショップ | 参加者 | 浜松市 |
| 澤田 隆 | 2006. 3. 17～18 | 第3回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 木更津市 |

教育講演

| 講演者 | 年月日 | 演 題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------|-------------|-----------------------------|------------------------------------|-------------------|
| 柳澤 孝彰 | 2005. 6. 24 | キシリトールによる齲蝕発生の抑制と初期齲蝕の修復 | 木糖醇齲蝕予防之効能検討会 | 高雄市, 台湾 |
| 柳澤 孝彰 | 2005. 6. 26 | キシリトールによる齲蝕発生の抑制 | 木糖醇齲蝕予防之効能検討会 | 台北, 台湾 |
| 柳澤 孝彰 | 2006. 1. 24 | キシリトール+2 による齲蝕発生の抑制と初期齲蝕の修復 | Thailand Ministry of Public Health | Bangkok, Thailand |
| 見明 康雄 | 2006. 3. 17 | 脱灰と再石灰化 | 第 499 回理工懇談会 | 東京 |

共用試験等

| 氏 名 | 年月日 | 種 別 | 役 割 | 開催地 |
|-------|-------------|---------------------|-------|-----|
| 見明 康雄 | 2006. 2. 26 | 平成 17 年度第 4 学年 OSCE | 誘導責任者 | 千葉市 |

論文

1. 津守将充⁽¹⁾, 見明康雄, 柳澤孝彰, 平井義人⁽¹⁾ : 酸化亜鉛配合グラスアイオノマーセメントの象牙質脱灰の抑制効果, 歯科学報 **104**(3), 326～333, 2004. 原著 平成 16 年度分、二次出版 (1)保存Ⅲ
2. 見明康雄, 三穂蓉子⁽¹⁾, 池田正一⁽¹⁾, 大野裕久⁽²⁾, 片倉 朗⁽³⁾, 柳澤孝彰 : 化学療法を受けた小児白血病児の形成障害歯に関する病理組織学的検討, 障害者歯 **26**(2), 220～226, 2005. 症例 (1)神奈川県立こども医療センター歯科,(2)千葉県,(3)口外
3. Hirata,I.⁽¹⁾, Nomura,Y.⁽¹⁾, Tabata,H.⁽²⁾, Miake,Y., Yanagisawa,T., Okazaki,M.⁽¹⁾ : SEM observation of collagen fibrils secreted from the body surface of osteoblasts on a CO₃ apatite-collagen sponge, Dent Mater J **24**(3), 460～464, 2005. 原著 (1)広島大・大学院・医歯薬学創生医科学,(2)阪大・産業科学ナノテクノロジーセンター
4. 石塚洋一⁽¹⁾, 渡邊弘樹, 石岡みずき⁽¹⁾, 塩谷宗大, 三木友香里⁽²⁾, 柳澤孝彰, 佐々木順造⁽²⁾ : NOS1 ノックアウトマウス歯髄におけるn-NOS, e-NOSタンパクの発現, 解剖誌 **80**(補遺 2), 34～36, 2005. 原著 細形研 実動施設 (1)東歯大・学生,(2)岡山大・大学院・細胞組織
5. 石岡みずき⁽¹⁾, 渡邊弘樹, 石塚洋一⁽¹⁾, 塩谷宗大, 三木友香里⁽²⁾, 柳澤孝彰, 佐々木順造⁽²⁾ : NOS1 ノックアウトマウス歯肉におけるn-NOS, e-NOSタンパクの発現, 解剖誌 **80**(補遺 2), 37～39, 2005. 原著 細形研 実動施設 (1)東歯大・学生,(2)岡山大・大学院・細胞組織
6. 浅井知宏⁽¹⁾, 間 奈津子⁽¹⁾, 菅原 優, 澤田 隆, 柳澤孝彰 : ラット臼歯歯根膜における弾性系線維の局在, 歯科学報 **105**(6), 602～608, 2005. 原著 A-79-0020-1 細形研 実動施設 (1)東歯大・学生

解説

1. 見明康雄 : エナメル質を考える, DE(155), 1～2, 2005.
2. 見明康雄 : エナメル質の微細構造, DE(155), 3～6, 2005.
3. 柳澤孝彰 : 齲蝕 ートリガー因子と拡大因子ー, 日歯医師会誌 **58**(12), 19～28, 2006.

単行図書

1. 井上 孝⁽¹⁾(a),(l),(o), 中村弘明⁽²⁾(b),(e),(g), 太田一正⁽³⁾(c),(d),(m), 渡邊弘樹(d),(n), 関口 浩⁽⁴⁾(f), 大畠 仁⁽⁵⁾(h),(k), 橋本貞充⁽⁶⁾(i),(m),(o), 阿部伸一⁽⁷⁾(j) : 著分担 : 病態からみた発生 (a)病態からみた発生序論 1～7 頁,(b)受精から妊娠 8～12 頁,(c)ES細胞 13 頁,(d)全身の発生 14～19 頁,(e)胚葉形成・神経管形成 20～21 頁,(f)奇形の原因, 遺伝子異常と診断 22～24 頁,(g)顔のイントロダクション・頭頸部の形成 25～27 頁,(h)顔面の形成と先天異常 28～32 頁,(i)発育性嚢胞の発生 33～34 頁,(j)歯牙の発生、交換、加齢 35～40 頁,(k)歯周組織の発生と疾患 41～45 頁,(l)歯原性腫瘍、歯原性嚢胞の発生 46～56 頁,(m)歯の発生異常と遺伝子 57～64 頁,(n)舌・唾液腺、甲状腺の発生 65～68 頁,(o)舌・唾液腺、甲状腺の病態 69～80 頁, 南山堂, 東京, 2005. (1)臨検査,(2)生物,(3)生化学,(4)小児歯,(5)口外,(6)病理,(7)解剖
2. 佐々木崇寿⁽¹⁾, 磯川桂太郎⁽²⁾, 柳澤孝彰 : 共著 : 組織学・口腔組織学(第 2 版) , わかば出版, 東京, 2005. (1)昭和大・歯・口腔組織,(2)日大・歯・解剖Ⅱ

3. 高木 實⁽¹⁾監修, 柳澤孝彰(a), 見明康雄(b), 澤田 隆(c), 田中陽一⁽²⁾(d-f) : 著分担 : 口腔病理アトラス (第 2 版)
(a)歯牙硬組織の病変 1~30 頁,(b)齲蝕 31~52 頁,(c)歯髄および根尖歯周組織の病変 53~72 頁,(d)全身疾患に伴う口腔病変:貧血 316 頁,(e)顆粒球減少症 317 頁,(f)血小板異常による出血性素因 318 頁,(g)骨髓腫・
髄外性形質細胞腫 321 頁,(h)臓器移植に伴う口腔病変 323 頁,(i)口腔転移腫瘍 333 頁, 文光堂, 東京, 2006.
(1)東医歯大・歯,(2)市病・臨検

その他

1. 柴原孝彦⁽¹⁾, 杉戸博記⁽²⁾, 間宮秀樹⁽³⁾, 外木守雄⁽⁴⁾, 橋本貞充⁽⁵⁾, 嶋村一郎⁽⁶⁾, 関口 浩⁽⁷⁾, 澤田 隆,
佐藤 裕⁽⁸⁾, 高橋義一⁽⁹⁾, 藤関雅嗣⁽⁹⁾ : 歯科学報「読者アンケート」の結果について, 歯科学報 **105**(3), 220~
226, 2005. (1)口外,(2)保存II,(3)歯麻,(4)市病・オーラルメディシン,(5)病理,(6)補綴III,(7)小児歯,(8)生化学,(9)東京都
2. 見明康雄, 柳澤孝彰, 片倉 朗⁽¹⁾, 内山健志⁽¹⁾, 水口 清⁽²⁾ : 唾液による歯牙硬組織石灰化度の恒常性維持の解
明, 平成 13 年度~平成 17 年度私立大学学術研究高度化推進事業(ハイテク・リサーチ・センター)研究成果報
告書, 1081~1143, 2006. 5A11 細形研,保情研,分析生研 (1)口外,(2)法歯

学会抄録

1. Mishima,H.⁽¹⁾, Sugita,D.⁽²⁾, Saeki,Y.⁽²⁾, Miake,Y., Yanagisawa,T. : Remineralization effects of demineralized apatite
crystal in bovine enamel, Bone **36**(Suppl. 2), s167~s168, 2005.(2nd Joint Meeting of the European Calcified Tissue
Society and the International Bone and Mineral Society, Geneva, Switzerland) 細形研 (1)高知学園短大・医療衛生,(2)ロッテ・
中央研
2. 浅井知宏⁽¹⁾, 間 奈津子⁽¹⁾, 菅原 優, 澤田 隆, 柳澤孝彰 : ラット臼歯歯根膜に弾性線維は存在するか, 歯科学
報 **105**(3), 238, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) A-79-0020-1 細形研 (1)東歯大・学生
3. 菅原 優, 間 奈津子⁽¹⁾, 浅井知宏⁽¹⁾, 澤田 隆, 柳澤孝彰 : ラット臼歯歯根膜における弾性系線維の局在 一免
疫組織化学的検討一, 歯科学報 **105**(3), 239, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) A-79-0020-1 細形
研 (1)東歯大・学生
4. 菅原 優, 澤田 隆, 荻原正也, 塩谷宗大, 柳澤孝彰 : ラット臼歯歯根膜における弾性系線維の分布 一免疫組
織化学的検討一, J Oral Biosci **47**(Suppl.), 91, 2005.(第 47 回歯科基礎医学会総会, 仙台市) A-79-0020-1 細形研
5. 森口美津子, 山田まりえ⁽¹⁾, 柳澤孝彰 : ラット歯胚象牙質におけるTIMP-3 の分布について, J Oral Biosci
47(Suppl.), 150, 2005.(第 47 回歯科基礎医学会総会, 仙台市) 細形研 (1)新潟医療福祉大・医療技術・理学療法
6. 柴原孝彦⁽¹⁾, 杉戸博記⁽²⁾, 間宮秀樹⁽³⁾, 外木守雄⁽⁴⁾, 橋本貞充⁽⁵⁾, 嶋村一郎⁽⁶⁾, 関口 浩⁽⁷⁾, 澤田 隆,
佐藤 裕⁽⁸⁾, 藤関雅嗣⁽⁹⁾, 高橋義一⁽⁹⁾ : これからの歯科学報-「読者アンケート」の結果をふまえて-, 歯科学報
105(5), 534, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)口外,(2)保存II,(3)歯麻,(4)市病・オーラルメディシン,(5)病
理,(6)補綴III,(7)小児歯,(8)生化学,(9)東京都
7. Sawada,T., Inoue, S.⁽¹⁾ : Elastic system fibers in rat molar periodontal ligament:Immunohistochemical study, Mol Biol
Cell **16**(Suppl.), 498a~499a, 2005.(45th Annual Meeting The American Society for Cell Biology, San Francisco, USA) 細
形研, CD-ROM (1)Dept. of Anatomy and Cell Biology, McGill University

8. 石川真由⁽¹⁾, 森口美津子, 山田まりえ⁽²⁾, 柳澤孝彰 : ラット胎児の臼歯歯胚と眼瞼の上皮のアポトーシスについて, 解剖誌 **81**(抄録号), 154, 2006.(第 111 回日本解剖学会総会, 相模原市) 細形研 (1)東歯大・学生,(2)新潟医療福祉大・医療技術・理学療法
9. 三島弘幸⁽¹⁾, 見明康雄, 大野由香⁽¹⁾, 中石裕子⁽¹⁾, 野村加代⁽¹⁾, 柳澤孝彰 : X線分析顕微鏡及び電子プローブX線マイクロアナライザを用いた癒合歯の解析例, 解剖誌 **81**(抄録号), 172, 2006.(第 111 回日本解剖学会総会, 相模原市) 細形研 (1)高知学園短大・医療衛生
10. 森口美津子, 山田まりえ⁽¹⁾, 柳澤孝彰 : ラット臼歯の萌出におけるTIEG-1, TGF- β Receptor 1, Caspase-3 の分布について, 解剖誌 **81**(抄録号), 172, 2006.(第 111 回日本解剖学会総会, 相模原市) 細形研 (1)新潟医療福祉大・医療技術・理学療法
11. 吉成正雄⁽¹⁾, 井上 孝⁽²⁾, 松坂賢一⁽²⁾, 阿部伸一⁽³⁾, 見明康雄, 柴原孝彦⁽⁴⁾, 加藤哲男⁽⁵⁾, 平山明彦⁽⁶⁾ : 唾液タンパク質の吸着特性を制御した生体新素材の開発, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 36~38, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC5A10 細形研, 細生研, 分析生研, 生素研 (1)理工,(2)臨検査,(3)解剖,(4)口外,(5)微生物,(6)RI研
12. 見明康雄, 柳澤孝彰, 片倉 朗⁽¹⁾, 内山健志⁽¹⁾, 水口 清⁽²⁾ : 唾液による歯牙硬組織石灰化度の恒常性維持の解明, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 39~41, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC5A11 保情研 (1)口外,(2)法歯

3. 生 理 学 講 座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|-------|-------|---|
| 教 授 | 鈴木 隆 | ハムスター顎下神経節細胞のシナプス電流とその発現機序について (A84-0090-1) |
| 助 授 | 田崎 雅和 | 口腔粘膜受容器の形態および機能に関する研究 (A79-0090-1) |
| 講 師 | 山本 哲 | 脳内活性に及ぼす加齢, 運動機能障害, 感覚機能障害および脳内代謝異常の影響 (A97-0090-1) |
| | 遠藤 隆行 | 脳幹孤束核細胞の生理機能について (A04-0090-1) |
| | 澁川 義幸 | 象牙質形成細胞の生理学的研究 (A95-0090-2) |
| | | 顎運動関連ミラーニューロンシステムの検討 (A02-0090-1) |
| 大学院生 | 青木 良仁 | |
| 専 攻 生 | 釜石 秀明 | |

2. 成果の概要

1) 脳幹孤束核におけるアンギオテンシンIIの効果 (A04-0090-1)

脳幹孤束核におけるアンギオテンシンIIの効果を検討した。脳幹孤束核細胞においてアンギオテンシンIIは、AT1受容体と結合し、細胞内Srcチロシンキナーゼ、p38MAPKを介してL型カルシウムチャネルを活性化することが明らかになった。

J Physiol **568**(3), 851~865, 2005.

2) 象牙芽細胞は感覚受容細胞か? 象牙芽細胞の TRPV1 チャネル発現 (A95-0090-2)

痛覚の受容機構に直接的に関与する transient receptor potential vanilloid subfamily member 1 (TRPV1) channel の象牙芽細胞における発現を免疫組織化学およびパッチクランプ法で検討した。免疫組織化学では、象牙芽細胞の細胞膜に TRPV1 の免疫反応が見られ、またパッチクランプ法では、キャプサイシン誘発性内向き電流が記録された。この結果は、象牙芽細胞に TRPV1 が発現しており、また象牙芽細胞が熱刺激を含めた侵害刺激に直接的に応答するかもしれないことを示している。本細胞の細胞膜イオン機構を基礎とする象牙質感覚受容機構の再考が必要であろう。

Arch Histol Cytol **68**, 251~257, 2005.

3) 皮質可塑性と体性感覚幻覚: 脳磁場計測研究 (A02-0090-1)

歯科・神経科的に全く正常であるが、口腔内に（実際には存在しないにも関わらず）金属様物理的物質の存在を認める女性（口腔内異常幻覚）から体性感覚誘発脳磁場を計測したところ、第2次感覚野機能減少が見られ、この機能減少が1次感覚野によって代償されていた。よって、この皮質可塑性による機能代償が口腔内幻覚に関与すると示唆された。

Psychiatry Res **146**, 91~95, 2006.

4) 心臓線維芽細胞の脱分極で活性化されるK⁺電流 (A95-0090-2)

急性単離ラット心室線維芽細胞に発現するK⁺電流を、全細胞パッチクランプ法で検討した。脱分極刺激により、時間-電位依存性外向き電流が記録された。テイル電流は細胞外K⁺濃度に依存性を示し、その反転電位は、予期されるK⁺平衡電位と一致した。活性化・不活性化速度、不活性化からの回復過程は1次指数関数によ

くフィットした。電流の定常状態における不活性化は、ボルツマン関数にフィットし、電流応答の半分が不活性化する膜電位 ($V_{0.5}$) は、-24 mVであった。細胞外 K^+ 濃度を増加させると、不活性化からの回復過程および不活性化過程はより緩徐となった。この K^+ 電流は、細胞外TEAによって抑制されたことから、本電流がC-type不活性化過程を有することが明らかとなった。

Biophys J **88**(6), 3924~3935, 2005.

5) K^+ 電流は心室線維芽細胞および筋線維芽細胞の静止膜電位、細胞増殖、収縮応答を調節する (A95-0090-2)

心室線維芽細胞および筋線維芽細胞を、全細胞パッチクランプ法で検討した。時間一電位依存性外向き電流が脱分極領域で記録され、内向き整流型 K^+ 電流 (K_{ir}) が静止電位レベルより過分極側で記録された。 K_{ir} 電流の反転電位は、細胞外 K^+ 濃度の増加で脱分極シフトし、また細胞外バリウムで抑制された。RT-PCR解析においては、 $K_{ir}2.1$ の発現が見られた。DiBACを用いた膜電位記録では、細胞外 K^+ 濃度増加で静止電位が変動した。また、細胞外 K^+ 濃度増加は両細胞の細胞増殖と収縮機能に影響を与えた。

Am J Physiol Heart Circ Physiol **288**(6), H2931~H2939, 2005.

6) 母獣へのタウリン負荷が胎仔の脳内タウリン量に及ぼす影響 (A97-0090-1)

タウリンは新生児の中枢神経系の発育に必須であるとされている。母体から胎児にタウリンがどの程度移行するかを調べるため、妊娠18日目のマウスの腹腔に ^{13}C -Taurine (98%) を 500mg/kg 注入し、出生直後の新生仔の脳内タウリン量を調べた。母獣の脳内 ^{13}C -Taurine は 0.11 (+/- 0.00) micro mole/g であったのに対して、新生仔の脳内では 0.23 (+/- 0.02) micro mole/g であり、多くのタウリンが取り込まれていることが明らかになった。

必須アミノ酸研究 **173**, 60~64, 2005.

7) インプラント体周囲の再生上皮におけるメルケル細胞の動態 (A79-0090-1)

口蓋ヒダにインプラント体を植立し、インプラント体周囲に再生する上皮中のメルケル細胞の動態を検討した。再生した上皮中にメルケル細胞は出現せず、神経要素のみが出現することが明らかとなった。

Biomed Res **26**(6), 257~269, 2005.

8) 機械刺激に対するメルケル細胞-神経終末複合体の応答に Ca^{2+} は必要か (A79-0090-1)

メルケル細胞-神経終末複合体が存在する触小体に機械刺激を与え、応答の変化を検討した。細胞外 Ca^{2+} の有無により応答は変化したことから機械刺激に対するメルケル細胞-神経終末複合体の応答に Ca^{2+} が必要であることが明らかになった。

医学と生物学 **150**(3), 128~132, 2006.

9) 義歯床による圧刺激に対するメルケル細胞の反応 (A79-0090-1)

義歯床による圧刺激を口蓋ヒダに行いメルケル細胞の動態を検討した。持続的な圧刺激を行うことによってメルケル細胞と神経終末に変性を起しメルケル細胞-神経終末は減少することが明らかになった。

Somatosen Motor Res **23**(1), 63~72, 2006 (in press).

3. 学外共同研究

| 担当者 | 研究課題 | 学外研究施設 | | |
|-------|--|------------|--------|----------------|
| | | 研究施設 | 所在地 | 責任者 |
| 澁川 義幸 | K ⁺ -dependent Na ⁺ /Ca ²⁺ exchanger の構造変異と細胞膜K ⁺ -Na ⁺ -Ca ²⁺ 交換駆動過程の機能連関 | カルガリー大学医学部 | Canada | PPM Schnetkamp |
| 澁川 義幸 | 顎運動関連ミラーニューロンシステムの検討 | 松本歯大・大学院 | 塩尻市 | 熊井 敏文 |
| 澁川 義幸 | 心室筋細胞のCa ²⁺ 信号はアセトアルデヒド・全身性局所麻酔薬で調節されるか？ | 東邦大・薬 | 船橋市 | 百瀬弥寿徳 |
| 澁川 義幸 | 象牙芽細胞の細胞内Ca ²⁺ 信号に関する研究 | 延世大学・歯 | 韓国 | Dong Min Shin |
| 澁川 義幸 | 電位依存性K ⁺ チャネルの生体物理学的特性に関する研究 | カルガリー大・医 | Canada | WR Giles |
| 澁川 義幸 | 象牙芽細胞は感覚受容細胞であるか？ | リヨン第一大 | France | H Magloire |
| 澁川 義幸 | 細胞内IP ₃ 濃度計測に関する研究 | 北医大・歯 | 当別町 | 谷村明彦 |
| 澁川 義幸 | 象牙芽細胞の TRPM8 チャネルに関する研究 | 鹿児島大学・歯 | 鹿児島 | 徳田雅行 |

4. 科学研究費補助金・各種補助金

| 研究代表者 | 研究課題 | 研究費 |
|-------|--|----------------------------------|
| 遠藤 隆行 | 自律神経機能統合最高中枢である脳幹弧束核細胞のグルタミン酸受容機構 | 文科省科研費・若手研究(B) |
| 澁川 義幸 | Ca ²⁺ signaling mediated by IP ₃ -dependent Ca ²⁺ releasing and store-operated Ca ²⁺ channels in rat odontoblasts. | 東京歯科大学学長奨励研究賞 |
| 澁川 義幸 | 口腔領域体性感覚と Mirror Neuron System の統合異常 | 学術研究高度化推進経費 ハイテク・リサーチ・センター経費(第6) |

5. 研究活動の特記すべき事項

受賞

| 受賞者名 | 年月日 | 賞名 | テーマ | 学会・団体名 |
|-------|-------------|---------|--|--------|
| 澁川 義幸 | 2005. 7. 12 | 学長奨励研究賞 | Ca ²⁺ signaling mediated by IP ₃ -dependent Ca ²⁺ releasing and store-operated Ca ²⁺ channels in rat odontoblasts. | 東京歯科大学 |

学会招待講演

| 演者名 | 年月日 | 講演題名 | 学会・研究会名 | 主催地 |
|-------|--------------|--------------------------|-------------------|-----|
| 澁川 義幸 | 2005. 10. 15 | 象牙芽細胞におけるカルシウムシグナリング制御機構 | 第280回 東京歯科大学学会 総会 | 千葉市 |

招待講演

| 演者名 | 年月日 | 講演題名 | 学会・研究会名 | 主催地 |
|-------|--------------|--------------------------------------|--------------------|-----|
| 澁川 義幸 | 2005. 12. 14 | 象牙芽細胞のカルシウムシグナリング：象牙質形成と感覚受容機構における役割 | 北海道医療大学 歯科薬理学講座 | 当別町 |

6. 教育講演等教育に関する業績、活動

教育講演

| 演者名 | 年月日 | 演 題 | 学会・研究会名 | 主催地 |
|-------|-------------|--------------|--------------|-----|
| 田崎 雅和 | 2005. 7. 14 | 感覚神経終末の変性と再生 | 東京都歯科医師会卒後研修 | 東京 |

教育ワークショップ等

| 演者名 | 年月日 | 種 別 | 役 割 | 主催地 |
|-------|-----------------|--|--------|------|
| 田崎 雅和 | 2005. 7. 15 | 平成 17 年度教育ワークショップ 歯学における準備教育 ー物質の科学ー | 作業部会委員 | 千葉市 |
| 田崎 雅和 | 2005. 10. 22～23 | 第 1 回試験問題作成とセキュリティの確保に 関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 遠藤 隆行 | 2006. 3. 17～18 | 第 3 回試験問題作成とセキュリティの確保に 関するワークショップ | 参加者 | 木更津市 |
| 澁川 義幸 | 2005. 8. 6～7 | 第 18 回東京歯科大学カリキュラム研修ワー クショップ | 参加者 | 千葉市 |
| 澁川 義幸 | 2005. 12. 3～4 | 第 2 回試験問題作成とセキュリティの確保に 関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |

共用試験等

| 氏 名 | 年月日 | 種 別 | 役 割 | 開催地 |
|-------|-------------|-------------------------|----------|-----|
| 田崎 雅和 | 2006. 2. 9 | 平成 17 年度第 4 学年 CBT | 試験実施委員 | 千葉市 |
| 田崎 雅和 | 2006. 2. 26 | 平成 17 年度第 4 学年 OSCE | 回収・入力責任者 | 千葉市 |
| 田崎 雅和 | 2006. 3. 8 | 平成 17 年度第 4 学年 CBT 追・再試 | 試験実施委員 | 千葉市 |

論文

1. Shibukawa, Y., Chilton, E.⁽¹⁾, Maccannell, K.⁽¹⁾, Clark, R.⁽¹⁾, Giles, W.⁽¹⁾ : K⁺ currents activated by depolarization in cardiac fibroblasts., *Biophys J* **88**(6), 3924~3835, 2005. 原著 A95-0090-2 (1)カルガリー大・医・生理生体物理
2. Chilton, L.⁽¹⁾, Ohya, S.⁽²⁾, Freed, D.⁽³⁾, George, E.⁽¹⁾, Drobic, V.⁽³⁾, Shibukawa, Y., MacCannell, K.⁽¹⁾, Imaizumi, Y.⁽²⁾, Clark, R.⁽¹⁾, Dixon, I.⁽³⁾, Giles, W.⁽⁴⁾ : K⁺ currents regulate the resting membrane potential, proliferation, and contractile responses in ventricular fibroblasts and myofibroblasts., *Am J Physiol* **288**(6), H2931~H2939, 2005. 原著 A95-0090-2 (1)カルガリー大・医・生理生体物理, (2)名古屋市立大・薬・分子細胞薬理, (3)マニトバ大・ボニフェイス循環研究, (4)カリフォルニア大サンディエゴ・医用工学
3. 平野修助⁽¹⁾, 細江伸央⁽²⁾, 二宮るみ子⁽²⁾, 山本 哲, 平山明彦⁽³⁾, 諸田 隆⁽⁴⁾, 浅野貴之⁽⁴⁾, 古部 勝⁽²⁾ : 周産期におけるタウリン負荷と脳発達について, 必須アミノ酸研究(173), 60~64, 2005. 原著 A97-0090-1 実動施設 (1)額田医学生物学研究所, (2)東邦大・佐倉病院, (3)RI研, (4)ツムラ医薬評価研究所
4. 青木 博⁽¹⁾, 細江伸央⁽¹⁾, 古部 勝⁽¹⁾, 山本 哲, 平山明彦⁽²⁾, 諸田 隆⁽³⁾, 浅野貴之⁽³⁾, 平野修助⁽⁴⁾ : 周産期におけるタウリン負荷の発育に及ぼす影響—13C-タウリンによる脳組織への移行—, *13C医学* **15**, 14~15, 2005. 原著 RI研 (1)東邦大・佐倉病院, (2)RI研, (3)ツムラ医薬評価研究所, (4)額田医学生物学研究所
5. Endoh, T. : Involvement of Src tyrosine kinase and mitogen-activated protein kinase in the facilitation of calcium channels in rat nucleus of the tractus solitarius by angiotensin II, *J Physiol* **568**(3), 851~865, 2005. 原著 A-04-0090-1
6. Okumura, R.⁽¹⁾, Shima, K.⁽²⁾, Muramatsu, T.⁽²⁾, Nakagawa, K.⁽¹⁾, Shimono, M.⁽²⁾, Suzuki, T., Magloire, H.⁽³⁾, Shibukawa, Y. : The odontoblast as a sensory receptor cell? The expression of TRPV1 (VR-1) channels., *Arch Histol Cytol* **68**(4), 251~257, 2005. 原著 A95-0090-2 細形研, 分子生研, 細生研 実動施設 (1)保存I, (2)病理, (3)Laboratoire du Developpement des tissus dentaires, EA 1892, IFR 62, Faculte d'Odontologie
7. Tazaki, M. : Characterization of the peri-implant epithelium in hamster palatine mucosa: Behavior of Merkel cells and nerve endings, *Biomed Res* **26**(6), 257~269, 2005. 原著 A-79-0090-1 細形研 実動施設
8. Kato, Y.⁽¹⁾, Muramatsu, T.⁽¹⁾, Kato, M.⁽¹⁾, Shibukawa, Y., Shintani, M.⁽²⁾, Yoshino, F.⁽³⁾ : Cortical reorganization and somatic delusional psychosis: a magnetoencephalographic study., *Psychiatry Res.* **146**(1), 91~95, 2006. 原著 A02-0090-1 脳科学研 (1)慶大・医・精神神経, (2)脳科学研究施設, (3)市病・精神・神経科
9. 平野修助⁽¹⁾, 山本 哲, 平山明彦⁽²⁾, 野村正彦⁽³⁾, 菅 理江⁽³⁾, 本田加奈子⁽³⁾, 細江伸央⁽⁴⁾, 古部 勝⁽⁴⁾, 諸田 隆⁽⁵⁾, 浅野貴之⁽⁵⁾, 油田正樹⁽⁶⁾ : タウリン負荷による脳組織の発達と学習行動について, 必須アミノ酸研究(175), 69~74, 2006. 原著 A-97-0090-1 実動施設 (1)額田医学生物学研究所, (2)RI研, (3)埼玉医大・生理, (4)東邦大・佐倉病院, (5)ツムラ医薬評価研究所, (6)武蔵野大・薬
10. Tazaki, M. : Extracellular Calcium is Necessary for Normal Response to Mechanical Stimulation in Merkel Cell-Neurite Complexes in Hamster Touch Dome, *医と生物* **150**(3), 128~132, 2006. 原著 A-79-0090-1 細生研
11. Tazaki, M. : Response of Merkel cells in the palatal rugae to the continuous mechanical stimulation by palatal plate, *Somatosen Motor Res* **23**(1-2), 2006. 原著 A-79-0090-1 細形研 実動施設

プロシーディングス

1. 川口 充⁽¹⁾, 王 久子⁽¹⁾, 澤木康平⁽¹⁾, 坂井隆之⁽¹⁾, 大久保みぎわ⁽¹⁾, Bruce,B.J.⁽¹⁾, 小菅康弘⁽¹⁾, Ashraf,M.⁽²⁾, 山根源之⁽³⁾, 山本 哲, 茂木悦子⁽⁴⁾: 唾液腺の機能診断および検査技術の展開を目的とした基礎的研究, 平成 17 年度 東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 44~45, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センター, 千葉市) 分子生研 (1)薬理,(2)口外,(3)市病・オーラルメディシン,(4)矯正

その他

1. 澁川義幸: カルガリー大学研究記, 歯科学報 **105**(4), 66~73, 2005.

学会抄録

1. 遠藤隆行, 鈴木 隆: ラット脳幹孤束核細胞電位依存性カルシウムチャネルに対するアンギオテンシン II の Src チロシンキナーゼ MAPK キナーゼ依存性促進作用, 歯科学報 **105**(3), 272, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) A-04-0090-1
2. Kubo,K.⁽¹⁾, Bessho,H.⁽²⁾, Shibukawa,Y., Shintani,M.⁽³⁾, Suzuki,T., Ichinohe,T.⁽¹⁾, Kaneko,Y.⁽¹⁾: Neural activities in primary somatosensory cortex following tooth pulp electrical stimulation:-Non-painful sensation carried by human intradental A-bata fibers-, Dentin/Pulp Complex Meeting 2005 , 2005.(Dentin/Pulp Complex Meeting 2005 , Dusseldorf, Germany) 脳科学研 (1)歯麻,(2)口外,(3)脳科学研究施設
3. Hoshino,M.⁽¹⁾, Shibukawa,Y., Okumura,R.⁽²⁾, Matsuki,M.⁽³⁾, Muramatsu,T.⁽³⁾, Ogiuchi,H.⁽¹⁾, Hashimoto,S.⁽³⁾, Shimono,M.⁽³⁾: Expression of tight junction-associated proteins between odontoblasts , Dentin/Pulp Complex Meeting 2005 Program, P-6, 2005.(Dentin/Pulp Complex Meeting 2005, Dusseldorf, Germany) 細形研 (1)東女医大・口外,(2)保存I,(3)病理
4. 遠藤隆行, 鈴木 隆: 脳由来神経栄養因子はラット脳幹孤束核細胞電位依存性カルシウムチャネルに対するアンギオテンシン II の促進作用を減衰させる, 歯科学報 **105**(5), 64, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) A-04-0090-1
5. 澁川義幸: 象牙芽細胞におけるカルシウムシグナリング制御機構, 歯科学報 **105**(5), 492, 2005.(第 280 回 東京歯科大学学会総会, 千葉市) A95-0090-2 細形研,分子生研,細生研
6. 小菅康弘⁽¹⁾, 山本 哲, 川口 充⁽¹⁾: レーザー・マイクロダイセクション法による領域特異性タンパク質の解析, 歯科学報 **105**(5), 503, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) A-05-0210-3 細形研 (1)薬理
7. 伊川裕明⁽¹⁾, 澁川義幸, 石原和幸⁽²⁾, 奥田克爾⁽²⁾, 鈴木 隆: P. gingivalis産生cysteine proteinase(gingipain)は骨芽細胞のCa²⁺流入チャネルを抑制する, 歯科学報 **105**(5), 527, 2005.(第 280 回 東京歯科大学学会総会, 千葉市) A95-0090-2 細生研 (1)東歯大・学生,(2)微生物
8. Endoh,T., Aoki,Y., Suzuki,T.: Angiotensin II-induced facilitation of calcium currents involving Src kinase and MAPK kinase in rat nucleus tractus solitarius, Abst View Plann **607**, 1, 2005.(35th Society for Neuroscience annual meeting, Washington DC, USA) A-04-0090-1

9. 遠藤隆行, 鈴木 隆 : ラット脳幹孤束核細胞カルシウムチャネルに対するアンギオテンシン II の Src キナーゼ MAPK キナーゼ依存性促進作用, Jpn J Physiol **55**(Suppl), S123, 2006.(第 82 回日本生理学会大会, 仙台市) A-04-0090-1
10. Shibukawa,Y., Okumura,R.⁽¹⁾, Nakagawa,K.⁽¹⁾, Shimono,M.⁽²⁾, Suzuki,T. : Ca²⁺ Extrusion Mechanisms via KB-R7943 Sensitive Na⁺/Ca²⁺ Exchangers in Rat Odontoblasts :Ca²⁺ Extrusion Mechanisms via KB-R7943 Sensitive Na⁺/Ca²⁺ Exchangers in Rat Odontoblasts, 2006.(Dentin/Pulp Complex Meeting 2005, Dusseldorf, Germany) A95-0090-2 細形研,分子生研,細生研 (1)保存I,(2)病理
11. 川口 充⁽¹⁾, 王 久子⁽¹⁾, 澤木康平⁽¹⁾, 坂井隆之⁽¹⁾, 大久保みぎわ⁽¹⁾, Bruce,B.J.⁽¹⁾, 小菅康弘⁽¹⁾, 山根源之⁽²⁾, 山本 哲, 茂木悦子⁽³⁾ : 唾液腺の機能診断および検査技術の展開を目的とした基礎的研究ー β ディフェンシン、TNF α 、シスタチンS、AQP5 の発現についてー, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ プログラムおよび抄録集, 44~45, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC5A13 (1)薬理,(2)市病・オーラルメディスン,(3)矯正
12. 一戸達也⁽¹⁾, 久保浩太郎⁽¹⁾, 佐野 司⁽²⁾, 新谷益朗⁽³⁾, 澁川義幸, 加藤元一郎⁽⁴⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 口腔の疼痛誘発脳磁場に関する総合的研究、歯髄神経における電気刺激誘発時の脳磁場応答の観察ー歯髄神経内にA β 線維が存在するか?MEG計測の観点からの検討ー, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ抄録集, 46~47, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) A02-0090-1 脳科学研 (1)歯麻,(2)歯放,(3)脳科学研究施設,(4)慶大・医・精神神経
13. 加藤元一郎⁽¹⁾, 加藤 隆⁽¹⁾, 澁川義幸, 新谷益朗⁽²⁾ : Mirror Neuron Systemの神経基盤ー特に精神障害(歯科口腔外科関連精神疾患を含む)における異常に関する研究ー統合失調症群におけるの神経基盤, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ抄録集, 48~49, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) A02-0090-1 脳科学研 (1)慶大・医・精神神経,(2)脳科学研究施設
14. 澁川義幸, 加藤元一郎⁽¹⁾, 新谷益朗⁽²⁾, 加藤 隆⁽¹⁾ : 口腔領域体性感覚とMirror Neuron Systemの統合異常, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ抄録集, 50~51, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) A02-0090-1 脳科学研 (1)慶大・医・精神神経,(2)脳科学研究施設
15. 矢島安朝⁽¹⁾, 別所央城⁽¹⁾, 武田栄三⁽¹⁾, 田崎雅和, 澁川義幸, 柴原孝彦⁽¹⁾ : MEG計測によるヒト口蓋粘膜への電気刺激による大脳皮質の応答, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ抄録集, 58~59, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) A02-0090-1 脳科学研 (1)口外

4. 生 化 学 講 座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|-------|-------|---|
| 教 授 | 木崎 治俊 | 細胞死の分子機構 (A90-0120-1) 唾液腺オステオポンチンの組織構築および唾液腺における機能解析 (A02-0120-1) |
| 助 教 授 | 富田友美子 | 老齢及び肥満における脂質代謝 (A88-0120-1) 歯牙硬組織および唾液、唾液腺の脂質の生理的意義 (A89-0120-1) |
| | 佐藤 裕 | 口腔レンサ球菌のプラーク定着機構の分子遺伝学的解析 (A95-0120-1) |
| 助 手 | 山本 康人 | 口腔レンサ球菌のプラーク定着機構の分子遺伝学的解析 (A95-0120-1) <i>S. mutans</i> 糖代謝系の鍵酵素であるピルビン酸ギ酸リアーゼ (PFL) の遺伝子クローニングとその発現調節機構の解析 (A95-0120-2) |
| | 太田 一正 | 細胞死の分子機構 (A90-0120-1) 唾液腺オステオポンチンの組織構築および唾液腺における機能解析 (A02-0120-1) |
| 研究助手 | 柴山 和子 | <i>S. macacae</i> における <i>gbcC</i> 遺伝子ホモログの機能解析 |
| 大学院生 | 鏡 明祥 | <i>S. sobrinus</i> のグルカン依存性凝集に関与する遺伝子の検索 |
| | 大越林太郎 | 細胞死の分子機構 (A90-0120-1) 唾液腺オステオポンチンの組織構築および唾液腺における機能解析 (A02-0120-1) |

2. 成果の概要

1) 細胞死の分子機構 (A90-0120-1)

AMP 活性化プロテインキナーゼ (AMPK) 活性化剤 AICAR は細胞内に移行してリン酸化され、AMP を mimic して AMPK を活性化すると考えられるが、ヌクレオシド輸送体とアデノシンキナーゼ阻害剤存在下でも AICAR のアポトーシス抑制効果が観察された。一方、U937 や HSG などガン細胞株では AICAR によりアポトーシスが誘導され、かつ、細胞内への移行とヌクレオチドへの変換が必須であり、細胞により AICAR の作用機序が異なっていると考えられる。

飢餓マウスでは胸腺重量および胸腺細胞数の減少が認められる。AMPK は飢餓にともない mRNA およびタンパク質とも発現量の上昇が認められた。また、活性化型 AMPK を示す、 α サブユニットのリン酸化も亢進した。リン酸化は低グルコースにより、発現上昇はグルココルチコイドによって誘導されることを明らかにした。飢餓ストレスではグルココルチコイドによりアポトーシスの誘発と同時に AMPK の発現上昇によりストレスに応答した細胞が生存していると考えられる。

局所麻酔薬であるリドカインは濃度によってアポトーシスを誘発したり、ネクローシスを誘発した。リドカインによるアポトーシスはミトコンドリア経路を介していた。アポトーシスとネクローシスの分岐に AMPK が関与しているかもしれない。

Biomed Res **26**(6), 231~239, 2005.

2) 口腔レンサ球菌のプラーク定着機構の分子遺伝学的解析 (A95-0120-1)

S. mutans のプラーク定着因子である *gbpC* 遺伝子がコードするタンパクは分泌後、細胞外に拡散することなく、細胞壁に繋ぎとめられた状態で発現している。このようなタンパクはグラム陽性菌細胞壁アンカータンパクというグループを形成している。しかし、この *gbpC* 遺伝子が他のミュータンスレンサ球菌にも存在するかどうかは未知であったが、*S. macacae* はサルより分離されたミュータンスレンサ球菌であり、*S. mutans* の GbpC タンパクと相同タンパクを持っており、*S. mutans* 同様にグルカン依存性凝集に関与することが示された。さらに *S. sobrinus* をはじめとするその他のミュータンスレンサ球菌においてもその存在が示唆された。*S. mutans* の Z1 株は細胞壁アンカータンパクであるコラーゲンアドヘシン分子を株特異的に発現していたが、調べた他の約 80 株中およそ 1/3 の株にそのコード遺伝子の存在が認められ、これはコラーゲン/ラミニンへの結合性と完全に相関していた。また、この遺伝子ホモログは *Streptococcus rattii* や *Streptococcus devriesei* にも存在していることが示された。

J Oral Biosci **47**(2), 171~174, 2005.

Oral Microbiol Immunol **21**(1), 32~41, 2006.

3) 歯牙硬組織および唾液、唾液腺の脂質の生理的意義 (A89-0120-1)

歯牙エナメル質の脂質が抗う蝕作用を有することが示唆されう蝕エナメル質中の脂質含量の増加が認められ、この脂質由来は唾液よりの関与が予想され、う蝕歯を有する耳下腺唾液中脂質が非う蝕歯のそれと比較し脂質の増加がみられた。特にリン脂質組成とその脂肪酸組成の変動をきたし、唾液中タンパク質とともにう蝕関与に重要な役割を演じていることが予想された。そこで唾液分泌をつかさどる唾液腺とリン脂質について検討し、細胞膜中のリン脂質が成長や発達段階に影響を及ぼしているかどうかを、年齢、成熟、および幼若ラットを用い総リン脂質組成を分析し、加齢により唾液腺の総脂質およびリン脂質含有率の減少がみられ、n-6 系の脂肪酸含有率にも変化がみられたことにより唾液腺のリン脂質がラットの唾液腺の発育に関係することが示唆された。

3. 学外共同研究

| 担当者 | 研究課題 | 学外研究施設 | | |
|---------------|---|-------------|-----|-------|
| | | 研究施設 | 所在地 | 責任者 |
| 佐藤 裕 山本 康人 | <i>S. mutans</i> ピルビン酸ギ酸リアーゼ活性化酵素遺伝子 (<i>act</i>) のクローニングとその発現機構の解析 | 東北大・院歯・口腔生化 | 仙台市 | 高橋 信博 |

4. 科学研究費補助金・各種補助金

| 研究代表者 | 研究課題 | 研究費 |
|-------|---|----------------|
| 木崎 治俊 | AMP 活性化キナーゼによる T リンパ球のアポトーシスの回避・起動の制御機構 | 文科省科研費・基盤研究(C) |
| 佐藤 裕 | もう一つのヒトう蝕原因菌で遅れている遺伝子機能解明への一つのアプローチ | 文科省科研費・基盤研究(C) |

| 研究代表者 | 研究課題 | 研究費 |
|----------------|---|--------------------------------|
| 佐藤 裕 | <i>Streptococcus macacae</i> (サルミュータンス菌) はヒト口腔に存在しうるだろうか？ | 学術研究高度化推進経費・ハイテクリサーチセンター経費(第5) |
| 佐藤 裕 | う蝕原性口腔レンサ球菌 <i>Streptococcus mutans</i> のコラーゲンアドヘシンタンパク遺伝子の解析 | 土屋文化振興財団助成金 |
| 太田 一正 | 唾液腺オステオポンチンの組織構築および唾液腺における機能解析 | 学術研究高度化推進経費・ハイテクリサーチセンター経費(第5) |
| 太田 一正 木崎 治俊 | 歯周組織再生時の AMP 活性化プロテインキナーゼによるストレス適応と障害からの回避 | 大学院整備重点化経費・研究科特別経費(研究科分) |
| 鏡 明祥 | <i>Sobrinus</i> のグルカン依存性凝集に関与する遺伝子の同定 | 大学院整備重点化経費・研究科特別経費(学生分) |

5. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

| シンポジスト | 年月日 | 演 題 | 学会名 | 開催地 |
|--------|-------------|---|----------------------------|-----|
| 佐藤 裕 | 2005. 9. 28 | 齶蝕関連細菌の分子生物学： <i>In vitro</i> random mutagenesis と <i>S. mutans</i> のコラーゲンアドヘシン遺伝子の同定 | 第47回歯科基礎医学会学術大会サテライトシンポジウム | 仙台市 |

6. 教育講演等教育に関する業績

教育ワークショップ等

| 氏 名 | 年月日 | ワークショップ名 | 役 割 | 開催地 |
|-------|----------------|--------------------------------------|---------|------|
| 佐藤 裕 | 2005. 7. 15 | 平成17年度教育ワークショップ 歯学における準備教育－物質の科学－ | 作業部会委員長 | 千葉市 |
| 佐藤 裕 | 2005. 12. 3～4 | 第2回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 山本 康人 | 2005. 7. 15 | 平成17年度教育ワークショップ 歯科大学における語学教育 | 作業部会委員 | 千葉市 |
| 山本 康人 | 2005. 12. 3～4 | 第2回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 太田 一正 | 2006. 3. 17～18 | 第3回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 木更津市 |

論文

1. Sato,Y., Okamoto-Shibayama,K., Kagami,A., Yamamoto,Y., Kizaki,H. : Single Nucleotide Polymorphisms (SNPs) Detected in the *gbpC* Gene Coding Region of *Streptococcus mutans*, J Oral Biosci **47**(2), 171~174, 2005. 原著 A-95-0120-1, HRC5A12, 科学研究費・基盤(C), 土屋文化振興財団助成金 分子生研
2. Muramatsu,T.⁽¹⁾, Hamano,H.⁽¹⁾, Ogami,K.⁽²⁾, Ohta,K., Inoue,T.⁽³⁾, Shimono,M.⁽¹⁾ : Reduction of osteocalcin expression in aged human dental pulp, Int Endod J **38**(11), 817~821, 2005. 原著 (1)病理,(2)補綴I,(3)臨検査
3. Kamiya,Y.⁽¹⁾, Ohta,K., Kaneko,Y.⁽¹⁾ : Lidocaine-induced apoptosis and necrosis in U937 cells depending on its dosage, Biomed Res **26**(6), 231~239, 2005. 原著 A-90-0120-1, 科学研究費・基盤(C) 細形研,分子生研,細生研 (1)歯麻
4. Okamoto-Shibayama,K., Sato,Y., Yamamoto,Y., Ohta,K., Kizaki,H. : Identification of a glucan-binding protein C gene homologue in *Streptococcus macacae*, Oral Microbiol Immunol **21**(1), 32~41, 2006. 原著 A-95-0120-1, HRC5A12, 科学研究費・基盤(C) 分子生研

単行図書

1. 井上 孝⁽¹⁾(a),(l),(o), 中村弘明⁽²⁾(b),(e),(g), 太田一正(c),(d),(m), 渡邊弘樹⁽³⁾(d),(n), 関口 浩⁽⁴⁾(f),大畠 仁⁽⁵⁾(h),(k), 橋本貞充⁽⁶⁾(i),(m),(o), 阿部伸一⁽⁷⁾(j) : 著分担 :病態からみた発生 (a)病態からみた発生序論 1~7 頁,(b)受精から妊娠 8~12 頁,(c)ES細胞 13 頁,(d)全身の発生 14~19 頁,(e)胚葉形成・神経管形成 20~21 頁,(f)奇形の原因, 遺伝子異常と診断 22~24 頁,(g)顔のイントロダクション、頭頸部の形成 25~27 頁,(h)顔面の形成と先天異常 28~32 頁,(i)発育性嚢胞の発生 33~34 頁,(j)歯牙の発生、交換、加齢 35~40 頁,(k)歯周組織の発生と疾患 41~45 頁,(l)歯原性腫瘍、歯原性嚢胞の発生 46~56 頁,(m)歯の発生異常と遺伝子 57~64 頁,(n)舌・唾液腺、甲状腺の発生 65~68 頁,(o)舌・唾液腺、甲状腺の病態 69~80 頁, 南山堂, 東京, 2005. (1)臨検査, (2)生物,(3)超微構造,(4)小児歯,(5)口外,(6)病理,(7)解剖
2. 早川太郎⁽¹⁾(c),(e), 須田立雄⁽²⁾(a),(b),(d),(f), 木崎治俊, 畑 隆一郎⁽³⁾, 高橋信博⁽⁴⁾, 宇田川信之⁽⁵⁾ : 著分担 :口腔生化学 第4版 (a)硬組織の起源とその進化 1~15 頁,(b)骨と歯の形づくりの分子メカニズム 17~30 頁,(c)唾液の生化学 191~212 頁,(d)炎症と免疫 261~286 頁,(e)歯周組織と歯周疾患のなりたち 287~304 頁,(f)がんはどうしてできるか 305~339 頁, 医歯薬出版, 東京, 2005. (1)愛学大・名誉教授,(2)埼玉大・ゲノム医学研究センター, (3)神歯大・口腔生化学,(4)東北大・院歯・口腔生化学,(5)松本歯大・口腔生化学

その他

1. 村松 敬⁽¹⁾, 太田一正, 木崎治俊 : PART3 唾液のはたらき 3-8 オステオポンチンと唾液, 日歯評論(増刊) 唾液による健康づくり, 175~178, 2005. (1)病理
2. 木崎治俊 : 唾液による生体制御機構に関する研究, 平成 13 年度~平成 17 年度私立大学学術研究高度化推進事業(ハイテク・リサーチ・センター)研究成果報告書, 2006. RI 研 細形研,保情研,分子生研,細生研,分析生研,生素研 実動施設

学会抄録

1. Ro,Y.⁽¹⁾, Shibahara,T.⁽¹⁾, Muramatsu,T.⁽²⁾, Shima,K.⁽²⁾, Shimono,M.⁽²⁾, Ohta,K., Yajima,Y.⁽³⁾ : The expression of syndecan-1 in human cancer cell line, The46th Journal of the Korean association of oral and maxillofacial surgeons Program&Abstracts, 244~245, 2005.(The46th Congress the Korean association of oral and maxillofacial surgeons, Kangwon-do,Korea) (1)口外,(2)病理,(3)千病・口腔インプラント
2. 佐々木穂高⁽¹⁾, 村松 敬⁽¹⁾, 太田一正, 君塚隆太⁽²⁾, 橋本貞充⁽¹⁾, 下野正基⁽¹⁾ : GeneChipマイクロアレイによるマウス臼歯歯乳頭・歯髄における遺伝子発現の比較, 歯科学報 **105**(3), 235, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) A87-0160-40 細形研,分子生研 実動施設 (1)病理,(2)微生物
3. 岡本-柴山和子, 鏡 明祥, 佐藤 裕, 木崎治俊 : 口腔細菌等への遺伝子導入を目的とした DNA フラグメントの *in vitro* 構築, 歯科学報 **105**(3), 248, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) A-95-0120-1, HRC5A12, 科学研究費・基盤(C) 分子生研
4. 福山賀子⁽¹⁾, 中川寛一⁽¹⁾, 太田一正, 小田 豊⁽²⁾ : ヒト唾液腺腫瘍細胞株HSG細胞の前初期遺伝子発現に対する Ga-Al-Asダイオードレーザーの影響, 歯科学報 **105**(3), 267, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) HRC5A03 分子生研 (1)保存I,(2)理工
5. 太田一正, 大越林太郎, 佐藤 裕, 木崎治俊 : AICA riboside によるリンパ球アポトーシスの回避機構(2), 痛風と核酸代謝 **29**(1), 35, 2005.(第 38 回日本痛風・核酸代謝学会総会, 東京) A-90-0120-1, 科学研究費・基盤(C) 細生研 実動施設
6. 大越林太郎, 太田一正, 佐藤 裕, 木崎治俊 : 飢餓マウスの胸腺細胞における AMP-activated protein kinase(AMPK)の subunit isoform の発現, 痛風と核酸代謝 **29**(1), 39, 2005.(第 38 回日本痛風・核酸代謝学会総会, 東京) A-90-0120-1, 科学研究費・基盤(C) 分子生研,細生研,分子生研,細生研 実動施設
7. 大越林太郎, 太田一正, 佐藤 裕, 木崎治俊 : 飢餓マウス胸腺細胞の AMP-activated protein kinase (AMPK) subunit isoform の発現機構, 第 14 回日本アポトーシス研究会学術集会抄録集, 57, 2005.(第 14 回日本アポトーシス研究会学術集会, 倉敷市) A-90-0120-1, 科学研究費・基盤(C) 分子生研,細生研 実動施設
8. 富田友美子, 三宅菜穂子⁽¹⁾, 山中すみへ⁽²⁾ : ラットの唾液腺中脂質成分の加齢による変化, 口腔衛会誌 **55**(4), 324, 2005.(第 54 回日本口腔衛生学会総会, 東京) A-89-0120-1 生素研 実動施設 (1)口健臨・補綴科,(2)衛生
9. 大越林太郎, 太田一正, 石川綾子, 佐藤 裕, 木崎治俊 : Expression of 5'-AMP activated protein kinase (AMPK) with starvation in murine thymocytes, 生化学 **77**(8), 823, 2005.(第 78 回日本生化学会大会, 神戸市) A-90-0120-1, 科学研究費・基盤(C) 分子生研,細生研 実動施設
10. 太田一正, 大越林太郎, 石川綾子, 木崎治俊 : Adenosine prevents apoptosis in mouse thymocytes, 生化学 **77**(8), 997, 2005.(第 78 回日本生化学会大会, 神戸市) A-90-0120-1, 科学研究費・基盤(C) 分子生研,細生研 実動施設
11. 佐藤 裕, 鏡 明祥, 岡本-柴山和子, 山本康人, 木崎治俊 : *gbc* gene homologues detected among mutants Streptococci, 生化学 **77**(8), 1064, 2005.(第 78 回日本生化学会大会, 神戸市) A-95-0120-1, HRC5A12, 科学研究費・基盤(C) 分子生研,分子生研

12. 大越林太郎, 太田一正, 佐藤 裕, 木崎治俊 : 飢餓マウスの咬筋および舌筋における AMP-activated protein kinase(AMPK)の発現, J Oral Biosci **47**(Suppl), 77, 2005.(第 47 回歯科基礎医学会学術大会, 仙台市) 科学研究費・基盤(C) 分子生研 実動施設
13. 佐々木穂高⁽¹⁾, 村松 敬⁽¹⁾, 太田一正, 君塚隆太⁽²⁾, 山本 仁⁽³⁾, 鄭翰聖⁽¹⁾, 橋本貞充⁽¹⁾, 下野正基⁽¹⁾ : 出生後のマウス歯乳頭において発現減少をきたす遺伝子のマイクロアレイによる検索, J Oral Biosci **47**(Suppl), 104, 2005.(第 47 回歯科基礎医学会学術大会, 仙台市) A87-0160-40 細形研,分子生研 実動施設 (1)病理,(2)微生物,(3)日大・松戸歯・組織発生・解剖
14. 福山賀子⁽¹⁾, 太田一正, 中川寛一⁽¹⁾, 木崎治俊 : 5'-Aminomidazole-4-carboxamide riboside(AICAR)によるヒト唾液腺腫瘍細胞(HSG)のアポトーシス誘導, J Oral Biosci **47**(Suppl), 118, 2005.(第 47 回歯科基礎医学会学術大会, 仙台市) A-90-0120-1, 科学研究費・基盤(C) 細形研,分子生研,細生研 (1)保存I
15. 岡本-柴山和子, 鏡 明祥, 山本康人, 佐藤 裕, 木崎治俊 : *S. macacae gbpC*ホモログの *S. mutans* における細胞壁ソーティングした発現, J Oral Biosci **47**(Suppl), 138, 2005.(第 47 回歯科基礎医学会学術大会, 仙台市) A95-0120-1, HRC5A12, 科学研究費・基盤(C) 分子生研
16. 山本康人, 鏡 明祥, 佐藤 裕, 木崎治俊 : *Streptococcus mutans* における *cnn*(コラーゲンアドヘシン遺伝子)の分布頻度, J Oral Biosci **47**(Suppl), 139, 2005.(第 47 回歯科基礎医学会学術大会, 仙台市) A95-0120-1, HRC5A12, 科学研究費・基盤(C) 分子生研
17. 太田一正, 大越林太郎, 村松 敬⁽¹⁾, 佐藤 裕, 木崎治俊 : 飢餓マウスの唾液腺におけるAMP-activated protein kinase(AMPK)の発現, J Oral Biosci **47**(Suppl), 183, 2005.(第 47 回歯科基礎医学会学術大会, 仙台市) HRC5A09 分子生研 実動施設 (1)病理
18. Luengpailin,S.⁽¹⁾, Sato,Y., Justus,D.E.⁽²⁾, Doyle, R.J.⁽²⁾, Cowan,M.M.⁽³⁾ : Effects of Manganese on Expression of GbpC of *Streptococcus mutans* :Effects of Manganese on Expression of GbpC of *Streptococcus mutans*, 2005.(The 45th Annual Meeting of Australian/New Zealand Division of the International Association for Dental Research, Queenstown, Australia) A-95-0120-1 on-line, available from(http://iadr.confex.com/iadr/anz05/techprogram/abstract_71722.htm) (1) Khon Kaen University,(2)University of Louisville,(3)Miami University Middletown
19. 富田友美子, 三宅菜穂子⁽¹⁾, 石川博美⁽²⁾ : ラット唾液腺の脂質プロファイル, 第 44 回日本油化学会年会講演要旨集, 123, 2005.(第 44 回日本油化学会年会, 横浜市) A-89-0120-1 生素研 実動施設 (1)口健臨・補綴科,(2)文教大・教育
20. 石川博美⁽¹⁾, 富田友美子, 山中すみへ⁽²⁾ : 日本茶とManukaの脂質組成およびステロール組成の比較, 第 44 回日本油化学会年会講演要旨集, 221, 2005.(第 44 回日本油化学会年会, 横浜市) A-88-0120-1 生素研 (1)文教大・教育,(2)衛生
21. 鏡 明祥, 山本康人, 岡本-柴山和子, 佐藤 裕, 木崎治俊 : *S. sobrinus* のグルカン依存性凝集に関与する遺伝子の検索, 歯科学報 **105**(5), 525, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) A-95-0120-1, HRC5A12, 科学研究費・基盤(C) 分子生研

22. 柴原孝彦⁽¹⁾, 杉戸博記⁽²⁾, 間宮秀樹⁽³⁾, 外木守雄⁽⁴⁾, 橋本貞充⁽⁵⁾, 嶋村一郎⁽⁶⁾, 関口 浩⁽⁷⁾, 澤田 隆⁽⁸⁾, 佐藤 裕, 藤関雅嗣⁽⁹⁾, 高橋義一⁽⁹⁾: これからの歯科学報-「読者アンケート」の結果をふまえて-, 歯科学報 **105**(5), 534, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)口外,(2)保存II,(3)歯麻,(4)市病・オーラルメディスン,(5)病理,(6)補綴III,(7)小児歯,(8)超微構造,(9)東京都
23. 石川博美⁽¹⁾, 富田友美子, 山中すみへ⁽²⁾: 日本茶とManukaの脂質組成およびステロール組成, 日衛誌 **61**(2), 270, 2006.(第 76 回日本衛生学会総会, 宇部市) A-89-0120-1 生素研 (1)文教大・教育,(2)衛生
24. 石原和幸⁽¹⁾, 伊藤理恵子⁽¹⁾, 宮本 暦⁽¹⁾, 宮地弘治⁽¹⁾, 君塚隆太⁽¹⁾, 山中あゆみ⁽¹⁾, 奥田倫子⁽²⁾, 山崎智子⁽³⁾, 佐藤 裕: 唾液中抗体による生体制御機構ー歯周病原性菌に対する防御性sIgA抗体の誘導ー, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 19, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) (1)微生物,(2)保存II,(3)小児歯
25. 小田 豊⁽¹⁾, 下野正基⁽²⁾, 佐藤 亨⁽³⁾, 村松 敬⁽²⁾, 松坂賢一⁽⁴⁾, 三宅菜穂子⁽⁵⁾, 服部雅之⁽¹⁾, 高橋 賢⁽⁶⁾, 太田一正: 唾液腺房細胞の活性化の機序に及ぼすレーザーの影響, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 21~22, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC5A03 細形研,分子生研 (1)理工,(2)病理,(3)補綴II,(4)臨検査,(5)口健臨・補綴科,(6)保存III
26. 橋本貞充⁽¹⁾, 松木美和子⁽¹⁾, 村松 敬⁽¹⁾, 嶋 香織⁽¹⁾, 太田一正, 村上政隆⁽²⁾, 杉谷博士⁽³⁾, 下野正基⁽¹⁾: 唾液腺ー水と蛋白分泌の協調機構・形態/機能/遺伝子発現からの 3 次元的アプローチ, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 28~30, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) A75-016-12 細形研 実動施設 (1)病理,(2)自然科学研究機構,(3)日大・歯・生理
27. 太田一正, 村松 敬⁽¹⁾, 大越林太郎, 木崎治俊: 唾液腺オステオポンチンの組織構築および唾液腺における機能解析, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 34~35, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) A-02-0120-1, HRC5A09 細形研,分子生研 実動施設 (1)病理
28. 佐藤 裕, 岡本-柴山和子, 鏡 明祥, 山本康人: *Streptococcus macacae*(サルミュータンス菌)はヒト口腔に存在しうるだろうか?, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 42~43, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC5A12 分子生研
29. Sato,Y., Kagami,A., Okamoto-Shibayama,K., Yamamoto,Y., Kizaki,H.: Proteins involved in dextran-dependent aggregation of *S. sobrinus*:Proteins involved in dextran-dependent aggregation of *S. sobrinus*, 2006.(The 35th Annual Meeting & Exhibition of the American Association for Dental Research, Orlando, Florida, USA) A-95-0120-1, HRC5A12, 科学研究費・基盤(C),on-line, available from(http://iadr.confex.com/iadr/2006Orld/techprogram/abstract_73059.htm)
分子生研
30. Kagami,A., Okamoto-Shibayama,K., Yamamoto,Y., Sato,Y., Kizaki,H.: Identification of *gbpC* gene homologues in *sobrinus* strain 100-4 :Identification of *gbpC* gene homologues in *S. sobrinus* strain 100-4, 2006.(The 35th Annual Meeting & Exhibition of the American Association for Dental Research, Orlando, Florida, USA) A-95-0120-1, HRC5A12, 科学研究費・基盤(C),on-line, available from (http://iadr.confex.com/iadr/2006Orld/techprogram/abstract_73468.htm)
分子生研

5. 病 理 学 講 座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|----------|----------------|--|
| 教 授 | 下野 正基 | 口腔粘膜および唾液腺の intercellular junction に関する研究 (A75-0160-6) |
| 助 教 授 | 橋本 貞充 | 付着上皮および長い付着上皮の微細構造とその動態に関する研究 (A83-0160-36) |
| 講 師 | 村 松 敬 嶋 香 織 | 口腔腫瘍に対するバイオマーカーの開発 (A02-0160-1) 口腔腫瘍に関する免疫組織細胞化学的および超微構造的 研究 (A79-0160-23) |
| 助 手 | 榎谷 保信 | 歯根膜組織および歯槽骨の動態の解析 (A86-0160-38) |
| PF (HRC) | 松木美和子 | 唾液腺に関する免疫組織細胞化学的および超微構造的 研究 (A75-016-12) |
| 大学院生 | 佐々木穂高 鬼澤 勝弘 | 歯髄組織の動態の解析 (A87-0160-40) 唾液腺に関する免疫組織細胞化学的および超微構造的 研究 (A75-016-12) |
| | 佐藤 弘一 | Osteogenesis と Chondrogenesis (A79-0160-16) |
| | 土谷 穂史 | 歯髄組織の動態の解析 (A87-0160-40) |

2. 成果の概要

- 1) 唾液腺の intercellular junction と唾液分泌機構に関する免疫組織細胞化学的および超微構造的
研究 (A75-0160-6、A75-016-12)

本研究の目的は、唾液腺組織の微細構造や機能を形態学および細胞生物学的に解析し、唾液分泌における細胞

内のタンパク輸送機序や分泌機構を明らかにすることである。開口分泌に伴う分泌顆粒膜との癒合と膜の取り込み機構、および分泌時のタイト結合構成タンパクの変化を検討するために、分泌に伴う細胞小器官や細胞骨格、種々の junction の変化を共焦点レーザー顕微鏡や蛍光顕微鏡、免疫電顕法、凍結超薄切片法、急速凍結フリーズフラクチャー法を用い、捉えることを試みている。共焦点レーザー顕微鏡像や凍結超薄切片免疫電顕の所見から、開口分泌にともなう細胞骨格の再構成の際に、タイト結合の形態、構成タンパクである occludin, ZO-1, claudin の機能や局在が変化して細胞間隙の透過性 (para cellular transport) が亢進することを明らかにした。また、水輸送に関わると考えられる膜タンパクである aquaporin に着目し、分離腺房においてその局在と機能を検索した。

J Membr Biol **203**(3), 119~126, 2005.

2) 付着上皮および長い付着上皮の微細構造とその動態に関する研究 (A83-0160-36)

本研究は、付着上皮および歯周疾患罹患後に形成される長い付着上皮の生物学的特性を明らかにすることを目的としており、その発生、再生あるいは形成過程を通して、これら上皮の動態を把握し、生体防御にどのような役割を果たしているかを検討している。ラットを用いて、形態学的に細胞内小器官や細胞骨格、細胞間結合装置、接着タンパクおよび細胞外マトリックスの変化を解析した結果、付着上皮の歯面への接着に際しては、laminin-5 や integrin $\alpha_6\beta_4$ の発現が重要であることや、露出根面に形成された長い付着上皮は、経時的に短小化し結合繊維付着に置換されること、長い付着上皮細胞の結合繊維側の細胞には増殖能があり、常に活発なターンオーバーを起こすことが示された。本年度は、ヒトケラチノサイト由来細胞やラット口腔粘膜初代培養細胞を用いた系で、細胞外マトリックスの局在を検索した。また、レーザーマイクロダイセクションを用いた分子生物学的検索で、マウス付着上皮表面では、他の口腔上皮と比較して laminin-5 の mRNA の発現が有意に高いことを明らかにしてきた。

J Periodontal Res **40**(4), 354~63, 2005.

J Periodontal Res **41**(8), 15~22, 2006.

3) 歯髄組織の動態の解析 (A87-0160-40)

歯髄組織の発生、加齢変化、象牙芽細胞への分化、種々の物理的、化学的刺激に対する組織反応を検討することにより、歯髄組織の動態、象牙質形成能や歯髄保存の可能性を *in vitro* ならびに *in vivo* の系で検討する。具体的には RNA の発現、局在を検索することにより、培養歯髄細胞に熱刺激を加えた際の細胞間情報伝達能や硬組織形成能の低下は、熱によるギャップ結合構成タンパクの破壊を抑制することで防げることを明らかとした。また、歯髄組織における TRPV やタイト結合の局在、ならびに stem cell の存在を明らかにするため、マウス歯乳頭と歯髄より、歯牙発生に関連する因子をマイクロアレイにて検索・同定し、定量的リアルタイム PCR 法による定量、免疫組織化学染色による局在の検索を行っている。

Int Endod J **38**(11), 817~821, 2005.

Arch Histol Cytol **68**(4), 251~257, 2005.

4) 歯根膜組織および歯槽骨の動態の解析 (A86-0160-38)

本研究は、歯根膜および歯槽骨の持つ特性やその動態を *in vivo* ならびに *in vitro* の系で検索し、歯根膜細胞の骨芽細胞への分化を引き起こす因子の解析や歯槽骨新生のための要因を明らかにすることを目的としている。今年度は、咬合圧（機械的刺激）に対して、歯根膜細胞(PL)はどのように応答するのかを培養細胞に機械的刺激を加えることにより細胞への影響を *in vitro* で再現できる装置であるフレクサーセルを用い、培養細胞に機械的刺激を与え fibronectin、I 型 collagen、Alkaline phosphatase (ALP)、bFGF、BMP-2、BMP4 の mRNA レベルの発現を Lightcycler を用いた QRT-PCR 法にて検索し、歯根膜の恒常性維持との関係を検討した。

5) 口腔腫瘍に関する免疫組織細胞化学的および超微構造的研究 (A79-0160-23)

本研究は、東京歯科大学千葉病院および水道橋病院口腔外科において、細胞診、組織診、手術材料として得られた口腔腫瘍の検体を用いて、病理組織学的に検討するとともに、免疫組織細胞化学的、超微構造的に検索し、腫瘍細胞の特性や腫瘍発生を明らかにしていく。今年度は、歯源性腫瘍や嚢胞などにおいて、細胞骨格を構成する中間径フィラメントや細胞外マトリックスの局在、分布を免疫組織化学的に検索した。

J Oral Pathol Med **34**(5), 280~286, 2005.

6) 口腔腫瘍に対するバイオマーカーの開発 (A02-0160-01)

本研究は、初発の口腔癌と診断された患者のうち、本研究の主旨に同意と承諾を得られた患者から腫瘍組織と正常組織を採取し、口腔癌に対する新しいバイオマーカーを開発することを目的としている。具体的には、得られた組織よりレーザーマイクロダイセクションを用いて正常細胞のみ、癌細胞のみのそれぞれを取りだし、RNA とタンパク質を抽出、マイクロアレイを用いることにより、高度に発現あるいは消失する遺伝子、タンパク質を検索してバイオマーカーを開発する。また、培養において口腔癌細胞と正常ケラチノサイトを用いて、いくつかの因子をスクリーニングし、その発現と機能の変化を検索している。

Int J Oral Surg **35**(3), 252～257, 2005.

3. 学外共同研究

| 担当者 | 研究課題 | 学外研究施設 | | |
|----------------|-------------------------|----------------|----------|--------------|
| | | 研究施設 | 所在地 | 責任者 |
| 下野 正基 | 歯髄内神経ペプチドの機能 | ベローナ大学医学部 | Italy | G. Fumagalli |
| 下野 正基 橋本 貞充 | 分泌細胞におけるカルシウム分布と細胞機能 | ミラノ大学医学部 | Italy | F. Clementi |
| 橋本 貞充 下野 正基 | 歯原性腫瘍の組織発生に関する免疫組織化学的研究 | 延世大学校歯科大学 | 韓国 | J. Kim |
| 橋本 貞充 | 唾液腺における傍細胞輸送の役割と制御 | 自然科学研究機構生理学研究所 | 岡崎市 | 村上 政隆 |
| 橋本 貞充 | 唾液腺における水と唾液蛋白の分泌機構 | 日本大学松戸歯学部生理学講座 | 松戸市 | 杉谷 博士 |
| 村松 敬 | 口腔癌特異的バイオマーカーの開発 | UCLA 歯学部 | U. S. A. | D. Wong |
| 村松 敬 | 歯牙再生に必要な因子の検索 | 延世大学校歯科大学 | 韓国 | H. S. Jung |

4. 科学研究費補助金・各種補助金

| 研究代表者 | 研究課題 | 研究費 |
|-------|--|--------------------------------|
| 下野 正基 | 歯原性間葉に潜在する歯牙形成遺伝子ならびにタンパクの解析 | 大学院整備重点化経費 研究科特別経費 (研究科分) |
| 橋本 貞充 | 水と蛋白分泌の協調機構・形態／機能／遺伝子発現からの3次元的アプローチ | 学術研究高度化推進経費・ハイテクリサーチセンター経費(第5) |
| 村松 敬 | 遺伝子解析ならびにプロテオミクスによる出生前の歯乳頭に潜在する歯牙形成機構の解明 | 文科省科研費・基盤研究(C) |
| 村松 敬 | 口腔癌に対する特異的バイオマーカーの確立 | 大学院整備重点化経費 研究科特別経費 (研究科分) |
| 嶋 香織 | 唾液腺腫瘍構成細胞の分化におけるアクアポリンの関与 | 文科省科研費・若手研究(B) |

5. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

| シンポジスト | 年月日 | 演 題 | 学会名 | 開催地 |
|--------|-------------|--|--|-------------------------|
| 橋本 貞充 | 2005. 9. 28 | 分泌に伴う顎下腺腺房の タイト結合および腺腔側 膜の構造変化 | 第 47 回 歯科基礎医学会学 術大会ならびに総会サテラ イトシンポジウム | 仙台 |
| 村松 敬 | 2005. 9. 18 | Profile of Odontogenesis-related Genes in Prenatal Dental Papilla | International Symposium of Maxillofacial & Oral Regenerative Biology | Oayama, Japan |
| 村松 敬 | 2005. 9. 20 | Damege Escaping System in the Pulp Cell | Dentin/Pulp Complex Meeting 2005 Program | Düsseldor f, Germany |

6. 教育講演等教育に関する業績、活動

教育ワークショップ等

| 氏 名 | 年月日 | ワークショップ名 | 役 割 | 開催地 |
|---------|-----------------|---|---------|------|
| 橋 本 貞 充 | 2005. 7. 15 | 平成 17 年度教育ワークショップ 歯科大学における語学教育 | 作業部会委員長 | 千葉市 |
| 橋 本 貞 充 | 2006. 3. 17~18 | 第 3 回東京歯科大学試験問題作成とセキュ リテイの確保に関するワークショップ | 参加者 | 木更津市 |
| 村 松 隆 | 2005. 7. 15 | 平成 17 年度教育ワークショップ 歯学教育モデル・コア・カリキュラム を踏まえた歯科臨床概論 | 作業部会委員 | 千葉市 |
| 村松 隆 | 2005. 10. 22~23 | 第 1 回東京歯科大学試験問題作成とセキュ リテイの確保に関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 嶋 香 織 | 2005. 10. 22~23 | 第 1 回東京歯科大学試験問題作成とセキュ リテイの確保に関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |

論文

1. Cui,N.⁽¹⁾, Nomura,T.⁽²⁾, Noma,H.⁽²⁾, Yokoo,K.⁽²⁾, Takagi,R.⁽²⁾, Hashimoto,S., Okamoto,M.⁽³⁾, Sato,M.⁽³⁾, Yu,G.⁽¹⁾, Guo,C.⁽¹⁾, Shibahara,T.⁽²⁾ : Effect of YM529 on a model of mandibular invasion by oral squamous cell carcinoma in mice, Clin Cancer Res **11**(7), 2713~2719, 2005. 原著 (1)The First Dept. of Oral and Maxillofac Surg, (2)口外,(3)徳島大・歯・口外Ⅱ
2. 下野正基 : 歯周/Periodontics 歯周組織の再生-クリティカルに考える-, 日顎咬合会誌 **25**(1-2), 72~77, 2005. 原著
3. Shiratori,K., Matsuzaka,K.⁽¹⁾, Koike,Y.⁽¹⁾, Murakami,S.⁽¹⁾, Shimono,M., Inoue,T.⁽¹⁾ : Bone formation β -tricalcium phosphate-filled bone defects of the rat femur:Morphometric analysis and expression of bone related protein mRNA, Biomed Res **26**(2), 51~59, 2005. 総説 学位論文 (1)臨検査
4. Kichi,E., Enokiya,Y., Muramatsu,T., Hashimoto,S., Inoue,T.⁽¹⁾, Abiko,Y.⁽²⁾, Shimono,M. : Cell proliferation, apoptosis and apoptosis-related factors in odontogenic keratocysts and in dentigerous cysts, J Oral Pathol Med **34**(5), 280~286, 2005. 総説 学位論文, A79-0160-23 細形研 (1)臨検査,(2)北医療大・歯・口腔病理
5. Muramatsu,T., Hashimoto,S., Inoue,T.⁽¹⁾, Shimono,M. : Melanotic Schwannoma Arising in the Floor of the Mouth, J Maxillofac Surg **63**(5), 703~706, 2005. 原著 細形研 (1)臨検査
6. Matsuki,M., Hashimoto,S., Shimono,M., Murakami,M.⁽¹⁾, Yoshigaki,J.F.⁽²⁾, Furuyama,S.⁽²⁾, Sugiya,H.⁽²⁾ : Involvement of aquaporin-5 Water Channel in Osmoregulation in Parotid Secretory Granules, J Membr Biol **203**(3), 119~126, 2005. 総説 学位論文, A75-016-12 細形研 実動施設 (1)自然科学機構,(2)日大・松戸歯・生理
7. Kim,J.⁽¹⁾, Cho,S.⁽¹⁾, Lee,M.⁽¹⁾, Hwang,H.⁽¹⁾, Lee,J.⁽¹⁾, Lee,S.⁽¹⁾, Muramatsu,T., Shimono,M., Jung,H. : Inhibitor of connexin 43 alters shh and Bmp-2 expression patterns in embryonic mouse tongue, Cell Tissue Res **320**(3), 409~415, 2005. 原著 (1)延世大・歯・口腔生物
8. Ishikawa,H., Hashimoto,S., Tanno,M.⁽¹⁾, Ishikawa,T.⁽²⁾, Tanaka,T.⁽³⁾, Shimono,M. : Cytoskeleton and surface structures of cells directly attached to the tooth in the rat junctional epithelium, J Periodontal Res **40**(4), 354~363, 2005. 総説 学位論文, A83-0160-36 細形研 実動施設 (1)保存Ⅱ,(2)保存Ⅲ,(3)九大・大学院・硬組織解析
9. Atsuta,I.⁽¹⁾, Yamaza,T.⁽²⁾, Yoshinari,M.⁽³⁾, Goto,T.⁽⁴⁾, Kido,M.⁽²⁾, Kagiya,T.⁽¹⁾, Mino,S.⁽²⁾, Shimono,M., Tanaka,T.⁽²⁾ : Ultrastructural localization of laminin-5 (gamma2 chain) in the rat peri-implant oral mucosa around a titanium-dental implant by immuno-electron microscopy, Biomaterials **26**(32), 6280~6287, 2005. 原著 (1)九大・大学院・口腔機能修復,(2)九大・大学院・口腔常態制御,(3)理工,(4)九歯大・頭頸部構造
10. Muramatsu,T., Hamano,H., Ogami,K.⁽¹⁾, Ohta,K.⁽²⁾, Inoue,T.⁽³⁾, Shimono,M. : Reduction of osteocalcin expression in aged human dental pulp, Int Endod J **38**(11), 817~821, 2005. 原著 分子生研 (1)補綴Ⅰ,(2)生化学,(3)臨検査
11. Okumura,R.⁽¹⁾, Shima,K., Muramatsu,T., Nakagawa,K.⁽¹⁾, Shimono,M., Suzuki,T.⁽²⁾, Magloire,H.⁽³⁾, Shibukawa,Y.⁽²⁾ : The odontoblast as a sensory receptor cell? The expression of TRPV1 (VR-1) channels., Arch Histol Cytol **68**(4), 251~257, 2005. 原著 A95-0090-2 細形研,分子生研,細生研 実動施設 (1)保存Ⅰ,(2)生理,(3)Laboratoire du Developpement des tissus dentaires, EA 1892, IFR 62, Faculte d'Odontologie

12. Tanno,M.⁽¹⁾, Hashimoto,S., Muramatsu,T., Matsuki,M., Yamada,S.⁽¹⁾, Shimono,M. : Differential Localization of Laminin γ 2 and Integrin β 4 in Primary Cultures of the Rat Gingival Epithelium, J Periodontal Res **41**(8), 15～22, 2006. 総説 学位論文 (1)保存II
13. Yoshinari,M.⁽¹⁾, Kato,T.⁽²⁾, Matsuzaka,K.⁽³⁾, Hayakawa,T.⁽⁴⁾, Inoue,T.⁽³⁾, Oda,Y.⁽¹⁾, Okuda,K.⁽²⁾, Shimono,M. : Adsorption behavior of antimicrobial peptide histatin 5 on PMMA, J Biomed Mater Res Part B **77**(1), 47～54, 2006. 原著 細形研,分析生研 (1)理工,(2)微生物,(3)臨検査,(4)日大松戸
14. Yoshinari,M.⁽¹⁾, Hayakawa,T.⁽²⁾, Matsuzaka,K.⁽³⁾, Inoue,T.⁽³⁾, Oda,Y.⁽¹⁾, Shimono,M., Ide,T.⁽⁴⁾, Tanaka,T.⁽⁴⁾ : Oxygen plasma surface modification enhances immobilization of simvastatin acid, Biomed Res **27**(1), 29～36, 2006. 原著 細形研,分子生研,分析生研 (1)理工,(2)日大・松戸歯・生体材料,(3)臨検査,(4)九大・大学院・口腔常態制御
15. Ro,Y.⁽¹⁾, Muramatsu,T., Shima,K., Yajima,Y.⁽²⁾, Shibahara,T.⁽¹⁾, Noma,H.⁽¹⁾, Shimono,M. : Correlation between reduction of sydecan-1 expression and clinico-pathological parameters in squamous cell carcinoma of tongue, Int J Oral Maxillofac Surg **35**(3), 252～257, 2006. 原著 (1)口外,(2)千病・口腔インプラント

解 説

1. 奥田克爾⁽¹⁾, 下野正基 : 最新の唾液研究とヘルスプロモーションへの展望 ―歯科臨床の中で唾液をどう活用するか―, 日歯評論増刊 唾液による健康づくり, 8～16, 2005. (1)微生物

単行図書

1. 井上 孝⁽¹⁾(a),(l),(o), 中村弘明⁽²⁾(b),(e),(g), 太田一正⁽³⁾(c),(d),(m), 渡邊弘樹⁽⁴⁾(d),(n), 関口 浩⁽⁵⁾(f), 大畠 仁⁽⁶⁾(h),(k), 橋本貞充(i),(m),(o), 阿部伸一⁽⁷⁾(j) : 著分担 :病態からみた発生 (a)病態からみた発生序論 1～7 頁,(b)受精から妊娠 8～12 頁,(c)ES細胞 13 頁,(d)全身の発生 14～19 頁,(e)胚葉形成・神経管形成 20～21 頁,(f)奇形の原因, 遺伝子異常と診断 22～24 頁,(g)顔のイントロダクション、頭頸部の形成 25～27 頁,(h)顔面の形成と先天異常 28～32 頁,(i)發育性嚢胞の発生 33～34 頁,(j)歯牙の発生、交換、加齢 35～40 頁,(k)歯周組織の発生と疾患 41～45 頁,(l)歯源性腫瘍、歯源性嚢胞の発生 46～56 頁,(m)歯の発生異常と遺伝子 57～64 頁,(n)舌・唾液腺、甲状腺の発生 65～68 頁,(o)舌・唾液腺、甲状腺の病態 69～80 頁, 南山堂, 東京, 2005. (1)臨検査,(2)生物,(3)生化学,(4)超微構造,(5)小児歯,(6)口外,(7)解剖
2. Barnes,L.⁽¹⁾, James,S.J.⁽²⁾, Shimono,M. : 著分担 :Pathology & Genetics Head and Neck Tumours (a)Onocytic carcinoma 235 頁, IARC Press, Lyon, 2005. WHO Classification of Head and Neck Tumours presented in this book reflects the views of a Working Group that convened for an Editorial and Consensus Conference in Lyon, France, July 16-19, 2003 RI研 脳科学研 (1)International Agency for Research on,(2)Dept.of Otolaryngology, Head and Neck Surger
3. 下野正基編集: 著分担 :スタンダード病理学 (a)循環障害 61～90 頁,(b)炎症 112～140 頁, 学建書院, 東京, 2005.
4. 下野正基, 佐野さつき⁽¹⁾, 佐野 司⁽²⁾, 中村信子⁽³⁾, S.Knowlton⁽⁴⁾ : 共著 :歯科用英語ハンドブッケー即戦力のトレーニングー, 医学情報社, 東京, 2006. (1)池見東京歯科衛生士専門学校,(2)歯放,(3)昭和大・医・看護専門学校,(4)昭和大学

その他

1. 奥村礼二郎⁽¹⁾, 下野正基 : 感染に関連した下歯槽神経麻痺とオトガイ神経麻痺:症例報告, Quintessence **24**(9), 165~168, 2005. 翻訳 (1)保存
2. 村松 敬, 太田一正⁽¹⁾, 木崎治俊⁽¹⁾ : PART3 唾液のはたらき 3-8 オステオポンチンと唾液, 日歯評論(増刊) 唾液による健康づくり, 175~178, 2005. (1)生化学
3. 橋本貞充 : PART3 唾液のはたらき 3-1 唾液はどうやってできるのか?-唾液腺の構造と唾液分泌のメカニズム-, 日歯評論(増刊), 114~126, 2005.

学会抄録

1. Shima,K., Muramatsu,T., Ro,Y.⁽¹⁾, Sazuka,A.⁽²⁾, Shimono,M. : Expression of osteopontin in oral squamous cell carcinoma, Oral Oncology. Supplement **1**(1), 157, 2005.(the 10th International Congress on Oral Cancer, Island of Crete,Greece) A79-0160-23 細形研 (1)口外,(2)東女医大 口外
2. 嶋 香織, 橋本貞充, 佐々木穂高, 村松 敬, 榎谷保信, 下野正基 : 腺性歯原性嚢胞の 6 例, 日病理会誌 **94**(1), 248, 2005.(第 94 回日本病理学会総会, 横浜市) 細形研
3. 村松 敬, 嶋 香織, 河野葉子⁽¹⁾, 安彦善裕⁽²⁾, 橋本貞充, 下野正基 : ヒト口腔癌由来細胞におけるsyndecan-1 の役割, 日病理会誌 **94**(1), 251, 2005.(第 94 回日本病理学会総会, 横浜市) A02-0160-01 細形研,分子生研 (1)昭和 大・歯・口腔病理,(2)北医療大・歯・口腔病理
4. Ro,Y.⁽¹⁾, Shibahara,T.⁽¹⁾, Muramatsu,T., Shima,K., Shimono,M., Ohta,K.⁽²⁾, Yajima,Y.⁽³⁾ : The expression of syndecan-1 in human cancer cell line, The46th Journal of the Korean association of oral and maxillofacial surgeons Program&Abstracts, 244~245, 2005.(The46th Congress the Korean association of oral and maxillofacial surgeons, Kangwon-do,Korea) (1)口外,(2)生化学,(3)千病・口腔インプラント
5. Yamada,M.⁽¹⁾, Ro,Y.⁽¹⁾, Takeda,E.⁽¹⁾, Shibahara,T.⁽¹⁾, Kokubu,E.⁽²⁾, Matsuzaka,K.⁽²⁾, Hashimoto,S. : Cystadenoma arising from the upper lip and floor of the mouth, The 46th Journal of the Korean association of oral and maxillofacial surgeons, 244, 2005.(The 46th Journal of the Korean association of oral and maxillofacial surgeons, Daemyung Vivaldi Park Resort, Korea) (1)口外,(2)臨検査
6. Sasaki,H., Shima,K., Matsuki,M., Enokiya,Y., Muramatsu,T., Inoue,T.⁽¹⁾, Hashimoto,S., Shimono,M. : Expression of laminin-5 integrin-beta4 and syndecan-1 in various type of ameloblastoma, The Korean Journal of Oral and Maxillofacial Pathology **29**(2), 167, 2005.(2nd Asian Society of Oral Maxillofacial Pathology, Seoul, Korea) 細形研 (1)臨検査
7. 片倉 朗⁽¹⁾, 神山 勲⁽¹⁾, 高木 亮⁽¹⁾, 生野貴裕⁽¹⁾, 山田美香⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 村松 敬, 大鶴 洋⁽²⁾ : 唾液を用いた口腔癌のスクリーニング検査の開発, 頭頸部癌 **31**(2), 273, 2005.(第 29 回日本頭頸部癌学会, 東京) (1)口外,(2)東京都

8. 芦澤怜⁽¹⁾, 椎木さやか⁽¹⁾, 武田栄三⁽¹⁾, 内山健志⁽¹⁾, 高野伸夫⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 嶋 香織, 橋本貞充, 松坂賢一⁽²⁾ : ガマ腫を併発した腺房細胞癌の 2 例, 日口腔外会誌 **52**(1), 40, 2005.(第 179 回日本口腔外科学会関東地方会, 松戸市) (1)口外,(2)臨検査
9. 佐々木穂高, 村松 敬, 太田一正⁽¹⁾, 君塚隆太⁽²⁾, 橋本貞充, 下野正基 : GeneChipマイクロアレイによるマウス臼歯歯乳頭・歯髄における遺伝子発現の比較, 歯科学報 **105**(3), 235, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) A87-0160-40 細形研,分子生研 実動施設 (1)生化学,(2)微生物
10. 衣松高志⁽¹⁾, 丹野光恵⁽¹⁾, 正岡孝康⁽¹⁾, 山田 了⁽¹⁾, 橋本貞充, 下野正基 : レーザーマイクロダイセクション法を用いたマウス付着上皮におけるlaminin-5 とintegrin- β 1,- β 4 のmRNA発現について, 歯科学報 **105**(3), 236, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) 細形研 実動施設 (1)保存II
11. 松崎紘一, 嶋 香織, 村松 敬, 盧 靖文⁽¹⁾, 橋本貞充, 下野正基 : 口腔扁平上皮癌組織におけるosteopontinの発現について, 歯科学報 **105**(3), 255, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) A79-0160-23 細形研 (1)口外
12. 衣松高志⁽¹⁾, 丹野光恵⁽¹⁾, 正岡孝康⁽¹⁾, 山田 了⁽¹⁾, 橋本貞充, 下野正基 : マウス上皮細胞におけるlaminin- α 3,- β 3,- γ 2 およびintegrin- β 1,- β 4 のレーザーダイセクション法による解析, 日歯周病会誌 **47**(秋季特別号), 122, 2005.(第 48 回秋季日本歯周病学会学術大会, 札幌市) 細形研 実動施設 (1)保存II
13. 菅原圭亮⁽¹⁾, 山内智博⁽¹⁾, 椎木さやか⁽¹⁾, 武田栄三⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾, 橋本貞充, 嶋 香織 : 頸部に発生した脂肪腫の 1 例, 日口腔外会誌 **51**(8), 430, 2005.(第 178 回日本口腔外科学会関東地方会, 東京都) (1)口外
14. 橋本貞充 : 分泌に伴う顎下腺腺房のタイト結合および腺腔側膜の構造変化, J Oral Biosci **47**(Suppl), 23, 2005.(歯科基礎医学会学術大会ならびに総会, 仙台市) サテライトシンポジウム A75-0160-6 細形研 実動施設
15. 佐々木穂高, 村松 敬, 太田一正⁽¹⁾, 君塚隆太⁽²⁾, 山本 仁⁽³⁾, 鄭翰聖, 橋本貞充, 下野正基 : 出生後のマウス歯乳頭において発現減少をきたす遺伝子のマイクロアレイによる検索, J Oral Biosci **47**(Suppl), 104, 2005.(第 47 回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会, 仙台市) A87-0160-40 細形研,分子生研 実動施設 (1)生化学,(2)微生物, (3)日大・松戸歯・組織・発生・解剖
16. 榎谷保信, 橋本貞充, 鄭翰聖, 田崎雅和⁽¹⁾, 井上 孝⁽²⁾, 安彦善裕⁽³⁾, 下野正基 : ラット歯根膜細胞におけるメカニカルストレスの影響, J Oral Biosci **47**(Suppl), 159, 2005.(第 47 回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 2005, 仙台市) A86-0160-38 細形研,細生研 実動施設 (1)生理,(2)臨検査,(3)北医療大・歯・口腔病理
17. 太田一正⁽¹⁾, 大越林太郎⁽¹⁾, 村松 敬, 佐藤 裕⁽¹⁾, 木崎治俊⁽¹⁾ : 飢餓マウスの唾液腺におけるAMP-activated protein kinase (AMPK) の発現, J Oral Biosci **47**(Suppl), 159, 2005.(第 47 回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会, 仙台市) (1)生化学
18. Matsuzaka,K.⁽¹⁾, Yoshinari,M.⁽²⁾, Shimono,M., Inoue,T.⁽¹⁾ : Behavior of osteoblasts on multi-grooved surface in vitro., Joint Meeting of the CED and NDF of the IADR Abstract, 125, 2005.(Joint Meeting of the CED and NDF of the IADR, Amsterdam, Netherlands) 細形研 実動施設 (1)臨検査,(2)理工

19. 村松 敬, 佐々木穂高, 山本 仁⁽¹⁾, 河野葉子⁽²⁾, 下野正基 : 出生前の歯乳頭に潜在する歯牙形成遺伝子の解析, International Symposium of Maxillofacial & Oral Regenerative Biorogy in OKAYAMA 2005 Program&Abstracts, 184, 2005.(International Symposium of Maxillofacial & Oral Regenerative Biorogy in OKAYAMA 2005, Okayama, Japan) A87-0160-40 細形研,分子生研 実動施設 (1)日大・松戸歯・組織・発生・解剖,(2)昭和大・歯・口腔病理
20. Hoshino,M.⁽¹⁾, Shibukawa,Y.⁽²⁾, Okumura,R.⁽³⁾, Matsuki,M., Muramatsu,T., Ogiuchi,H.⁽¹⁾, Hashimoto,S., Shimono,M. : Expression of tight junction-associated proteins between odontoblasts, Dentin/Pulp Complex Meeting2 005 Program, P-6, 2005.(Dentin/Pulp Complex Meeting 2005, Dusseldorf, Germany) 細形研 (1)東女医大・口外,(2)生理,(3)保存I
21. 大山定男⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾, 高野正行⁽¹⁾, 高崎義人⁽¹⁾, 秋元善次⁽¹⁾, 桑山真寧⁽¹⁾, 橋本貞充, 嶋 香織 : 右側オトガイ孔部に発生した外傷性神経腫の1例, 日口腔外会誌 **51**(Suppl), 152, 2005.(第50回日本口腔外科学会総会, 大阪市) (1)口健臨・口外科
22. Yoshinari,M.⁽¹⁾, Matsuzaka,K.⁽²⁾, Igarashi,T.⁽¹⁾, Inoue,T.⁽²⁾, Oda,Y.⁽¹⁾, Shimono,M. : Cell behavior in carbon-foam scaffold coated with titanium for tissue engineering, Final Program and Abstract Book, 120~121, 2005.(The 8th Annual Meeting of Tissue Engineering Society International, Shanghai,China) (1)理工,(2)臨検査
23. 齋藤健介⁽¹⁾, 村松 敬, 嶋 香織, 下野正基, 中川寛一⁽¹⁾ : 神経成長因子による神経細胞の経日的変化, 歯科学報 **105**(5), 504, 2005.(第280回東京歯科大学学会総会, 千葉市) 細生研 (1)保存I
24. Poveda,M.⁽¹⁾, Matsuki,M., Hashimoto,S., Sakurai,K.⁽¹⁾, Shimono,M. : Expression and localization of aquaglyceroporins;AQP3,AQP7,AQU9 in oral epithelium from rats, 歯科学報 **105**(5), 507, 2005.(第280回東京歯科大学学会総会, Chiba, Japan) (1)補綴I
25. 堤政雄⁽¹⁾, 鈴木憲久⁽¹⁾, 高野伸夫⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 伊藤亜希⁽²⁾, 松崎英雄⁽²⁾, 田中潤一⁽²⁾, 嶋 香織, 松坂賢一⁽³⁾ : 機能障害を伴った巨大な頬皮嚢胞および頬表皮嚢胞の2例, 歯科学報 **105**(5), 517, 2005.(第280回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)口外,(2)都立大塚病院口腔科I,(3)臨検査
26. 柴原孝彦⁽¹⁾, 杉戸博記⁽²⁾, 間宮秀樹⁽³⁾, 外木守雄⁽⁴⁾, 橋本貞充, 嶋村一郎⁽⁵⁾, 関口 浩⁽⁶⁾, 澤田 隆⁽⁷⁾, 佐藤 裕⁽⁸⁾, 藤関雅嗣⁽⁹⁾, 高橋義一⁽⁹⁾ : これからの歯科学報-「読者アンケート」の結果をふまえて-, 歯科学報 **105**(5), 534, 2005.(第280回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)口外,(2)保存II,(3)歯麻,(4)市病・オーラルメディスン,(5)補綴III,(6)小児歯,(7)超微構造,(8)生化学,(9)東京都
27. 松木美和子, 橋本貞充, 道家洋子⁽¹⁾, 村上政隆⁽²⁾, 下野正基, 杉谷博士⁽³⁾ : ラット耳下腺におけるAquaporin-6の局在, 日唾液腺会誌 **46**, 15~16, 2005.(第50回日本唾液腺学会, 東京) A75-016-12 細形研 実動施設 (1)日大・松戸歯・生理,(2)自然科学研究機構,(3)日大・松戸歯・生理学
28. 橋本貞充, 村上政隆⁽¹⁾, 金関 恵⁽²⁾, 杉谷博士⁽³⁾, 松木美和子, 下野正基 : ラット顎下腺腺房における傍細胞輸送経路の透過性とTight Junctionの超微構造変化, 日唾液腺会誌 **46**, 97~98, 2005.(第49回日本唾液腺学会, 東京) A75-0160-6 細形研 実動施設 (1)自然科学研究機構,(2)基礎生物学研究所,(3)日大・松戸歯・生理

29. Enokiya,Y., Hashimoto,S., Muramatsu,T., Jung,H., Tazaki,M.⁽¹⁾, Inoue,T.⁽²⁾, Abiko,Y.⁽³⁾, Shimono,M. : The effect of mechanical stress on rat periodontal ligament cells, Proceedings of 2005-SINO-JAPANESE Conference on Stomatology, 49, 2005.(2005-SINO-JAPANESE Conference on Stomatology, Shanghai,China) A86-0160-38 細形研,細生研 実動施設 (1)生理,(2)臨検査,(3)北医療大・歯・口腔病理
30. Muramatsu,T., Inoue,T.⁽¹⁾, Shimono,M. : Damage Escaping System in the Pulp Cell, Dentin/Pulp Complex Meeting 2005 Program, S-4-3, 2005.(Dentin/Pulp Complex Meeting2005 , Dusseldorf, Germany) A87-0160-40 細形研,分子生研 実動施設 (1)臨検査
31. Muramatsu,T., Hashimoto,S., Inoue,T.⁽¹⁾, Ogawa,I.⁽²⁾, Takata,T.⁽³⁾, Shimono,M. : A case of clear cell variant of mucoepidermoid carcinoma with oncocytic metaplasia, The Korean Journal of Oral and Maxillofacial Pathology **29**(2), 167, 2006.(2nd Asian Society of Oral Maxillofacial Pathology, Seoul,Korea) (1)臨検査,(2)広大病院・臨検,(3)広大・歯・口腔病理
32. Shibukawa,Y.⁽¹⁾, Okumura,R.⁽²⁾, Nakagawa,K.⁽²⁾, Shimono,M., Suzuki,T.⁽¹⁾ : Ca²⁺ Extrusion Mechanisms via KB-R7943 Sensitive Na⁺/Ca²⁺ Exchangers in Rat Odontoblasts :Ca²⁺ Extrusion Mechanisms via KB-R7943 Sensitive Na⁺/Ca²⁺ Exchangers in Rat Odontoblasts, 2006.(Dentin/Pulp Complex Meeting 2005, Dusseldorf, Germany) 細形研,分子生研,細生研 (1)生理,(2)保存I
33. 高久勇一朗⁽¹⁾, 高野正行⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾, 藤田佳子⁽¹⁾, 松坂賢一⁽²⁾, 橋本貞充 : 小児の下顎骨に発生した Aggressive fibromatosis の 1 例, 日本口腔腫瘍学会プログラム・抄録集, 110, 2006.(第 24 回日本口腔腫瘍学会総会, 北九州市) (1)口健臨・口外科,(2)臨検査
34. 大山定男⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾, 高野正行⁽¹⁾, 高崎義人⁽¹⁾, 秋元善次⁽¹⁾, 桑山真寧⁽¹⁾, 橋本貞充, 嶋 香織 : 右側オトガイ孔部に生じた外傷性神経腫の 1 例, 第 10 回口腔顔面神経機能学会プログラム, 5, 2006.(第 10 回口腔顔面神経機能学会, 東京) (1)口健臨・口外科
35. 橋本貞充, 村上政隆⁽¹⁾, 松木美和子, 杉谷博士⁽²⁾, 下野正基 : 開口分泌にともなう顎下腺腺房細胞のタイト結合とアクチン細胞骨格の構造変化, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学センターワークショッププログラム&抄録集, 10, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学センターワークショップ, 千葉市) (1)自然科学研究機構機構,(2)日大・松戸歯・生理
36. 杉谷博士⁽¹⁾, 松木美和子, 橋本貞充, 下野正基 : 耳下腺におけるアクアポリンの発現と機能, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学センターワークショッププログラム&抄録集, 10~11, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学センターワークショップ, 千葉市) (1)日大・松戸歯・生理
37. 小田 豊⁽¹⁾, 下野正基, 佐藤 亨⁽²⁾, 村松 敬, 松坂賢一⁽³⁾, 三宅菜穂子⁽⁴⁾, 服部雅之⁽¹⁾, 高橋 賢⁽⁵⁾, 太田一正⁽⁶⁾ : 唾液腺房細胞の活性化の機序に及ぼすレーザーの影響, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 21~22, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC5A03 細形研,分子生研 (1)理工,(2)補綴II,(3)臨検査,(4)口健臨・補綴科,(5)保存III,(6)生化学
38. 橋本貞充, 松木美和子, 村松 敬, 嶋 香織, 太田一正⁽¹⁾, 村上政隆⁽²⁾, 杉谷博士⁽³⁾, 下野正基 : 唾液腺-水と蛋白分泌の協調機構・形態/機能/遺伝子発現からの 3 次元的アプローチ, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 28~30, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) A75-016-12 細形研 実動施設 (1)生化学,(2)自然科学研究機構,(3)日大・歯・生理

39. 片倉 朗⁽¹⁾, 村松 敬, 石原和幸⁽²⁾, 神山 勲⁽¹⁾, 山田美香⁽¹⁾, 生野貴裕⁽¹⁾, 恩田健志⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 大鶴 洋⁽³⁾: 唾液タンパクが口腔癌に及ぼす影響, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 31~32, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) (1)口外,(2)微生物,(3)国立東京医療センター・口外
40. 井上 孝⁽¹⁾, 松坂賢一⁽¹⁾, 下野正基, 吉成正雄⁽²⁾, 田崎雅和⁽³⁾, 山田 了⁽⁴⁾, 久保周平⁽⁵⁾, 関根秀志⁽⁶⁾, 茂木悦子⁽⁷⁾, 矢島安朝⁽⁸⁾, 新谷益朗⁽⁹⁾, 石崎 憲⁽¹⁰⁾: 唾液検査とオーダーメイド治療, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 33, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) (1)臨検査,(2)理工,(3)生理,(4)保存II,(5)小児歯,(6)口健臨・口腔インプラント科,(7)矯正,(8)千病・口腔インプラント,(9)脳科学研究施設,(10)補綴I
41. 太田一正⁽¹⁾, 村松 敬, 大越林太郎⁽¹⁾, 木崎治俊⁽¹⁾: 唾液腺オステオポンチンの組織構築および唾液腺における機能解析, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 34~35, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) A-02-0120-1, HRC5A09 細形研,分子生研実動施設 (1)生化学

6. 微生物学講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|-------|-------|---|
| 教 授 | 奥田 克爾 | 歯周病原性細菌の研究 (A81-0180-2) |
| 助 教 授 | 加藤 哲男 | 歯周病原性細菌に対するモノクローナル抗体の作製 (A83-0180-1) |
| | 石原 和幸 | 歯周病原性菌の遺伝学的研究 (A89-0180-1) |
| 助 手 | 山中あゆみ | 歯周病原性 <i>Porphyromonas gingivalis</i> の付着因子の解析 (A92-0180-1) |
| | 君塚 隆太 | <i>Actinobacillus actinomycetemcomitans</i> の溶血活性に関する研究 (A93-0180-1) |
| 研究助手 | 宮地 弘治 | <i>Porphyromonas gingivalis</i> Arg - Gingipain A DNA vaccine による防御性抗体の誘導 |
| | 宮本 暦 | <i>Treponema denticola</i> の表層に存在する dentilisin のサイトカインに対する影響の解析 |
| 大学院生 | 阿部 修 | 口腔ケアと気道感染症予防に関する研究 |
| | 山本 勇人 | 乳酸菌 vector による <i>Porphyromonas gingivalis</i> に対する sIgA の誘導 |
| | 古賀 剛人 | 自家骨片移植と細菌感染 |

2. 成果の概要

1) 歯周病原細菌と誤嚥性肺炎 (A81-0180-2, A83-0180-1, A89-0180-1, A93-0180-1)

バイオフィーム (biofilm) 形成している歯周病原性細菌と呼吸器感染との関係についての総説論文である。口腔内に持続して感染して慢性感染症を起こす細菌の菌体成分や代謝産物さらに感染によって変性した宿主由来の成分は、直接あるいは宿主細胞のレセプターにキャッチされたりして血行を介して遠隔の臓器に運ばれさまざまな全身性疾患に関わる。老人での発生頻度も死亡率も高い誤嚥性肺炎は、歯周病原性バイオフィーム形成細菌が唾液中に混入し、不顕性下気道に吸引され、肺胞マクロファージなどに駆逐されず増殖することによって発症する。また、歯周病原性細菌の産生する酵素は、口腔粘膜上皮を破壊するため、風邪ウイルスやインフルエンザウイルスなどに感染しやすくなる。臨床データを加え、歯科医療担当者が呼吸器感染予防に貢献している根拠も示した。

J Periodontol **76**(11 Suppl.), 2154-2160, 2005.

2) HIV 感染予防ワクチンに関する研究 (A81-0180-2)

横浜市立大学大学院分子生体防御学講座との共同研究で HIV 感染予防ワクチンに関する原著論文である。HIV のエンベロープ gp160 タンパク (Ad5/25-HIV) gene を複製が出来ないようにしたアデノウイルス type 5 (Ad5) vector に発現させた DNA ワクチンは、rhesus monkeys ならびに BALB/c mice の実験動物に HIV に対する特異抗体産生を誘導した。この Ad5/35-HIV DNA ワクチンの両実験動物への追加免疫は、その後の HIV 感染を対照群に比べ有意に低下させた。HIV Env gp160 を Ad5 に組み込んだ DNA ワクチンは、臨床応用可能であることを示唆した。

Gene Ther **12**(24), 1769-1777, 2005.

3) 高齢者の舌背の汚れ程度と残存歯の関連性 (A81-0180-2)

本研究は九州歯科大学口腔健康科学部門ならびに内科部門との共同研究で、舌背の細菌と口腔内細菌について調べると共に、85 歳以上の舌背の汚れ程度と残存歯の関連性について調べた。85 歳以上の 89 人の男性と 116 人の高齢者を対象に検討したものである。残存歯の数が多い場合には PCR 法で調べた *Porphyromonas gingivalis*, *Tannerella forsythia*, *Fusobacterium nucleatum*, *Treponema denticola* の検出率が有意に高かったが *Streptococcus mutans* と *Actinobacillus actinomycetemcomitans* には統計学的な違いがみられなかった。また、残存歯が多い場合、舌背からの歯周病原性細菌の検出率が有意に高かった。本研究から、高齢者の舌背の清掃が口腔疾患の予防に有効であろうと指摘している。

Gerodontology **23**(2), 123~126, 2006.

4) 運動は歯周病原細菌内毒素によって誘導される TNF α 産生を抑制した (A83-0180-1, A81-0180-2, A93-0180-1)

マウスを用いて、運動が血清中の IL-6 および TNF α レベルに影響することを確認し、さらに歯周病原細菌内毒素によって誘導される TNF α 産生を抑制することによってエンドトキシン・ショックを防御できるかどうか検討した。5 週齢の雌 BALB/c マウスあるいは C57BL/6 マウスを、運動グループとコントロールグループに分け、運動グループは、回転かご式強制走行装置を用い、1 時間 (5 rpm) 運動させた。運動終了直後、血清中の IL-6 量と TNF α 量を ELISA 法で測定した。その結果、両系統のマウスとも、運動によって血清中 IL-6 レベルは、有意に上昇し ($p < 0.05$, $p < 0.01$)、TNF α レベルは逆に減少していた。BALB/c マウスでは、*A. actinomycetemcomitans* LPS 投与後 15 分で、コントロールでは TNF α の顕著な上昇が見られ、12 時間後には減少していた。運動グループでは TNF α は、検出できなかった。本研究から運動が LPS 投与によって引き起こされる TNF α の産生誘導を抑制し、エンドトキシン・ショックに防御的に作用することが示唆された。またこの TNF α の抑制は、運動によって産生された IL-6 が関わっているものと思われる。

FEMS Immunol Med Microbiol **47**(2), 262~266, 2006.

3. 学外共同研究

| 担当者 | 研究課題 | 学外研究施設 | | |
|-------------------------|---------------------|--|------------------------|-----------------|
| | | 研究施設 | 所在地 | 責任者 |
| 奥田 克爾 石原 和幸 加藤 哲男 | 歯周病原因子の遺伝学的解析 | Department of Oral Biology, State University of New York at Buffalo | Buffalo, New York, USA | H. K. Kuramitsu |
| 奥田 克爾 君塚 隆太 | 歯周病原菌の生態学的特徴と病原性の関係 | Department of Oral Biology, State University of New York at Buffalo | Buffalo, New York, USA | J. J. Zambon |
| 石原 和幸 | 口腔スピロヘータの定着メカニズムの解析 | Dental Research Institute, Faculty of Dentistry, University of Toronto | Toronto, Canada | R. Ellen |

| 担当者 | 研究課題 | 学外研究施設 | | |
|-------|-------------------|--------|-----|-------|
| | | 研究施設 | 所在地 | 責任者 |
| 加藤 哲男 | 唾液タンパクシスタチンの 機能解析 | 新潟工科大学 | 新潟市 | 斎藤 英一 |

4. 科学研究補助金・各種補助金

| 研究代表者 | 研究課題 | 研究費 |
|-------|--|---|
| 奥田 克爾 | 歯周病原菌は ApoE ノックアウトマウスの動脈硬化誘発性サイトカイン産生を起こすか | 文科省科研費・基盤研究(B) |
| 奥田 克爾 | 口腔バイオフィーム感染症と防御免疫 | 大学院整備重点化経費 研究科特別経費(研究科分) |
| 加藤 哲男 | 免疫系をかく乱する歯周病原細菌病原因子とそれを防御する唾液タンパク質の解析 | 文科省科研費・基盤研究(C) |
| 加藤 哲男 | 唾液タンパクの抗菌活性と生体制御能 | 学術研究高度化推進経費・ハイテクリサーチセンター経費(第5) |
| 加藤 哲男 | 歯周病原性バイオフィーム形成と抗菌タンパク質によるその制御 | 日本ワックスマン財団学術研究助成奨励金 |
| 石原 和幸 | 歯周病原性細菌バイオフィーム形成における凝集の役割とその病原性 | 文科省科研費・基盤研究(C) |
| 石原 和幸 | 唾液中抗体による生体制御機構 -歯周病原性細菌に対する防御性 sIgA 抗体の誘導- | 学術研究高度化推進経費・ハイテクリサーチセンター経費(第5) |
| 石原 和幸 | バイオフィーム形成メカニズムの解析による歯周病予防ワクチンの開発 | 土屋文化振興財団助成金 |
| 君塚 隆太 | 歯周病原性 <i>Treponema denticola</i> 血管内皮細胞侵入機構の解析 | 文科省科研費・若手研究(B) |
| 君塚 隆太 | 高齢者口腔ケアは、誤嚥性肺炎・インフルエンザ予防に繋がる | 日本歯科医学会総合的研究推進(歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い) 費 |

5. 研究活動の特記すべき事項

招待講演

| 演 者 | 年月日 | 演 題 | 学会名 | 開催地 |
|-------|--------------|---|---------------------|------|
| 奥田 克爾 | 2005. 11. 12 | 薬では治せない口腔内バイオフィーム感染症 | 第14回日本口腔感染症学会 | いわき市 |
| 奥田 克爾 | 2005. 11. 26 | Ventilator-Associated Pneumonia と口腔内バイオフィーム細菌 | 第10回SIRS/sepsis 研究会 | 東京 |

シンポジウム

| シンポジスト | 年月日 | 演 題 | 学会名 | 開催地 |
|--------|--------------|---|---|-----|
| 石原 和幸 | 2005. 4. 4 | 歯周病原細菌の循環障害への関わり | 第78回日本細菌学会総会 | 東京 |
| 石原 和幸 | 2005. 11. 26 | <i>Treponema denticola</i> 由来デンティリシン | 53rd Annual meeting of Japanese Association for Dental Research | 岡山市 |
| 石原 和幸 | 2005. 12. 4 | クスリで歯周病は治るのですか？ 患者さんからの疑問に答える・ 化学療法剤の臨床応用 | 臨床歯周病学会関東支部第3回細菌検査シンポジウム | 横浜市 |

6. 教育講演等教育に関する業績、活動

教育講演

| 講演者 | 年月日 | 演 題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------|--------------|--|-----------------------|------|
| 奥田 克爾 | 2005. 5. 22 | ストレス解消と健康 | 福祉の美浜区を作る会 | 千葉市 |
| 奥田 克爾 | 2005. 6. 25 | 命さえ狙う口腔内バイオフィルム | 東京歯科大学 信越同窓会 | 新潟市 |
| 奥田 克爾 | 2005. 9. 18 | 健康を脅かす口腔細菌 | 日本歯科衛生士会 感染予防講習 | 大阪市 |
| 奥田 克爾 | 2005. 10. 2 | 口腔疾患と全身疾患をめぐる研究の流れ | 愛知県保険医協会 | 名古屋市 |
| 奥田 克爾 | 2005. 10. 10 | PMTC のためのバイオフィルムの基礎知識 | 臨床歯周病学会 | 東京 |
| 奥田 克爾 | 2005. 10. 28 | 歯科領域におけるEvidenceの重要性 アンチエイジングからみた口腔ケア | コクランライブラリー の評価記念講演 | 東京 |
| 奥田 克爾 | 2005. 10. 30 | 歯科医療現場における感染予防 | 日本歯科技工士会講習会 | 高松市 |
| 奥田 克爾 | 2005. 11. 27 | 歯科医療現場における感染予防 | 日本歯科技工士会講習会 | 津市 |
| 奥田 克爾 | 2005. 12. 3 | ペリオドンタル・メディシン | 東京都歯科医師会学術講演 | 東京 |
| 奥田 克爾 | 2005. 12. 18 | 口腔微生物と全身疾患 | 銚子市歯科医師会学術講演 | 銚子市 |
| 奥田 克爾 | 2006. 1. 28 | 歯科医療現場における感染予防 | 日本歯科技工士会講習会 | 山形市 |
| 奥田 克爾 | 2006. 2. 16 | 口腔内細菌の水平感染・垂直感染 | 日本矯正歯科医会セミナー | 東京 |
| 加藤 哲男 | 2005. 4. 2 | バイオフィルムで交わされる細菌間コミュニケーション | 女医の会主催講習会 | 東京 |
| 加藤 哲男 | 2005. 6. 11 | 歯周病と全身の健康 | シニア電動歯ブラシ体験会講演 | 東京 |
| 加藤 哲男 | 2005. 7. 11 | 全身の健康をむしばむ歯周病 | ジレットプレスセミナー | 東京 |

| 講演者 | 年月日 | 演 題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------|--------------|-----------------------|-------------------------|------|
| 石原 和幸 | 2005. 11. 12 | ホントは怖い口腔細菌 | 須高地区 歯の健康を守る住民の集い | 小布施町 |
| 石原 和幸 | 2005. 11. 12 | 歯周病の見方が変わるバイオフィルムの話 | 東京歯科大学同窓会北多摩支部 | 武蔵野市 |
| 石原 和幸 | 2005. 11. 13 | バイオフィルム感染症と細菌検査 | 〈新潟県歯〉歯科医学大会・新潟県歯公開セミナー | 新潟市 |
| 石原 和幸 | 2005. 1. 15 | 治療が変わるバイオフィルムから見た歯科治療 | 松本歯科大学卒後研修セミナー | 松本市 |

教育ワークショップ等

| 講演者 | 年月日 | ワークショップ名 | 役割 | 開催地 |
|-------|-----------------|--|---------|------|
| 加藤 哲男 | 2005. 7. 15 | 平成 17 年度教育ワークショップ 歯科大学における語学教育 | 作業部会委員 | 千葉市 |
| 加藤 哲男 | 2005. 12. 3～4 | 第 2 回東京歯科大学試験問題作成 とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 石原 和幸 | 2005. 10. 22～23 | 第 1 回東京歯科大学試験問題作成 とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 石原 和幸 | 2005. 12. 3～4 | 第 2 回東京歯科大学試験問題作成 とセキュリティの確保に関するワークショップ | タスクフォース | 船橋市 |
| 君塚 隆太 | 2006. 3. 17～18 | 第 3 回東京歯科大学試験問題作成 とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 木更津市 |

共用試験等

| 氏 名 | 年月日 | 種 別 | 役 割 | 開催地 |
|-------|------------|-------------------------|--------|-----|
| 石原 和幸 | 2006. 2. 9 | 平成 17 年度第 4 学年 CBT | 試験実施委員 | 千葉市 |
| 石原 和幸 | 2006. 3. 8 | 平成 17 年度第 4 学年 CBT 追・再試 | 試験実施委員 | 千葉市 |

論文

1. Okumura,S., Kashiwakura,J.⁽¹⁾, Tomita,H.⁽¹⁾, Matsumoto,K.⁽¹⁾, Nakajima,T.⁽¹⁾, Saito,H.⁽¹⁾, Okayama,Y.⁽¹⁾ : Identification of specific gene expression profiles in human mast cells mediated by Toll-like receptor 4 and Fc ϵ RI, Blood **102**(7), 2547~2554, 2003. 原著 平成 15 年度分 (1)RIKEN Yokohama Institute
2. 奥田克爾, 君塚隆太, 阿部 修, 加藤哲男, 石原和幸, 西條みのり⁽¹⁾ : 口腔ケアによる誤嚥性肺炎予防, 歯科学報 **105**(2), 129~137, 2005. 総説 A81-0180-2, HRC5A01, HRC5A04 分子生研, 細生研 実動施設 (1)歯麻
3. Yonezawa,H., Kato,T., Kuramitsu,H.K.⁽¹⁾, Okuda,K., Ishihara,K. : Immunization by arg-gingipain A DNA vaccine protects mice against *Porphyromonas gingivalis* infection through regulation of interferon- γ production, Oral Microbiol Immunol **20**(4), 259~266, 2005. 原著 分子生研 実動施設 (1)SUNY at Buffalo
4. 前田 亮⁽¹⁾, 石原和幸, 穂坂康朗⁽¹⁾, 中川種昭⁽¹⁾ : 歯周病関連細菌に対する各種抗菌剤の抗菌力について, 日歯周病会誌 **47**(3), 146~152, 2005. 原著 (1)慶大・医・歯口外
5. 奥田克爾 : 健康破綻に関わる口腔内バイオフィルム, 日歯医師会誌 **58**(3), 225~234, 2005. 総説 A81-0180-2
6. Xin,K.⁽¹⁾, Jounai,N.⁽¹⁾, Someya,K.⁽²⁾, Honma,K., Mizuguchi,H.⁽³⁾, Naganawa,S.⁽¹⁾, Kitamura,K.⁽¹⁾, Hayakawa,T.⁽³⁾, Saha,S.⁽¹⁾, Takeshita,F.⁽¹⁾, Okuda,K., Honda,M.⁽²⁾, Klinman,D.M.⁽⁴⁾, Okuda,K.⁽¹⁾ : Prime-boost vaccination with plasmid DNA and a chimeric adenovirus type 5 vector with type 35 fiber induces protective immunity against HIV, Gene Therapy **12**, 1769~1777, 2005. 原著 (1)横浜市大・医,(2)感染研,(3)医薬基盤研,(4)US Food and Drug Administration
7. Okuda,K., Kimizuka,R., Abe,S., Kato,T., Ishihara,K. : Involvement of periodontopathic anaerobes in aspiration pneumonia, J Periodontol **76**(11 Suppl.), 2154~2160, 2005. 総説 A81-0180-2, HRC5A01, HRC5A04 細形研,分子生研,細生研 実動施設
8. Yoshinari,M.⁽¹⁾, Kato,T., Matsuzaka,K.⁽²⁾, Hayakawa,T.⁽³⁾, Inoue,T.⁽²⁾, Oda,Y.⁽¹⁾, Okuda,K., Shimono,M.⁽⁴⁾ : Adsorption behavior of antimicrobial peptide histatin 5 on PMMA, J Biomed Mater Res Part B **77**(1), 47~54, 2006. 原著 細形研,分析生研 (1)理工,(2)臨検査,(3)日大松戸,(4)病理
9. Nakagawa,T.⁽¹⁾, Hosaka,Y.⁽¹⁾, Ishihara,K., Hiraishi,T.⁽²⁾, Sato,S.⁽³⁾, Ogawa,T.⁽³⁾, Kamoi,K.⁽³⁾ : The efficacy of povidone-iodine products against periodontopathic bacteria, Dermatology **212**(Suppl 1), 109~111, 2006. 原著 (1)慶大・医・歯口外,(2)明治製菓,(3)日歯大・歯周病
10. Kato,T., Kaneko,S.⁽¹⁾, Kimizuka,R., Okuda,K. : Periodontopathic bacterial endotoxin-induced tumor necrosis factor α production was inhibited by exercise in mice, FEMS Immunol Med Microbiol **47**(2), 262~266, 2006. 原著 A83-0180-1, HRC5A04 分子生研 実動施設 (1)東歯大・学生
11. Tachibana,M.⁽¹⁾, Yoshida,A.⁽¹⁾, Ansai,T.⁽¹⁾, Takata,Y.⁽²⁾, Akifusa,S.⁽¹⁾, Fukuhara,M.⁽²⁾, Hamasaki,T.⁽¹⁾, Okuda,K., Takehara,T.⁽¹⁾ : Prevalence of periodontopathic bacteria on the tongue dorsum of elderly people, Gerodontology **23**(2), 123~126, 2006. 原著 (1)九歯大・保健医療,(2)九歯大・内科

12. 加藤哲男, 高橋尚子, 水口 清⁽¹⁾, 齋藤英一⁽²⁾, 宝田恭子⁽³⁾, 奥田克爾 : 口腔保健への天然物利用, 日歯医学会誌 **25**, 82～86, 2006. 原著 A83-0180-1, HRC5A04 細形研,分子生研,細生研 (1)法歯,(2)新潟工大,(3)東京
13. 宮地弘治, 石原和幸, 君塚隆太, 加藤哲男, 奥田克爾 : *Porphyromonas gingivalis* Arg-gingipain A DNA vaccine による防御性抗体誘導, 消と免疫 **42**, 42～44, 2006. 原著 分子生研,細生研 実動施設

解 説

1. 奥田克爾, 下野正基⁽¹⁾ : 最新の唾液研究とヘルスプロモーションへの展望 ―歯科臨床の中で唾液をどう活用するか―, 日歯評論増刊 唾液による健康づくり, 8～16, 2005. (1)病理
2. 加藤哲男 : 口腔の健康を守る唾液タンパク質, 日歯評論増刊 唾液による健康づくり , 185～192, 2005. A83-0180-1
3. 石原和幸 : 唾液中の抗体による感染防御, 日歯評論増刊 唾液による健康づくり, 193～200, 2005. A89-0180-1
4. 奥田克爾 : 健康な心と身体は口腔から -3年目の企画について-, 日歯医会誌 **25**, 6～7, 2006. A81-0180-2
5. 阿部 修, 石原和幸, 奥田克爾, 米山武義⁽¹⁾ : 健康な心と身体は口腔から -高齢者呼吸器感染予防の口腔ケア-, 日歯医会誌 **25**, 27～33, 2006. 分子生研 (1)米山歯科
6. 阿部 修, 石原和幸, 足立三枝子⁽¹⁾, 佐々木英忠⁽²⁾, 田中甲子⁽³⁾, 奥田克爾 : 専門的口腔ケアによる唾液内酵素活性の低下とインフルエンザ予防効果, デンタルハイジーン **26**(3), 278～281, 2006. (1)府中市民医療センター,(2)秋田看護福祉大,(3)地域保健研究会
7. 阿部 修, 石原和幸, 足立三枝子⁽¹⁾, 佐々木英忠⁽²⁾, 田中甲子⁽³⁾, 奥田克爾 : 口腔ケアによる細菌性酵素活性の減少とインフルエンザ感染予防, 歯界展望 **107**(3), 498～502, 2006. (1)府中市民医療センター,(2)秋田看護福祉大,(3)地域保健研究会

単行図書

1. 石原和幸(a),中川種昭⁽¹⁾(a): 著分担 :細菌検査を用いた歯周治療のコンセプト ―リスクコントロールとしての抗菌療法― (a)細菌検査・抗菌療法がなぜ必要か 2～13 頁, 医学情報社, 東京, 2005. (1)慶大・医・歯口外
2. 石原和幸(a),(b),(c): 著分担 :細菌のこと知ってください 治癒を目指して (a)歯周炎は伝染するのか 130～132 頁,(b)歯周病原性細菌は全身に影響するのか? 133～137 頁,(c)将来的に歯周病原性ワクチンは可能なのか? 138～141 頁, 永末書店, 東京, 2005.

プロシーディングス

1. 奥田克爾 : ペリオドンタル・メディシン, 歯界展望(特別号), 106, 2005.(第20回日本歯科医学会総会, 横浜市)
2. 石原和幸 : 歯周病原性菌は動脈疾患に関与している, 歯界展望(特別号), 107, 2005.(第20回日本歯科医学会総会, 横浜市) A89-0180-1

その他

1. 奥田克爾：口腔疾患と全身疾患をめぐる研究の流れ，デンタルダイヤモンド **30**(5)，26～28，2005. A81-0180-2
2. 奥田克爾：口腔内バイオフィームとの戦い 1. バイオフィームを知る，デンタルハイジーン **25**(6)，554～557，2005. A81-0180-2
3. 石原和幸，中川種昭⁽¹⁾，二階堂雅彦⁽²⁾，三辺正人⁽³⁾，吉野敏明⁽⁴⁾：歯周治療に細菌検査は必要ですか？，歯界展望 **106**(1)，33～60，2005. (1)慶大・医・歯口外，(2)東京，(3)千葉県，(4)神奈川県
4. 加藤哲男：歯周病原細菌と全身疾患との関連は？，デンタルフロンティア QA(33)，51～52，2005. A83-0180-1
5. 奥田克爾：Ventilator-associated pneumonia と口腔内バイオフィーム細菌，第 10 回 SIRS/sepsis 研究会報告，6～7，2005. A81-0180-2
6. 山中あゆみ：虫歯菌と歯周病菌を抑え口内の健康を守るクランベリー，日経ヘルス(3)，32～33，2006.
7. 奥田克爾：歯周病原菌は ApoE ノックアウトマウスの動脈硬化促進性サイトカイン産生を起こすか，平成 14-17 年度科学研究費補助金研究成果報告書，2006. 科学研究費補助金(基盤研究(B))14370608 細形研，分子生研，細生研 実動施設
8. 加藤哲男：免疫系をかく乱する歯周病原細菌病原因子とそれを防御する唾液タンパク質の解析，平成 15-17 年度科学研究費補助金研究成果報告書，2006. 科学研究費補助金(基盤研究(C))15591948 細形研，分子生研，細生研 実動施設

学会抄録

1. 小林菜穂⁽¹⁾，牛田永子⁽¹⁾，薬師寺 仁⁽¹⁾，奥田克爾，石原和幸：乳歯局所への歯周病原性細菌の感染，小児歯誌 **43**(2)，197，2005.(第 43 回日本小児歯科学会大会および総会，仙台市) (1)小児歯
2. 藤井理絵⁽¹⁾，齋藤百合子⁽¹⁾，中川寛一⁽¹⁾，石原和幸，奥田克爾：根尖性歯周炎細菌の解析，日歯保存誌 **48**(春季特別)，44，2005.(第 122 回日本歯科保存学会春期学会，札幌市) 分子生研 (1)保存I
3. 石原和幸：歯周病原細菌の循環障害への関わり，日細菌誌 **60**(1)，54，2005.(第 78 回日本細菌学会総会，東京) A89-0180-1，HRC5A01 分子生研
4. 石原和幸，宮本 暦，伊藤理恵子，奥田克爾：Dentilisín は *Treponema denticola* と *Tannerella forsythensis* の共凝集に関与する，日細菌誌 **60**(1)，80，2005.(第 78 回日本細菌学会総会，東京) A89-0180-1，HRC5A01 分子生研
5. 君塚隆太，石原和幸，佐々木穂高⁽¹⁾，加藤哲男，奥田克爾：*Treponema denticola*による血管内皮細胞遺伝子発現，日細菌誌 **60**(1)，130，2005.(第 78 回日本細菌学会総会，東京) A93-0180-1，HRC5A01 分子生研 (1)病理

6. 朝比奈美芽⁽¹⁾, 久保田俊也⁽¹⁾, 中村裕昭⁽¹⁾, 栗原伸久⁽¹⁾, 井上芳徳⁽¹⁾, チンイモン⁽¹⁾, 黄 怡⁽¹⁾, 梅田 誠⁽¹⁾, 江石義信⁽¹⁾, 滝沢登一郎⁽¹⁾, 石川 烈⁽¹⁾, 石原和幸, 奥田克爾, 岩井武尚⁽¹⁾: パーリャー病の治療はどうあるべきか 運動,薬物療法,血行再建 パーリャー病変の微細構造と患者の口腔衛生環境の関連について, 日血外科会誌 **14**(3), 336, 2005.(第33回日本血管外科学会, 旭川市) 細形研,分子生研 (1)東医歯大・大学院・歯学総合研
7. 牛田永子⁽¹⁾, 小林菜穂⁽¹⁾, 薬師寺 仁⁽¹⁾, 田中葉子⁽²⁾, 奥田克爾, 石原和幸: 乳幼児*Streptococcus mutans*と*Streptococcus sobrinus*伝播, 小児歯誌 **43**(1), 134, 2005.(第19回日本小児歯科学会関東地方会・大会および平成16年度総会, 松戸市) 分子生研 (1)小児歯,(2)市病・小児科
8. 小林菜穂⁽¹⁾, 牛田永子⁽¹⁾, 薬師寺 仁⁽¹⁾, 奥田克爾, 石原和幸: 乳歯局所の歯周病原性細菌は母親から伝播するか, 小児歯誌 **43**(1), 134, 2005.(第19回日本小児歯科学会関東地方会・大会および平成16年度総会, 松戸市) 分子生研 (1)小児歯
9. 高橋尚子, 加藤哲男, 水口 清⁽¹⁾, 奥田克爾: 口腔内細菌バイオフィーム形成へのウナグレクチンの影響, 歯科学報 **105**(3), 247, 2005.(第279回東京歯科大学学会例会, 千葉市) HRC5A04 分子生研 (1)法歯
10. 清水正樹⁽¹⁾, 田端麻紀子⁽¹⁾, 平石 徹⁽²⁾, 高田利彦⁽¹⁾, 疋田宗生⁽¹⁾, 石原和幸, 中川種昭⁽¹⁾: *Actinobacillus actinomycetemcomitans* biofilmに対するポピドンヨード含嗽剤のin vitro有効性, 環境感染 **20**(Suppl 1), 178, 2005.(第20回日本環境感染学会総会, 神戸市) (1)慶大・医・歯口外,(2)明治製菓
11. 牛田永子⁽¹⁾, 小林菜穂⁽¹⁾, 薬師寺 仁⁽¹⁾, 田中葉子⁽²⁾, 奥田克爾, 石原和幸: 乳幼児における*Streptococcus mutans*と*Streptococcus sobrinus*感染, 小児歯誌 **43**(2), 193, 2005.(第44回日本小児歯科学会大会, 仙台市) 分子生研 (1)小児歯,(2)市病・小児科
12. 宮地弘治, 石原和幸, 君塚隆太, 加藤哲男, 奥田克爾: *Porphyromonas gingivalis* Arg-gingipain A DNA vaccine による防御性抗体誘導, 第42回日本消化器免疫学会総会プログラム・抄録, 28, 2005.(第42回日本消化器免疫学会総会, 東京) HRC5A01 分子生研 実動施設
13. 高橋尚子, 加藤哲男, 石原和幸, 奥田克爾: *Prevotella intermedia* バイオフィームへの抗菌薬の影響, J Oral Biosci **47**(Suppl), 136, 2005.(第47回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会, 仙台市) HRC5A04, HRC5A01 分子生研
14. 山中あゆみ, 石原和幸, 加藤哲男, 奥田克爾: クランベリーポリフェノールは *Porphyromonas gingivalis* のバイオフィーム形成およびcysteine protease 活性を阻害する, J Oral Biosci **47**(Suppl), 137, 2005.(第47回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会, 仙台市) HRC5A04, HRC5A01 分子生研
15. 久保田道也⁽¹⁾, 石原和幸, 牧野麻子⁽¹⁾, 田中公文⁽¹⁾, 楠本正博⁽²⁾, 奥田克爾, 山田 了⁽¹⁾: 喫煙慢性歯周炎患者の歯周局所細菌叢, 日歯周病会誌 **47**(秋季特別号), 84, 2005.(第48回秋季日本歯周病学会学術大会, 札幌市) 分子生研 (1)保存II,(2)東洋紡績
16. 奥田倫子⁽¹⁾, 君塚隆太, 浅井裕之⁽¹⁾, 山田 了⁽¹⁾, 加藤哲男, 石原和幸, 奥田克爾: *Treponema denticola*感染によるHUVECのサイトカイン産生について, 日歯周病会誌 **47**(秋季特別号), 94, 2005.(第48回秋季日本歯周病学会学術大会, 札幌市) 分子生研,細生研 (1)保存II

17. 齋藤貴之⁽¹⁾, 石原和幸, 櫻井 薫⁽¹⁾, 奥田克爾 : *Porphyromonas gingivalis* バイオフィルム形成に対するカテコールアミンの影響(第 2 報), 日補綴歯会誌 **49**(114 回特別), 159, 2005.(第 114 回日本補綴歯科学会, 新潟市) 分子生研 (1)補綴I
18. 齋藤百合子⁽¹⁾, 藤井理絵⁽¹⁾, ハッ橋孝彰⁽¹⁾, 石原和幸, 中川寛一⁽¹⁾, 奥田克爾 : 難治性根尖性歯周炎から分離された細菌のバイオフィルム形成, 日歯保存誌 **48**(秋季特別), 72, 2005.(第 124 回日本歯科保存学会秋期学会, 東京) 分子生研 (1)保存I
19. 牧野麻子⁽¹⁾, 加藤哲男, 高橋尚子, 伊藤明代⁽¹⁾, 林 智子⁽¹⁾, 奥田克爾, 山田 了⁽¹⁾ : ニコチンがサイトカインネットワークと歯周病原細菌バイオフィルムにおよぼす影響, 歯科学報 **105**(5), 526, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) HRC5A04 細形研,分子生研 実動施設 (1)保存II
20. 伊川裕明⁽¹⁾, 澁川義幸⁽²⁾, 石原和幸, 奥田克爾, 鈴木 隆⁽²⁾ : *P. gingivalis*産生cysteine proteinases (gingipain)は骨芽細胞のCa²⁺流入チャネルを抑制する, 歯科学報 **105**(5), 527, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) 分子生研,細生研 (1)東歯大学生,(2)生理
21. 久木留伸享⁽¹⁾, 天谷哲也⁽¹⁾, 大須賀敬悟⁽¹⁾, 加藤純二⁽¹⁾, 高瀬保晶⁽¹⁾, 平井義人⁽¹⁾, 加藤哲男 : 2 波長レーザーによる殺菌効果(第 1 報), 歯科学報 **105**(5), 549, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)保存III
22. 齋藤貴之⁽¹⁾, 石原和幸, 櫻井 薫⁽¹⁾, 奥田克爾 : *Porphyromonas gingivalis* バイオフィルム形成に対するカテコールアミンの影響, 老年歯医 **20**(3), 270, 2005.(第 17 回日本老年歯科医学会総会・学術大会, 東京) 分子生研 (1)補綴I
23. Ishihara,K. : Pathogenicity of dentilisin from *Treponema denticola*, Program and Abstracts of Papers for 53rd annual meeting of the JADR , 68, 2005.(53rd annual meeting of the Japanese Association for Dental Research, Okayama, Japan) A89-0180-1, HRC5A01 分子生研 実動施設
24. 松本直也⁽¹⁾, 宮本 暦, 伊藤理恵子, 石原和幸, 奥田克爾 : 歯周病原菌 *Treponema denticola*と *Tannerella forsythensis*の共凝集, 第 36 回日本嫌気性菌感染症研究会プログラム・講演抄録集, 40, 2006.(第 36 回日本嫌気性菌感染症研究会, 千葉市) HRC5A01 分子生研 (1)東歯大・学生
25. 君塚隆太, 石原和幸, 加藤哲男, 奥田克爾 : 歯周病原性 *Treponema denticola* の血管内皮細胞への entry にはアクチンが関連する, 第 36 回日本嫌気性菌感染症研究会プログラム・講演抄録集, 41, 2006.(第 36 回日本嫌気性菌感染症研究会, 千葉市) A89-0180-1, HRC5A01, HRC5A04 細形研,分子生研,細生研
26. 石原和幸, 宮本 暦, 伊藤理恵子, K.Wawrzzonec⁽¹⁾, L.Shaw⁽²⁾, J.Potempa⁽¹⁾, 奥田克爾 : *Treponema denticola*の IdeS類似タンパク分解酵素の解析, 日細菌誌 **61**(1), 64, 2006.(第 79 回日本細菌学会総会, 金沢市) A89-0180-1, HRC5A01 分子生研 実動施設 (1)Jagiellonian Univ.,(2)Univ. of Georgia
27. 加藤哲男, 高橋尚子, 奥田克爾 : ウナギレクチンの口腔細菌バイオフィルム形成抑制効果, 日細菌誌 **61**(1), 123, 2006.(第 79 回日本細菌学会総会, 金沢市) A83-0180-1, HRC5A04 細形研,分子生研
28. 宮本 暦, 石原和幸, 加藤哲男, 奥田克爾 : *Treponema denticola* dentilisin の IL-1 β , IL-6, TNF α 分解活性, 日細菌誌 **61**(1), 146, 2006.(第 79 回日本細菌学会総会, 金沢市) HRC5A01 分子生研

29. Yamanaka,A., Kouchi,T.⁽¹⁾, Kasai,K.⁽¹⁾, Kato,T., Ishihara,K., Okuda,K. : Inhibitory effect of cranberry polyphenol on proteases of periodontopathic bacteria, J Dent Res **85**(Special Issue A), #1078, 2006.(The 35th Annual Meeting & Exhibition of the American Association for Dental Research, Orlando, USA) CD-ROM, A92-0180-1 分子生研 (1)キッコーマン
30. Okuda,T.⁽¹⁾, Kimizuka,R., Yamada,S.⁽¹⁾, Kato,T., Ishihara,K., Okuda,K. : Cytokine production in HUVECs by *Treponema denticola* infection, J Dent Res **85**(Special Issue A), #616, 2006.(The 35th Annual Meeting & Exhibition of the American Association for Dental Research, Orlando, USA) CD-ROM 分子生研,細生研 (1)保存II
31. 石原和幸, 伊藤理恵子, 宮本 暦, 宮地弘治, 君塚隆太, 山中あゆみ, 奥田倫子⁽¹⁾, 山崎智子⁽²⁾, 佐藤 裕⁽³⁾ : 唾液中抗体による生体制御機構ー歯周病原性菌に対する防御性sIgA抗体の誘導ー, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 19～20, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC5A01 細形研,分子生研,細生研 実動施設 (1)保存II,(2)小児歯,(3)生化学
32. 加藤哲男, 奥田克爾, 水口 清⁽¹⁾, 山中あゆみ, 君塚隆太, 高橋尚子, 伊藤理恵子, 伊藤太一⁽²⁾, 伊藤明代⁽³⁾, 三浦直⁽⁴⁾ : 唾液タンパクの抗菌活性と生体制御能, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 23～24, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC5A04 脳科学研 細形研,分子生研,細生研 実動施設 (1)法歯,(2)千病・口腔インプラント,(3)保存II,(4)RI研

7. 薬 理 学 講 座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|-------|--------|---|
| 教 授 | 川口 充 | 唾液腺機能診断解析のための siRNA と超音波を応用した遺伝子抑制法の開発 (A05-0210-1) |
| 講 師 | 澤木 康平 | ペプチド系薬物の薬物動態学的研究 (A05-0210-2) |
| | 坂井 隆之 | 口腔扁平上皮癌細胞のサバイバルメカニズムとその克服への RNAi の応用 (A04-0210-1) |
| 助 手 | 大久保みぎわ | ラット耳下腺腺房細胞におけるアミラーゼ分泌抑制機構への GABA _A 受容体の関与 (A00-0210-6) |
| | 小菅 康弘 | 唾液腺における GABA _A 受容体の局在性と唾液分泌機能への関与 (A05-0210-4) |
| 大学院生 | 四宮 敬史 | 唾液腺の抹消型ベンゾジアゼピン受容体の細胞生物学的解析についての研究 (A03-0210-1) |
| | 淵 和正 | 唾液腺の抹消型ベンゾジアゼピン受容体の細胞生物学的解析についての研究 (A03-0210-1) |
| 専 攻 生 | 大金 誠 | 唾液腺における GABA 受容体のサブタイプと唾液分泌効果の検索 (A02-0210-6) |
| | 松浦 玄嗣 | 唾液腺の末梢型ベンゾジアゼピン受容体の細胞生物学的解析についての研究 (A03-0210-1) |

2. 成果の概要

1) 歯科専用薬の活性酸素ラジカル消去作用について (A-95-0210-1)

フェノール系化合物 (フェノール、ユーギノール、グアヤコールなど) は、歯髄鎮静作用を有するため古くから歯科臨床において用いられている薬物である。このフェノール系化合物が低濃度で骨原性細胞の細胞機能を亢進することから、フェノール系化合物には細胞を賦活化する作用があることが明らかとなってきた。この細胞賦活化の作用機序の一つとしてフェノール系化合物の活性酸素消去作用が考えられる。この研究では、フェノール系化合物の酸素ラジカルに対する消去作用について調べた。また、フェノール系化合物と作用が類似しているホルムアルデヒドについても調べ、フェノール系化合物と比較した。グアヤコールは、 10^{-9} M から用量依存性に $\bullet\text{OH}$ の消去作用を示した。50% 消去する濃度 (IC_{50}) は、約 5×10^{-6} M であった。フェノールも 10^{-6} M から $\bullet\text{OH}$ の消去作用を示したが、その作用はグアヤコールに比べて弱く、 IC_{50} 値は約 5×10^{-5} M であった。ホルムアルデヒドはさらに消去作用が弱く、 10^{-4} M 以上で消去作用を示し、 IC_{50} 値は約 2×10^{-3} M であった。対照の溶媒として用いた 5×10^{-7} M 濃度の DMSO は、 $\bullet\text{OH}$ の消去作用を示さなかった。フェノール系化合物とホルムアルデヒドの $\bullet\text{OH}$ 消去作用の強度を IC_{50} 値で比較すると、グアヤコールは約 400 倍、フェノールは約 40 倍の強度を示した。グアヤコールの $\bullet\text{OH}$ 消去作用は、グアヤコールと鉄イオンとのキレート作用、過酸化水素との直接的な反応によってもたらされたものではなかった。また、グアヤコールとフェノールは、 $\bullet\text{OH}$ 以外の DPPH ラジカルに対しても消去作用を示した。しかし、その消去作用は、 $\bullet\text{OH}$ に対する作用に比べて弱かった。

以上の結果より、フェノール系化合物、特にグアヤコールには $\bullet\text{OH}$ 消去作用があり、ホルムアルデヒドの $\bullet\text{OH}$ 消去作用はフェノール系化合物に比べて大変弱いことが明らかとなった。また、グアヤコールの $\bullet\text{OH}$ 消去作用を示す濃度と細胞賦活化作用を示す濃度 ($< 10^{-8}$ M) が近似していたことから、グアヤコールの活性酸素消去作用が細胞機能亢進作用に関与していることが示唆された。

Biomed Res **26**(4), 139～145, 2005.

3. 学外共同研究

| 担当者 | 研究課題 | 学外研究施設 | | |
|--------------|--|--|-------------------------|------------|
| | | 研究施設 | 所在地 | 責任者 |
| 川口 充 王 久子 | 歯科口腔領域における遺伝子治療 | Gene Therapy & Therapeutics Branch, NIDCR, NIH | Bethesda, Maryland, USA | B. J. Baum |
| 川口 充 王 久子 | 唾液腺におけるアミノ酸トランスポーターの存在についての分子生物学的解析 | 杏林大学医学部薬理学講座 | 三鷹市 | 遠藤 仁 |
| 川口 充 | 受容体の成長発育に関する分子生物学的解析 Developmental changes in mRNA levels of opioid peptide precursor proteins (OPPPs) and receptors (ORs) in rat stomach and brain | 東海大学医学部薬理学講座 | 伊勢原市 | 岡 哲雄 |

4. 科学研究費補助金・各種補助金

| 研究代表者 | 研究課題 | 研究費 |
|-------|--|--------------------------------|
| 川口 充 | 唾液腺の機能診断および検査技術の展開を目的とした基礎的研究 | 学術研究高度化推進経費・ハイテクリサーチセンター経費(第5) |
| 川口 充 | 個体レベルの唾液腺機能解析のための siRNA と超音波を応用した遺伝子抑制法の開発 | 文科省科研費・萌芽研究 |
| 川口 充 | 遺伝子解析を応用した唾液腺機能診断法の開発 | 学術研究高度化推進経費 共同研究経費 |
| 坂井 隆之 | siRNA と超音波の併用による遺伝子発現抑制を用いた唾液腺診断 | 大学院整備重点化経費 研究科特別経費(研究科分) |
| 坂井 隆之 | アポトーシス抵抗性口腔扁平上皮癌細胞のサバイバルメカニズムとその克服に関する検討 | 文科省科研費・基盤研究(C) |

5. 研究活動の特記すべき事項

主催学会

| | 年月日 | 学会名 | 開催地 |
|------|-------------|-----------------------------------|-----|
| 川口 充 | 2005. 4. 16 | 第6回唾液腺機能診断・回復を目的とした若手研究者の集い(YDRS) | 東京 |

主催セミナー

| 演 者 | 年月日 | 演 題 | セミナー名 | 開催地 |
|---|-------------|---|----------|-----|
| Bruce J Baum (GTTB, NIDCR, NIH、薬理学講 座客員教授) | 2005. 4. 15 | Salivary glands as a potential target tissue for gene therapeuticsofsystemic single protein deficiency disorders | オープンセミナー | 千葉市 |

シンポジウム

| オーガナイザー | 年月日 | 演 題 | 学会名 | 開催地 |
|---------|-------------|------------------------|--------------|-----|
| 川口 充 | 2006. 3. 9 | 性差医療とくすり | 第79回日本薬理学会年会 | 横浜市 |
| 川口 充 | 2006. 3. 10 | 唾液腺のデバイス機能による診断 と治療 | 第79回日本薬理学会年会 | 横浜市 |

| シンポジスト | 年月日 | 演 題 | 学会名 | 開催地 |
|--------|-------------|---|--------------|-----|
| 川口 充 | 2006. 3. 10 | Marker protein of salivary glands and functional diagnosis | 第79回日本薬理学会年会 | 横浜市 |
| 渡邊 正人 | 2006. 3. 10 | Diabetic stress and protective function in salivary gland | 第79回日本薬理学会年会 | 横浜市 |

教育ワークショップ等

| 氏 名 | 年月日 | ワークショップ名 | 役 割 | 開催地 |
|--------|-----------------|--|--------|------|
| 澤木 康平 | 2005. 7. 15 | 平成17年度教育ワークショップ 歯学における準備教育-物質の科学- | 作業部会委員 | 千葉市 |
| 澤木 康平 | 2005. 10. 22~23 | 第1回東京歯科大学試験問題作成とセキュ リテイの確保に関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 坂井 隆之 | 2005. 12. 3~4 | 第2回東京歯科大学試験問題作成とセキュ リテイの確保に関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 大久保みぎわ | 2006. 3. 17~18 | 第3回東京歯科大学試験問題作成とセキュ リテイの確保に関するワークショップ | 参加者 | 木更津市 |
| 小菅 康弘 | 2005. 8. 6~7 | 第18回東京歯科大学カリキュラム研修ワ ークショップ | 参加者 | 千葉市 |

論文

1. Mimura,T., Yazaki,K., Sawaki,K., Ozawa,T.⁽¹⁾, Kawaguchi,M. : Hydroxyl radical scavenging effects of guaiacol used in traditional dental pulp sedation:Reaction kinetic study, Biomed Res **26**(4), 139～145, 2005. 原著 A-95-0210-1 (1)放医研
2. Yoshikawa,M.⁽¹⁾, Andoh,H.⁽²⁾, Ito,K.⁽³⁾, Suzuki,T.⁽³⁾, Kawaguchi,M. : Acute treatment with morphine augments the expression of serine racemase and D-amino acid oxidase mRNAs in rat brain, Eur J Pharmacol **525**(1-3), 94～97, 2005. 原著 A-05-0210-6 (1)東海大・医・薬理,(2)東海大・医・精神科学,(3)東海大・医・麻酔

解説

1. 池田正弘⁽¹⁾, 大浦 清⁽²⁾, 笠島信也⁽¹⁾, 坂上 宏⁽³⁾, 佐藤田鶴子⁽⁴⁾, 澤木康平, 下村博武⁽¹⁾, 鈴木長明⁽¹⁾, 中尾 薫⁽¹⁾, 藤井 彰⁽⁵⁾, 山根源之⁽⁶⁾ : 歯科診療における薬の相互作用, 日歯医師会誌 **58**(7), 619～684, 2005.
(1)日本歯科医師会 薬剤部会委員,(2)大歯大・薬理,(3)明海大・歯・病態診断治療・薬理,(4)日歯大・歯・口腔外科,(5)日大松戸・歯・口腔病態制御・口腔分子薬理,(6)市病・オーラルメディスン

その他

1. 佐藤 裕⁽¹⁾, 見明康雄⁽²⁾, 吉成正雄⁽³⁾, 田崎雅和⁽⁴⁾, 望月隆二⁽⁵⁾, 澤木康平, 西川慶一⁽⁶⁾, 宮下有恒⁽⁷⁾, 武藤由剛⁽⁸⁾, 武本真治⁽³⁾ : 歯学における準備教育－物質の科学－, 平成 17 年度教育ワークショップ報告書, 25～40, 2005. (1)生化学,(2)超微構造,(3)理工,(4)生理,(5)物理,(6)歯放,(7)補綴III,(8)保存III
2. 川口 充 : 唾液による生体防御機構に関する研究「唾液腺の機能診断および検査技術の展開を目的とした基礎的研究－病態生理機構とタンパク発現の変動－」, 平成 13 年度～平成 17 年度私立大学学術研究高度化推進事業(ハイテク・リサーチ・センター)研究成果報告書(2), 1225～1468, 2006. HRC5A13

学会抄録

1. Yoshikawa,M.⁽¹⁾, Ando,H.⁽¹⁾, Kawaguchi,M., Hashimoto,A.⁽¹⁾, Kobayashi,H.⁽¹⁾, Oka,T.⁽¹⁾ : Specific and non-specific effect of antisense-oligo on the mRNA expression in rat brain, The 6th Young Researchers Meeting for Diagnosis and Recovery of Function in Salivary Gland program, 10～11, 2005.(The 6th Young Researchers Meeting for Diagnosis and Recovery of Function in Salivary Gland, Tokyo, Japan) A-05-0210-6 (1)東海大・医・薬理
2. Shinomiya,T., Kawaguchi,M., Sakai,T., Yoshikawa,M.⁽¹⁾ : Comparison of the rat cytokines mRNA among the rat three major salivary glands, The 6th Young Researchers Meeting for Diagnosis and Recovery of Function in Salivary Gland program, 12, 2005.(The 6th Young Researchers Meeting for Diagnosis and Recovery of Function in Salivary Gland, Tokyo, Japan) HRC5A13、A-03-0210-1 分子生研 (1)東海大・医・薬理
3. Kosuge,Y., Ishige,K.⁽¹⁾, Ito,Y.⁽¹⁾ : S-allyl-L-cysteine selectively protects from endoplasmic reticulum stress-induced neuronal death, The 6th Young Researchers Meeting for Diagnosis and Recovery of Function in Salivary Gland program, 13, 2005.(The 6th Young Researchers Meeting for Diagnosis and Recovery of Function in Salivary Gland, Tokyo, Japan) (1)日大・薬・薬理

4. 四宮敬史, 川口 充, 坂井隆之, 吉川正信 : ラット唾液腺におけるマーカープロテインの検索, 歯科学報 **105**(3), 252, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) HRC5A13
5. 坂井隆之, 川口 充, 澤木康平, 大久保みぎわ, 四宮敬史 : ラクトフェリン酵素分解産物の口腔扁平上皮癌細胞へのアポトーシス誘導, 歯科学報 **105**(3), 253, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) A-04-0210-1 RI 研
6. Hashimoto,A.⁽¹⁾, Yoshikawa,M.⁽¹⁾, Andoh,E.⁽¹⁾, Yano,H.⁽¹⁾, Matsuki,H.⁽¹⁾, Kawaguchi,M., Oka,T.⁽¹⁾ : Effects of MK-801 on the gene expression of serine racemase and D-amino acid oxidase and on the D-serine levels in rat brain, 神経化学 **44**(2-3), 179, 2005.(第 48 回日本神経化学会大会, Fukuoka, Japan) (1)東海大・医・薬理
7. 澤木康平, 坂井隆之, 大久保みぎわ, 小菅康弘, 四宮敬史, 宮尾真理子⁽¹⁾, 山崎貴希⁽¹⁾, 剣持正浩⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾, 一戸達也⁽¹⁾ : LC/MSを用いた塩酸ロピバカイン血中濃度測定の検討, 歯科学報 **105**(5), 501, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) A-05-0210-3 生素研 実動施設 (1)歯麻
8. 小菅康弘, 山本 哲⁽¹⁾, 川口 充 : レーザー・マイクロダイセクション法による領域特異性タンパク質の解析, 歯科学報 **105**(5), 503, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) A-05-0210-3 細形研 (1)生理
9. 大久保みぎわ, 川口 充, 坂井隆之, 澤木康平, 小菅康弘, 四宮敬史 : ラット耳下腺腺房細胞に対する百日咳毒素処理方法の検討, 日薬理誌 **126**(4), 2P, 2005.(第 112 回日本薬理学会関東部会, 東京)
10. 澤木康平, 坂井隆之, 大久保みぎわ, 小菅康弘, 四宮敬史, 川口 充 : LC/MS を用いた塩酸ロピバカインの血中濃度測定, 臨薬理 **36**(Suppl), S165, 2005.(第 26 回日本臨床薬理学会年会, 別府市) 実動施設
11. Imai,T.⁽¹⁾, Kosuge,Y., Ishige,K.⁽¹⁾, Ito,Y.⁽¹⁾ : Amyloid β -protein potentiates ER stress-induced neuronal death in organotypic hippocampal slice cultures, The 3rd Takeda Science Foundation Symposium on PharmaSciences Program and Abstracts, 77, 2005.(The 3rd Takeda Science Foundation Symposium on PharmaSciences, Tokyo, Japan) (1)日大・薬・薬理
12. 大久保みぎわ, 川口 充, 坂井隆之, 澤木康平, 四宮敬史 : ラット耳下腺腺房細胞におけるベンゾジアゼピン類によるCa²⁺流入経路の特徴, 歯薬物療 **24**(3), 139, 2005.(第 24 回日本歯科薬物療法学会, 東京)
13. 澤木康平, 川口 充, 坂井隆之, 大久保みぎわ, 四宮敬史 : 塩酸ロピバカインの血中濃度測定 LC/MSを用いた測定条件の検討, 日薬理誌 **127**(1), 4P, 2006.(第 113 回日本薬理学会関東部会, 千葉市) A-05-0210-3 生素研 実動施設
14. 四宮敬史, 川口 充, 坂井隆之, 小菅康弘, 吉川正信 : LPS 誘導性 β ディフェンシン発現に及ぼすジアゼパムの効果, 日薬理誌 **127**(1), 4P, 2006.(第 113 回日本薬理学会関東部会, 千葉市)
15. 坂井隆之, 川口 充, 澤木康平, 大久保みぎわ, 四宮敬史 : 口腔扁平上皮癌細胞における細胞障害抵抗性に関与するフォスホリパーゼ D サブタイプの同定, 日薬理誌 **127**(1), 5P, 2006.(第 113 回日本薬理学会関東部会, 千葉市)

16. 川口 充, 王 久子, 澤木康平, 坂井隆之, 大久保みぎわ, Bruce,B.J., 小菅康弘, 山根源之⁽¹⁾, 山本 哲⁽²⁾, 茂木悦子⁽³⁾ : 唾液腺の機能診断および検査技術の展開を目的とした基礎的研究ー β ディフェンシン、TNF α 、シスタチンS、AQP5 の発現についてー, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 44~45, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC5A13 (1)市病・オーラルメディン,(2)生理,(3)矯正
17. 小菅康弘, 今井 徹⁽¹⁾, 川口 充, 石毛久美子⁽¹⁾, 伊藤芳久⁽¹⁾ : 海馬神経細胞の領域選択的脆弱性における小胞体ストレスの関与, 第 126 年会日本薬学会要旨集, 127, 2006.(第 126 年会日本薬学会, 仙台市) (1)日大・薬・薬理
18. 今井 徹⁽¹⁾, 小菅康弘, 石毛久美子⁽¹⁾, 伊藤芳久⁽¹⁾ : 海馬切片培養系における小胞体ストレス及びNMDAアゴニスト誘発細胞死に対するアミロイド β -ペプチドの細胞死増強機構の検討, 第 126 年会日本薬学会要旨集, 129, 2006.(第 126 年会日本薬学会, 仙台市) (1)日大・薬・薬理
19. Watanabe,M., Izumi,M.⁽¹⁾, Kawaguchi,M., Yamagishi-Wang,H., Okubo,M. : Diabetic stress and protective function in salivary gland, J Pharmacol Sci **100**(Supple 1), 57P, 2006.(The 79th Annual Meeting of The Japanese Pharmacological Society, Yokohama, Japan) (1)矯正
20. Kawaguchi,M., Shinomiya,T., Yoshikawa,M.⁽¹⁾, Kosuge,Y. : Marker protein of salivary glands and functional diagnosis, J Pharmacol Sci **100**(Supple 1), 57P, 2006.(The 79th Annual Meeting of The Japanese Pharmacological Society, Yokohama, Japan) (1)東海大・医・薬理
21. Yoshikawa,M.⁽¹⁾, Hashimoto,A.⁽¹⁾, Kobayashi,H.⁽¹⁾, Kawaguchi,M., Oka,T.⁽¹⁾ : The cronic morphine treatment increases the contents of D-serine in rat brain by regulating the mRNA and protein expressions of serine racemase and D-amino acid oxidase, J Pharmacol Sci **100**(Supple 1), 70P, 2006.(The 79th Annual Meeting of The Japanese Pharmacological Society, Yokohama, Japan) 細形研 (1)東海大・医・薬理
22. Kosuge,Y., Kawaguchi,M., Sawaki,K. : Immunohistochemical study of the GABAergic system in the mechanism of salivary secretion, J Pharmacol Sci **100**(Supple 1), 87P, 2006.(The 79th Annual Meeting of The Japanese Pharmacological Society, Yokohama, Japan) 細形研
23. Imai,T.⁽¹⁾, Kosuge,Y., Ishige,K.⁽¹⁾, Ito,Y.⁽¹⁾ : Characterization of neurotoxicity induced by amyloid β -peptide and tunicamycin in organotypic hippocampal slice cultures, J Pharmacol Sci **100**(Supple 1), 154P, 2006.(The 79th Annual Meeting of The Japanese Pharmacological Society, Yokohama, Japan) (1)日大・薬・薬理
24. Sakai,T., Kawaguchi,M., Sawaki,K., Okubo,M., Kosuge,Y., Shinomiya,T. : Implication of Phospholipase D1 in cell survival against pepsin-digested lactoferrin peptide(s)-induced apoptotic cell death in oral squamous cell carcinoma, J Pharmacol Sci **100**(Supple 1), 180P, 2006.(The 79th Annual Meeting of The Japanese Pharmacological Society, Yokohama, Japan)
25. Takahashi,S.⁽¹⁾, Yoshikawa,M.⁽¹⁾, Andoh,H.⁽¹⁾, Ito,K.⁽¹⁾, Suzuki,T.⁽¹⁾, Kawaguchi,M., Kobayashi,H.⁽¹⁾, Oka,T.⁽¹⁾, Hashimoto,A.⁽¹⁾ : The acute treatment of morphine augments the expression of serine racemase and D-amino acid oxidase mRNAs in rat brain, J Pharmacol Sci **100**(Supple 1), 194P, 2006.(The 79th Annual Meeting of The Japanese Pharmacological Society, Yokohama, Japan) HRC5A13 (1)東海大・医・薬理

26. Osada,N.⁽¹⁾, Kosuge,Y., Ishige,K.⁽¹⁾, Ito,Y.⁽¹⁾ : Increased endoplasmic reticulum stress in the hippocampus of apolipoprotein E-deficient mice after cerebral ischemia and reperfusion, J Pharmacol Sci **100**(Supple 1), 261P, 2006.(The 79th Annual Meeting of The Japanese Pharmacological Society, Yokohama, Japan) (1)日大・薬・薬理

8. 歯 科 理 工 学 講 座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|-------|-------|--|
| 教 授 | 小田 豊 | 歯科用合金の電気化学的耐食性に関する研究 (A95-0240-1) 歯科材料製品の物性調査と改良研究 (A98-0240-1) |
| 助 教 授 | 河田 英司 | 口腔内雰囲気における合着材、充填材の機械的諸性質について (A83-0240-8) 高濃度過酸化水素による生活歯漂白の是非 (A02-0240-1) |
| | 吉成 正雄 | セラミックス薄膜形成技術による金属表面改質 (A83-0240-7) Tissue Engineering 用 Scaffold の生体機能化 (A02-0240-2) Tissue Engineering による顎骨再生 (A05-0240-1) |
| 講 師 | 服部 雅之 | 歯科鑄造用 Ti-Cu 合金の開発 (A99-0240-1) |
| 助 手 | 武本 真治 | Ti 系合金の口腔環境下での界面反応の解明 (A03-0240-1) |
| 大学院生 | 牛込 利彰 | 漂白剤の歯牙への浸透過程の究明 (A04-0240-1) |
| | 河野 敬 | ファイバー補強型ポストによる残存歯質強化に関する力学的検討 (A05-0240-2) |
| 専 攻 生 | 野口 竜実 | 歯科材料製品の物性調査と改良研究 (A98-0240-1) |

2. 成果の概要

1) 歯科材料製品の物性調査と改良研究 (A98-0240-1)

ファイバーポストの維持力に影響する因子を明らかにするために2種類のファイバーポストを用い、直接法と直接・間接法で支台築造した場合のポストの維持力を引き抜き試験により比較検討した。その結果、試作 i-TFC または市販の FibreKor のいずれの場合でも、直接・間接法の方が直接法よりもポスト維持力大きいことが明らかになった。この要因としては、直接法によるレジンセメントの重合収縮ならびにレジンの重合度が影響しているものと考えられた。また、FibreKor よりも試作 i-TFC の維持力が大きくなった。この原因としては、ポストとレジンの接着力が影響したものと考えられた。

Dent Mater J **24**(2), 280~285, 2005.

2) 高濃度過酸化水素による生活歯漂白の是非 (A02-0240-1)

高濃度過酸化水素が歯質におよぼす影響を明らかにすることを目的として、高濃度過酸化水素溶液を応用したエナメル質表面の形態および機械的性質への影響を検討した。牛歯エナメル質に種々の時間応用した過酸化水素溶液中のカルシウムおよびリン濃度については、短時間でカルシウム、リンが溶出していることがわかった。時間の増加に伴って溶解するカルシウムおよびリンの量が増加した。SEM 像において、非漂白面では研磨による傷が認められるのみであったが、漂白面ではエナメル小柱の走行に沿った小柱鞘部分の溶解によると思われる粗大な像が認められた。漂白面のエナメル質表面の平均粗さについては、10 分間では、非漂白面と漂白面との粗さには差が認められなかった。エナメル質表面の硬さは、30 分間で漂白面の方が非漂白面と比較し、低くなった。

エナメル質の粗細化と表面の光沢度の関係について、精密光沢計を用い測定している。

3) セラミックス薄膜形成技術による金属表面改質 (A83-0240-7)

ドライプロセス法による薄膜形成技術を生体材料に応用すべく、各種薄膜を付与しそれらの物性を調査するとともに、細菌付着抑制能を検討した。具体的には、本年度は、PMMA をスピンコーティングした各種基板に対し、プラズマ表面改質装置を用いて酸素および窒素によるプラズマ処理を行い、表面の特性評価、抗菌性唾液ペプチド Histain-5 の吸着特性、および *Candida albicans* 培養試験を行った。処理面の特性評価は、水の接触角の測定、ゼータ電位の測定、X線光電子分光 (XPS)、フーリエ変換赤外分光 (FT/IR-RAS) による官能基の同定を行った。Histain-5 の吸着特性に及ぼす各種表面処理法の影響は、水晶発振子マイクロバランス (QCM-D) 測定装置を用いて検討した。さらに、*C. albicans* の初期吸着と Biofilm 形成能の検討を、QCM-D 法および SEM 観察にて行った。その結果、酸素および窒素によるプラズマ処理により水の接触角がほぼ 0° となり、超親水性を示した。ゼータ電位は全ての表面で -30mV 前後の値を示し、プラズマ処理により変化しなかった。XPS と FT/IR-RAS 分析により、表面にはカルボキシル基 (酸素プラズマ) およびアミノ基 (窒素プラズマ) の導入が確認された。Histain-5 の吸着量は、酸素および窒素プラズマ処理により未処理面の約 6 倍に増加した。*C. albicans* の初期吸着量は、酸素プラズマ処理により増加しなかったものの、増殖量は本処理により著しく阻害された。以上より、PMMA への酸素プラズマ処理は表面に官能基を導入することにより、Histain-5 の吸着量を増加させ、結果的に *C. albicans* の増殖を阻害することが明らかとなった。

J Biomed Mater Res B **77**(1), 47~54, 2006.

4) Tissue Engineering 用 Scaffold の生体機能化—タンパク質固定化技術の確立— (A02-0240-2)

(1) チタン多孔体 Scaffold : 200-500 μm の孔径を有するチタン多孔体に酸素プラズマ処理を施した後 rhBMP-2 を固定した。これらのチタン多孔体 Scaffold をラット大腿骨へインプラントし、Scaffold 内部の骨形成能を検討した。その結果、細胞は Scaffold 内部にも認められ 200-500 μm の孔径は細胞の移動・侵入に十分な孔径であることが確認された。また、rhBMP-2 を固定した Scaffold 内においては 1 週間で骨形成が認められた。

(2) Simvastatin の局所投与 : 上記 rhBMP-2 を始めとした機能性タンパクの利用はその有用性が報告されているが、コストの高さや免疫の問題を有している。最近、高脂血症治療薬シンバスタチン (Simvastatin) が骨芽細胞の BMP-2 産生を促進することが報告されており、本剤をチタンインプラント材に固定することが可能になれば早期の骨形成が期待される。そこで、各種プラズマ処理を施したチタン表面に対し、本剤の吸着特性を水晶発振子マイクロバランス法により評価し、表面性状との関係を精査した。その後、ラット頸骨へ埋入した *in vivo* 実験を行った。その結果、各種プラズマ処理を施したチタン表面に対する Simvastatin の吸着特性を検討した結果、HMDSO コーティング後の酸素プラズマ処理は表面に酸素官能基を形成し、チタンへのシンバスタチン (open acid 体) の固定に有効であることが明らかとなった。またシンバスタチン固定インプラントは初期の骨形成に有利に働くことが明らかとなった。

J Biomed Mater Res B **73**(2), 271~276, 2005.

J Oral Tissue Eng **3**(1), 17~24, 2005.

Biomaterials **26**(32), 6280~6287, 2005.

Biomed Res **27**(1), 29~36, 2006.

5) 歯科鑄造用 Ti-Cu 合金の開発 (A99-0240-1)

チタンは耐食性や生体親和性に優れる反面、融点が高く、活性が高い金属であることが知られている。その中でもチタン-銅 (10%含有) 合金は、チタンの融点低下ならびに研削性向上の観点から有用なことは既に報告してきた。しかし歯科鑄造用として使用するには機械的性質、特に延性の改善が必要であり、三元合金化による検討を行っている。現在までに Si、Cr、Zr の添加効果について検討を行い、Cr を微量添加することで延性の向上が認められたが、臨床応用の上ではさらなる改善が必要であることを明らかにした。さらに添加元素として Pd に着目し機械的性質の評価を行ったところ、1.0~5.0mass%の添加による耐力および引張強さに顕著な差異は認められなかったものの、伸びは増加する傾向を示した。特に 5.0mass%添加試料では Ti - 10Cu 二元合金と比較し有意に大きな伸びを示したことから臨床応用への可能性が示唆された。

6) Ti 系合金の口腔環境下での界面反応の解明 (A03-0240-1、A99-0240-1、A95-0240-1)

(1) チタン系合金の優れた耐食性は、表面に形成する不動態被膜に由来することが知られている。しかし、齧蝕予防剤に含まれているフッ化物は、チタン酸化物を主とする不動態被膜を破壊し、チタンの耐食性を減少させることが報告されている。したがって、フッ化物に対して耐食性が優れたチタン系合金の開発が望まれている。現在までにタンパク質とフッ化物が存在する環境下にチタンがさらされた際の界面反応を検討し、チタン表面に形成したタンパク質吸着層が、フッ化物に対する耐食性を向上させていることを明らかにした。さらに、クロムを添加したチタン系合金は、クロムとチタンの不動態被膜を形成することでフッ化物に対する耐食性を向上させることを明らかにした。

(2) チタン系合金がフッ化物に対して耐食性が低下することが報告されて以来、抗フッ化物用チタン合金の開発が望まれている。本研究では、チタンにクロムを添加した Ti-Cr 合金を作製し、フッ化物に対する電気化学的耐食性および表面組成を検討した。その結果、市販の純チタンと比較して、試作した Ti-Cr 合金は電気化学的耐食性に優れるとともに溶出金属元素が少ないことを明らかにした。さらに、その表面組成はフッ化物溶液中でクロムリッチな状態になり、耐食性を向上させることを明らかにした。

Biomaterials **26**(8), 829~837, 2005.

3. 学外共同研究

| 担当者 | 研究課題 | 学外研究施設 | | |
|---------------|------------------------------------|-------------------------|----------------------|---------------|
| | | 研究施設 | 所在地 | 責任者 |
| 小田 豊 服部 雅之 | 歯科鑄造用 Ti-Cu 合金の開発 | ベイラー歯科大学・生体材料 | Dallas (USA) | 岡部 徹 |
| 河田 英司 | 乳歯象牙質の特性を考慮した接着性レジジンシステムの開発 | 長崎大学・歯・小児歯科 | 長崎市 | 細矢由美子 |
| 吉成 正雄 | 骨粗鬆症治療薬 Bisphosphonate のインプラントへの応用 | 九州大学大学院歯学研究院・口腔常態制御学 | 福岡市 | 田中 輝男 |
| 吉成 正雄 | リン酸カルシウム薄膜形成による歯科インプラント材の表面改質 | ナイメヘン大学・生体材料 | Nijmegen, Netherland | John A Jansen |
| 吉成 正雄 | 口腔粘膜疾患発症と歯科用金属の関連についての臨床的検討 | 慶応義塾大学・医学部・歯科口腔外科 | 東京 | 永井 哲夫 |
| 武本 真治 | 新規歯科鑄造用チタン合金の作製とその表面分析 | 東北大学金属材料研究所・附属金属ガラスセンター | 仙台市 | 木村 一道 |

4. 科学研究費補助金・各種補助金

| 研究代表者 | 研究課題 | 研究費 |
|-------|-------------------------------------|--------------------------------|
| 小田 豊 | 歯科用チタン合金の EQCA（マイクロバランス）による腐食・変色評価 | 文科省科研費・基盤研究(B) |
| 小田 豊 | 唾液腺房細胞の活性化の機序におよぼすレーザー照射の影響 | 学術研究高度化推進経費・ハイテクリサーチセンター経費(第5) |
| 河田 英司 | 生活歯漂白はエナメル質表層のみの白濁化では達成できない | 文科省科研費・基盤研究(C) |
| 河田 英司 | コンポジットレジンの色調安定性 | 日本歯科医師会 |
| 吉成 正雄 | Bisphosphonate の局所投与によるインプラント周囲骨の改善 | 文科省科研費・基盤研究(C) |
| 吉成 正雄 | 唾液タンパク質の吸着特性を制御した生体新素材の開発 | 学術研究高度化推進経費・ハイテクリサーチセンター経費(第5) |
| 服部 雅之 | 添加元素による歯科鑄造用チタン銅合金の物性改良 | 文科省科研費・若手研究(B) |
| 武本 真治 | 生体分子修飾によりチタンは防食可能か？ | 文科省科研費・若手研究(B) |
| 牛込 利彰 | 漂白剤の歯牙への浸透過程の究明 | 大学院整備重点化経費・研究科特別経費(学生分) |

5. 研究活動の特記すべき事項

受 賞

| 受賞者名 | 年月日 | 賞 名 | テーマ | 学会・団体名 |
|-------|--------------|---------------------------|---|-----------------------------------|
| 武本 真治 | 2005. 7. 12 | 平成 17 年度 東京歯科大学学長奨励研究賞 | Corrosion behavior and surface characterization of titanium in solution containing fluoride and albumin | 東京歯科大学 |
| 武本 真治 | 2005. 9. 15 | 日本歯科理工学会研究奨励賞 | フッ化物耐食性 Ti-Cr 合金の開 発 | 日本歯科理工 学会 |
| 武本 真治 | 2005. 11. 27 | DMGC-J 賞 | フッ化物溶液中でのチタンの 耐食性におよぼすアルブミン の影響 | 国際歯科研究 学会・歯科材料 グループ日本 部会 |

シンポジウム

| シンポジスト | 年月日 | 講演演題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|--------|--------------|--------------------------------|--|-----|
| 小田 豊 | 2005. 11. 24 | 歯科理工学と歯科保存学の接点 | 日本歯科保存学会 50 周年 記念大会 | 東京 |
| 吉成 正雄 | 2005. 10. 16 | 早期荷重・即時荷重を成功させるための 表面改質 | 第 280 回東京歯科大学学 会 | 東京 |
| 吉成 正雄 | 2006. 3. 3 | 唾液タンパク質の吸着特性を制御 した 生体新素材の開発 | 平成 17 年度東京歯科大学口 腔科学研究センター ワー クショップ | 千葉市 |

学会等招待講演

| 講演者 | 年月日 | 演 題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------|--------------|--|---------------------------------|-------|
| 小田 豊 | 2005. 11. 30 | 「Research Topics of Dental Materials」 | 第 24 回 IADR 韓国部会 (KADR) 年次大会 | Seoul |
| 吉成 正雄 | 2005. 6. 2 | 電気化学的腐食測定法からみる歯科用 合金の耐食性 | 昭和歯学会セミナー | 東京 |
| 吉成 正雄 | 2005. 6. 17 | 表面改質による歯科インプラントの生 体機能化 | 癌研究所蛋白創製研究部 主催セミナー | 東京 |

6. 教育講演等教育に関する業績、活動

教育講演

| 講演者 | 年月日 | 演 題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------|--------------|--------------------------------|--------------------|-----|
| 小田 豊 | 2005. 12. 19 | シラバスとは？ | 第 48 回歯科医学教育セミナー | 千葉市 |
| 河田 英司 | 2005. 5. 23 | 多肢選択式試験問題および共用試験 CBT 問題の作成について | 第 42 回歯科医学教育セミナー | 千葉市 |
| 河田 英司 | 2005. 9. 26 | 特色 GP, 現代 GP について | 第 45 回歯科医学教育セミナー | 千葉市 |
| 河田 英司 | 2005. 10. 31 | 特色 GP, 現代 GP の課題募集 | 第 46 回歯科医学教育セミナー | 千葉市 |
| 河田 英司 | 2005. 12. 19 | Web シラバスシステムについて | 第 48 回歯科医学教育セミナー | 千葉市 |
| 河田 英司 | 2006. 2. 16 | この仮封材が一番？ | 東京医科歯科大学 | 東京 |
| 河田 英司 | 2006. 2. 23 | 高濃度過酸化水素による漂白の是非 | 日本歯科理工学会関東支部春季セミナー | 東京 |

教育ワークショップ等

| 氏 名 | 年月日 | ワークショップ名 | 役 割 | 開催地 |
|-------|-----------------|---|--------------|------|
| 小田 豊 | 2005. 5. 21～22 | 第 17 回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ | 運営委員・タスクフォース | 千葉市 |
| 小田 豊 | 2005. 8. 6～7 | 第 18 回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ | 運営委員・タスクフォース | 千葉市 |
| 小田 豊 | 2005. 11. 19～20 | 第 19 回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ | 運営委員・タスクフォース | 千葉市 |
| 小田 豊 | 2005. 10. 22～23 | 第 1 回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 運営委員 | 船橋市 |
| 小田 豊 | 2005. 12. 3～4 | 第 2 回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 運営委員 | 船橋市 |
| 小田 豊 | 2006. 3. 17～18 | 第 3 回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 運営委員 | 木更津市 |
| 河田 英司 | 2005. 5. 21～22 | 第 17 回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ | タスクフォース | 千葉市 |
| 河田 英司 | 2005. 7. 15 | 平成 17 年度教育ワークショップ 歯学教育モデル・コア・カリキュラムを踏まえた歯科臨床概論 | 作業部会委員 | 千葉市 |
| 河田 英司 | 2005. 8. 6～7 | 第 18 回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ | タスクフォース | 千葉市 |

| 氏 名 | 年月日 | ワークショップ名 | 役 割 | 開催地 |
|-------|-----------------|---|---------|------|
| 河田 英司 | 2005. 9. 17～18 | 茨城県歯科医師会歯科医師臨床研修指導者講習会 | タスクフォース | 水戸市 |
| 河田 英司 | 2005. 10. 17 | 平成 17 年度「特色ある大学教育支援プログラム」フォーラム | ポスター発表 | 横浜市 |
| 河田 英司 | 2005. 10. 22～23 | 第 1 回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 運営委員 | 船橋市 |
| 河田 英司 | 2005. 11. 19～20 | 第 19 回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ | タスクフォース | 千葉市 |
| 河田 英司 | 2005. 11. 23 | 平成 17 年度「特色ある大学教育支援プログラム」フォーラム | ポスター発表 | 京都市 |
| 河田 英司 | 2005. 12. 3～4 | 第 2 回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 運営委員 | 船橋市 |
| 河田 英司 | 2006. 3. 4 | 平成 17 年度「現代 GP フォーラム」 | ポスター発表 | 東京 |
| 河田 英司 | 2006. 3. 17～18 | 第 3 回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 運営委員 | 木更津市 |
| 吉成 正雄 | 2005. 7. 15 | 平成 17 年度教育ワークショップ 歯学における準備教育-物質の科学- | 作業部会委員 | 千葉市 |
| 吉成 正雄 | 2006. 12. 3～4 | 平成 17 年度第 2 回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 服部 雅之 | 2005. 7. 15 | 平成 17 年度教育ワークショップ 歯学教育モデル・コア・カリキュラムを踏まえた歯科臨床概論 | 作業部会委員 | 千葉市 |
| 服部 雅之 | 2005. 10. 22～23 | 平成 17 年度第 1 回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 武本 真治 | 2005. 7. 15 | 平成 17 年度教育ワークショップ 歯学における準備教育-物質の科学- | 作業部会委員 | 千葉市 |
| 武本 真治 | 2006. 3. 17～18 | 平成 17 年度第 3 回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 木更津市 |

共用試験等

| 氏 名 | 年月日 | 種 別 | 役 割 | 開催地 |
|------|-------------|---------------------|--------|-----|
| 小田 豊 | 2006. 2. 9 | 平成 17 年度第 4 学年 CBT | 運営委員 | 千葉市 |
| 小田 豊 | 2006. 2. 26 | 平成 17 年度第 4 学年 OSCE | 運営副委員長 | 千葉市 |

| 氏 名 | 年月日 | 種 別 | 役 割 | 開催地 |
|-------|--|-----------------------------------|------------------------------------|-----|
| 河田 英司 | 2005. 6. 3 | 鶴見大学歯学部 平成 17 年度第 5 学年 CBT | モニタリング委員 | 横浜市 |
| 河田 英司 | 2005. 7. 15～17, 8. 18～20, 9. 2～3 | 医療系大学間共用試験実施評価機構 CBT ブラッシュアップ | 共用試験実施評価機構 歯学系 CBT 実施小委員会 委員 | 東京 |
| 河田 英司 | 2005. 8. 24 | 日本歯科大学新潟歯学部 平成 17 年度第 5 学年 CBT | モニタリング委員 | 新潟市 |
| 河田 英司 | 2006. 1. 24～25 | 昭和大学歯学部 平成 17 年度第 4 学年 CBT | モニタリング委員 | 東京 |
| 河田 英司 | 2006. 2. 9 | 平成 17 年度第 4 学年 CBT | 運営委員 | 千葉市 |
| 河田 英司 | 2006. 2. 26 | 平成 17 年度第 4 学年 CBT | 実施責任者 | 千葉市 |
| 河田 英司 | 2006. 3. 8 | 平成 17 年度第 4 学年 CBT 追・再試験 | 運営委員 | 千葉市 |
| 服部 雅之 | 2006. 2. 9 | 平成 17 年度第 4 学年 CBT | 試験実施委員 | 千葉市 |
| 服部 雅之 | 2006. 3. 8 | 平成 17 年度第 4 学年 CBT 追・再試験 | 試験実施委員 | 千葉市 |

論文

1. Atsuta, I.⁽¹⁾, Yamaza, T.⁽²⁾, Yoshinari, M., Mino, S.⁽²⁾, Goto, T.⁽³⁾, Kido, M.⁽²⁾, Terada, Y.⁽¹⁾, Tanaka, T.⁽²⁾ : Changes in the distribution of laminin-5 during peri-implant epithelium formation after immediate titanium implantation in rats, *Biomaterials* **26**(14), 1751~1760, 2005. 原著 HRC5A10 分析生研 (1)九大・大学院・口腔機能修復,(2)九大・大学院・口腔常態制御,(3)九歯大・頭頸部構造
2. Hayakawa, T.⁽¹⁾, Yoshinari, M., Nemoto, K.⁽¹⁾ : Quartz crystal microbalance-dissipation technique for the study of initial adsorption of fibronectin onto tresyl chloride-activated titanium, *J Biomed Mater Res B* **73**(2), 271~276, 2005. 原著 HRC5A10 分析生研 (1)日大・松戸歯・生体材料
3. Koike, M.⁽¹⁾, Zhuo, C.⁽²⁾, Oda, Y., Hattori, M., Fujii, H.⁽¹⁾, Okabe, T.⁽²⁾ : Corrosion behavior of cast Ti-6Al-4V alloyed with Cu, *J Biomed Mater Res B* **73**(2), 368~374, 2005. 原著 (1)長崎大・大学院・顎口腔機能,(2)バイラー歯大・理工
4. Nagase, Y., Takemoto, S., Hattori, M., Yoshinari, M., Kawada, E., Oda, Y. : Influence of fabrication techniques on retention force of fiber-reinforced composite posts, *Dent Mater J* **24**(2), 280~285, 2005. 原著
5. 松坂賢一⁽¹⁾, 馬淵量平⁽²⁾, 長坂 浩⁽³⁾, 吉成正雄, 井上 孝⁽¹⁾ : 顎骨内飛散逆根管充填材の除去により皮膚の湿疹様症状が軽快した一例, *歯科学報* **105**(3), 207~211, 2005. 症例 細形研, 分析生研 (1)臨検査,(2)病理,(3)宮城県こども病院・歯口外
6. Takahashi, K.⁽¹⁾, Hayakawa, T.⁽¹⁾, Yoshinari, M., Hara, H.⁽²⁾, Mochizuki, C.⁽²⁾, Sato, M.⁽²⁾, Nemoto, K.⁽¹⁾ : Molecular precursor method for thin calcium phosphate coating on titanium, *Thin Solid Films* **484**(1-2), 1~9, 2005. 原著 HRC5A10 分析生研 (1)日大・松戸歯・生体材料,(2)工学院大・工
7. Hayakawa, T.⁽¹⁾, Takahashi, K.⁽¹⁾, Yoshinari, M., Hara, H.⁽²⁾, Nemoto, K.⁽¹⁾, Sato, M.⁽²⁾ : Molecular precursor method can coat thin carbonate-containing apatite (CA) film inside titanium fiber mesh, *J Oral Tissue Eng* **3**(1), 17~24, 2005. 原著 HRC5A10 分析生研 (1)日大・松戸歯・生体材料,(2)工学院大・工
8. Atsuta, I.⁽¹⁾, Yamaza, T.⁽²⁾, Yoshinari, M., Goto, T.⁽³⁾, Kido, M.⁽²⁾, Kagiya, T.⁽¹⁾, Mino, S.⁽²⁾, Shimono, M.⁽⁴⁾, Tanaka, T.⁽²⁾ : Ultrastructural localization of laminin-5 (gamma2 chain) in the rat peri-implant oral mucosa around a titanium-dental implant by immuno-electron microscopy, *Biomaterials* **26**(32), 6280~6287, 2005. 原著 HRC5A10 分析生研 (1)九大・大学院・口腔機能修復,(2)九大・大学院・口腔常態制御,(3)九歯大・頭頸部構造,(4)病理
9. Nashimoto, M.⁽¹⁾, Matsuzaka, K.⁽²⁾, Yoshinari, M., Shimono, M.⁽¹⁾, Inoue, T.⁽²⁾ : The effect of surface pore size on the differentiation of rat bone marrow cells: morphological observations and expression of bone related protein mRNA., *Bull Tokyo Dent Coll* **46**(4), 201~211, 2005. 原著 細形研 実動施設 (1)病理,(2)臨検査
10. Hosoya, Y.⁽¹⁾, Kawada, E., Liu, J., Oda, Y., Marshall Jr, G.W.⁽²⁾ : Micro-tensile strength of sound primary second molar dentin, *J Mater Sci* **40**(23), 6181~6186, 2005. 原著 (1)長崎大・大学院・小児,(2)カリフォルニア大・サンフランシスコ校歯
11. 片倉 朗⁽¹⁾, 高木 亮⁽¹⁾, 椎木さやか⁽¹⁾, 山内智博⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 吉成正雄 : 下顎再建に応用したA-Oプレートの破折, *日口腔科会誌* **55**(1), 42~47, 2006. 症例 細形研, 分析生研 (1)口外

12. Yoshinari,M., Hayakawa,T.⁽¹⁾, Matsuzaka,K.⁽²⁾, Inoue,T.⁽²⁾, Oda,Y., Shimonono,M.⁽³⁾, Ide,T.⁽⁴⁾, Tanaka,T.⁽⁴⁾ : Oxygen plasma surface modification enhances immobilization of simvastatin acid, Biomed Res **27**(1), 29～36, 2006. 原著 A05-0240-1 HRC5A10 細形研,分子生研,細生研,分析生研 (1)日大・松戸歯・生体材料,(2)臨検査,(3)病理,(4)九大・大学院・口腔常態制御
13. Hayakawa,T.⁽¹⁾, Takahashi,K.⁽¹⁾, Yoshinari,M., Hara,H.⁽²⁾, Sato,M.⁽²⁾, Nemoto,K.⁽¹⁾ : Thin carbonate apatite layer deposited on titanium using molecular precursor method, J Oral Tissue Eng **3**(3), 139～146, 2006. 原著 HRC5A10 分析生研 (1)日大・松戸歯・生体材料,(2)工学院大・工
14. Hayakawa,T.⁽¹⁾, Yoshinari,M., Nemoto,K.⁽¹⁾ : Fibronectin adsorption onto plasma-polymerized hexamethyldisiloxane coating , J Oral Tissue Eng **3**(3), 153～160, 2006. 原著 HRC5A10 分析生研 (1)日大・松戸歯・生体材料
15. 河田英司, 佐野 司⁽¹⁾, 一戸達也⁽²⁾, 小田 豊, 石井拓男⁽³⁾, 井出吉信⁽⁴⁾ : 本学総合学力試験と共用試験CBTの比較, 日歯医教会誌 **22**(1), 23～25, 2006. 原著 (1)歯放,(2)歯麻,(3)社会歯,(4)解剖

解 説

1. 吉成正雄 : 薬剤固定によるチタンインプラントの骨形成促進, まてり・ **44**(10), 794～798, 2005. A05-0240-1 HRC5A10 細形研,細生研,分析生研

プロシーディングス

1. Takemoto,S., Hattori,M., Yoshinari,M., Kawada,E., Oda,Y. : Corrosion resistance of experimental Ti-Cr dental casting alloys to fluoride, Archives of BioCeramics Research **5**, 31～34, 2005.(Asian BioCeramics Symposium 2005, Sapporo) 科研費若手(B)17791413,平成 17 年度学長奨励研究 細形研,保情研,細生研,分析生研,生素研

調査報告

1. 吉成正雄(a): ナノテクノロジー技術動向調査 (a)2.1.4_7 金属表面修飾 95～97 頁, 独立行政法人物質材料研究機構, 2004. A83-0240-7 HRC5A03 2004 年度分 細形研,細生研,分析生研

その他

1. 佐藤 裕⁽¹⁾, 見明康雄⁽²⁾, 吉成正雄, 田崎雅和⁽³⁾, 望月隆二⁽⁴⁾, 澤木康平⁽⁵⁾, 西川慶一⁽⁶⁾, 宮下有恒⁽⁷⁾, 武藤由剛⁽⁸⁾, 武本真治 : 歯学における準備教育－物質の科学－, 平成 17 年度教育ワークショップ報告書, 25～40, 2005. (1)生化学,(2)超微構造,(3)生理,(4)物理,(5)薬理,(6)歯放,(7)補綴III,(8)保存III
2. 阿部伸一⁽¹⁾, 一戸達也⁽²⁾, 河田英司, 櫻井 薫⁽³⁾, 櫻井 学⁽²⁾, 佐野 司⁽⁴⁾, 杉山利子⁽⁵⁾, 高橋俊之⁽⁶⁾, 服部雅之, 村松 敬⁽⁷⁾, 矢島安朝⁽⁸⁾ : 歯学教育モデル・コア・カリキュラムを踏まえた歯科臨床概論, 平成 17 年度教育ワークショップ報告書, 41～60, 2005. (1)解剖,(2)歯麻,(3)補綴I,(4)歯放,(5)千病・総合診療科,(6)補綴II,(7)病理,(8)千病・口腔インプラント
3. 小田 豊 : 補綴材料, 第 41 回 ISO/TC106 ローマ会議報告書(26), 29～33,2006. 日本歯科材料機器研究協議会
4. 河田英司 : 歯科用コンポジットレジンの色調安定性, 日本歯科医師会報告書, 1～18,2006.

学会抄録

1. 武本真治, 服部雅之, 河野 敬, 野口竜実, 吉成正雄, 河田英司, 小田 豊 : 歯科鑄造用 Ti-Cr 合金の耐食性, 歯科材料・器械 **24**(2), 77, 2005.(第 45 回日本歯科理工学会学術講演会, 東京) 科研費若手(B)17791413, 平成 17 年度学長奨励研究 細形研, 保情研, 細生研, 分析生研, 生素研
2. 服部雅之, 武本真治, 市川弘道, 牛込利彰, 吉成正雄, 河田英司, 小田 豊 : 歯科鑄造用 Ti-Cr 合金の機械的性質, 歯科材料・器械 **24**(2), 78, 2005.(第 45 回日本歯科理工学会学術講演会, 東京) A99-0240-1, 科研費若手研究 (B)15791140 細形研, 分析生研
3. 今西泰彦, 武本真治, 服部雅之, 吉成正雄, 河田英司, 小田 豊 : コンポジットレジンと低粘性コンポジットレジン積層の 2 軸曲げ強さ -コンポジット/低粘性コンポジットレジン厚み比の影響-, 歯科材料・器械 **24**(2), 128, 2005.(第 45 回日本歯科理工学会学術講演会, 東京) 細形研, 分析生研
4. 大島 浩⁽¹⁾, 遠藤一彦⁽²⁾, 高田雄京⁽³⁾, 中川雅晴⁽⁴⁾, 河田英司, 高橋英和⁽⁵⁾, 西山 實⁽⁶⁾, 山中すみへ⁽⁷⁾, 中村正明⁽¹⁾ : 金属アレルギーに関する基礎的研究 1.市販歯科用合金のヒト唾液内での溶出および蛋白質結合について, 歯科材料・器械 **24**(2), 186, 2005.(第 45 回日本歯科理工学会学術講演会, 東京) (1)大歯大・理工, (2)北医療大・歯・理工, (3)東北大・大学院・歯科生体材料, (4)九大・大学院・生体材料, (5)東医歯大・大学院・先端材料, (6)日大・歯・理工, (7)衛生
5. 中澤妙衣子⁽¹⁾, 天谷哲也⁽¹⁾, 岡田 崇⁽¹⁾, 大須賀敬悟⁽¹⁾, 高瀬保晶⁽¹⁾, 平井義人⁽¹⁾, 小田 豊 : 漂白剤応用後の研磨が歯面の色調と粗さに及ぼす影響, 日歯保存誌 **48**(春季特別), 89, 2005.(日本歯科保存学会 2005 年度春季学会, 札幌市) 細形研 (1)保存III
6. 国分栄仁⁽¹⁾, 吉成正雄, 小池吉彦⁽¹⁾, 松坂賢一⁽¹⁾, 井上 孝⁽¹⁾ : FGF-2 はインプラント周囲の歯根膜作製を可能にする, 日口腔インプラント会誌 **18**(2), 357, 2005.(日本口腔インプラント学会第 24 回関東甲信越支部総会学術大会, 千葉市) 細形研, 細生研, 分析生研 (1)臨検査
7. 吉成正雄, 服部雅之, 小田 豊 : 微細溝(Multi-groove)は細胞の動態を制御する, 日歯産会誌 **19**(1), 75, 2005.(第 20 回 日本歯科産業学会・学術講演会, 横浜市) 細形研, 細生研
8. 吉成正雄, 武本真治, 服部雅之, 河田英司, 小田 豊, 松坂賢一⁽¹⁾, 井上 孝⁽¹⁾, 下野正基⁽²⁾ : 表面改質によるチタンインプラントの生体機能化, 歯界展望(特別号), 316, 2005.(第 20 回日本歯科医学会総会, 横浜市) A83-0240-7 A02-0240-2 A05-0240-1 HRC5A10 細形研, 細生研, 分析生研, 生素研 (1)臨検査, (2)病理
9. 福山賀子⁽¹⁾, 中川寛一⁽¹⁾, 太田一正⁽²⁾, 小田 豊 : ヒト唾液腺腫瘍細胞株HSG細胞の前初期遺伝子発現に対する Ga-Al-Asダイオードレーザーの影響, 歯科学報 **105**(3), 267, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) 分子生研 (1)保存I, (2)生化学
10. 牛込利彰, 武本真治, 服部雅之, 吉成正雄, 河田英司, 小田 豊 : 牛歯エナメル質への高濃度過酸化水素溶液の影響, 歯科学報 **105**(3), 269, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) 細形研, 細生研, 分析生研, 生素研
11. 中澤妙衣子⁽¹⁾, 天谷哲也⁽¹⁾, 岡田 崇⁽¹⁾, 大須賀敬悟⁽¹⁾, 緒形 毅⁽¹⁾, 高瀬保晶⁽¹⁾, 平井義人⁽¹⁾, 小田 豊 : 漂白歯の研磨が色調と表面形状に及ぼす影響, 歯科学報 **105**(3), 271, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) 細形研 (1)保存III

12. 河田英司, 興地隆史⁽¹⁾, 斎藤隆史⁽²⁾, 土屋友幸⁽³⁾, 沼部幸博⁽⁴⁾, 森尾郁子⁽⁵⁾, 岡野友宏⁽⁶⁾, 石井拓男⁽⁷⁾: CBT・OSCEへの対応についてのアンケート調査, 第24回 日本歯科教育学会総会・学術大会プログラム・抄録集, 88, 2005.(第24回 日本歯科教育学会総会・学術大会, 徳島市) (1)新潟大・大学院・う蝕学, (2)北医大・歯・保存Ⅱ, (3)愛知学院大・歯・小児, (4)日歯大・歯・歯周病, (5)東医歯大・大学院・医歯総合教育, (6)昭和大・歯・放射線, (7)社会歯
13. 杉戸博記⁽¹⁾, 古澤成博⁽²⁾, 角田正健⁽¹⁾, 杉山利子⁽³⁾, 山倉大紀⁽⁴⁾, 一戸達也⁽⁵⁾, 外木守雄⁽⁶⁾, 石井拓男⁽⁷⁾, 佐藤 亨⁽⁸⁾, 山田 了⁽¹⁾, 小田 豊, 井出吉信⁽⁹⁾: 第2学年病院実習と臨床研修歯科医の初期研修を組み合わせた新しい多目的カリキュラム, 第24回日本歯科医学教育学会総会・学術大会抄録集, 96, 2005.(第24回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 徳島市) (1)保存Ⅱ, (2)口健臨・総合歯科, (3)保存Ⅲ, (4)補綴Ⅲ, (5)歯麻, (6)市病・オーラルメディシン, (7)社会歯, (8)補綴Ⅱ, (9)解剖
14. 早川 徹⁽¹⁾, 高橋健一⁽¹⁾, 吉成正雄, 原 広樹⁽²⁾, 佐藤光史⁽²⁾, 根本君也⁽¹⁾: 分子プレカーサー法で作製した炭酸含有アパタイト薄膜チタンインプラントの骨適合性, 歯科材料・器械 **24**(5), 227, 2005.(第46回 日本歯科理工学会学術講演会, 長崎市) HRC5A10 分析生研 (1)日大・松戸歯・生体材料, (2)工学院大・工
15. 吉成正雄, 魏 建華⁽¹⁾, 勢島 尚, 河野 敬, 野口竜実, 小田 豊: タンパク質の吸着と骨芽細胞の動態に及ぼす表面濡れ性の影響, 歯科材料・器械 **24**(5), 280, 2005.(第46回 日本歯科理工学会学術講演会, 長崎市) A02-0240-2 HRC5A10 細形研, 細生研, 分析生研 (1)第4軍医大学
16. 武本真治, 服部雅之, 吉成正雄, 河田英司, 小田 豊: フッ化物耐食性 Ti-Cr 合金の開発, 歯科材料・器械 **24**(5), 305, 2005.(第46回 日本歯科理工学会学術講演会, 長崎市) 科研費若手(B)17791413, 平成17年度学長奨励研究 細形研, 保情研, 細生研, 分析生研, 生素研
17. 細矢由美子⁽¹⁾, 河田英司, 牛込利彰, 小田 豊: 健全並びに齲蝕下乳歯象牙質に対するレジンの微小引張り接着強さーオリジナルレジグによる測定ー, 歯科材料・器械 **24**(5), 334, 2005.(第46回 日本歯科理工学会学術講演会, 長崎市) (1)長崎大・大学院・小児歯
18. 牛込利彰, 武本真治, 服部雅之, 吉成正雄, 河田英司, 小田 豊: 高濃度過酸化水素溶液が牛歯エナメル質の表面形態におよぼす影響, 歯科材料・器械 **24**(5), 366, 2005.(第46回 日本歯科理工学会学術講演会, 長崎市) 細形研, 細生研, 分析生研, 生素研
19. Matsuzaka, K.⁽¹⁾, Yoshinari, M., Shimono, M.⁽²⁾, Inoue, T.⁽¹⁾: Behavior of osteoblasts on multi-grooved surface in vitro., Joint Meeting of the CED and NDF of the IADR Abstract, 125, 2005.(Joint Meeting of the CED and NDF of the IADR, Amsterdam, Netherlands) 細形研 実動施設 (1)臨検査, (2)病理
20. Yoshinari, M., Matsuzaka, K.⁽¹⁾, Igarashi, T., Inoue, T.⁽¹⁾, Oda, Y., Shimono, M.⁽²⁾: Cell behavior in carbon-foam scaffold coated with titanium for tissue engineering, Final Program and Abstract Book, 120~121, 2005.(The 8th Annual Meeting of Tissue Engineering Society International, Shanghai, China) A05-0240-1 HRC5A10 細形研, 細生研, 分析生研 (1)臨検査, (2)病理
21. 武本真治: フッ化物およびアルブミンを含む溶液中でのチタンの腐食挙動と表面分析, 歯科学報 **105**(5), 492, 2005.(第280回東京歯科大学学会総会, 千葉市) 科研費若手(B)1779143 細形研, 保情研, 細生研, 分析生研, 生素研

22. Matsuzaka,K.⁽¹⁾, Yoshinari,M., Inoue,T.⁽¹⁾ : Microgroove can control behaviour of osteoblasts, 第 41 回日本界面医学会学術研究会プログラム抄録集, 18, 2005.(第 41 回日本界面医学会学術研究会, 横須賀市) 細形研,分子生研,生素研 実動施設 (1)臨検査
23. Yoshinari,M., Matsuzaka,K.⁽¹⁾, Inoue,T.⁽¹⁾ : Immobilization of Simvastatin Acid onto titanium with plasma surface modification, 第 41 回日本界面医学会学術研究会プログラム抄録集, 19, 2005.(第 41 回日本界面医学会学術研究会, 横須賀市) 細形研,分子生研,分析生研,生素研 実動施設 (1)臨検査
24. Takemoto,S., Hattori,M., Yoshinari,M., Kawada,E., Oda,Y. : Effect of albumin on corrosion resistance of titanium in fluoride-solution, Program and Abstracts of Papers, 88, 2005.(53rd Annual Meeting of the Japanese Association for Dental Research, Okayama) 科研費若手(B)17791413,平成 17 年度学長奨励研究 細形研,細生研,分析生研,生素研
25. 武本真治, 服部雅之, 吉成正雄, 河田英司, 小田 豊 : チタンの耐食性におよぼすアルブミンの影響, 第 27 回日本バイオマテリアル学会大会予稿集, 125, 2005.(第 27 回 日本バイオマテリアル学会大会, 京都市) 科研費若手(B)17791413,平成 17 年度学長奨励研究 細形研,細生研,分析生研,生素研
26. 吉成正雄, 武本真治, 小田 豊, 早川 徹⁽¹⁾ : 抗菌性ペプチドHistatin-5 固定によるCandida albicansの増殖抑制, 第 27 回 日本バイオマテリアル学会大会予稿集, 155, 2005.(第 27 回 日本バイオマテリアル学会大会, 京都市) HRC5A10 細形研,分析生研 (1)日大・松戸歯・生体材料
27. 水橋博行⁽¹⁾, 須賀賢一郎⁽¹⁾, 内山健志⁽¹⁾, 小田 豊 : 生体吸収性骨接合材料の骨治癒期間における疲労特性 第 2 報, 日顎変形誌 **15**(3), 211, 2005.(第 15 回日本顎変形症学会総会, 徳島市) 分析生研 (1)口外
28. 服部雅之, 武本真治, 吉成正雄, 河田英司, 小田 豊 : チタン銅合金へのパラジウムの添加効果, チタンと歯科臨床 **4**(1), 45, 2006.(第 19 回 歯科チタン学会学術講演会, 郡山市) A99-0240-1,科研費若手研究(B)15791140 細生研, 分析生研
29. 吉成正雄, 勢島 尚, 小田 豊, 井上 孝⁽¹⁾, 松坂賢一⁽¹⁾ : ラジアルフロー型バイオリアクターを用いた骨芽細胞の 3 次元培養, 日本再生医療学会雑誌 **5**(増刊), 215, 2006.(第 5 回 日本再生医療学会総会, 岡山市) A05-0240-1 HRC5A10 細形研,細生研,分析生研 (1)臨検査
30. Takemoto,S., Hattori,M., Yoshinari,M., Kawada,E., Oda,Y. : Ti-Cr casting alloys corrosion resistance to fluoride , J Dent Res **85**(Special Issue A), #0041, 2006.(The 35th Annual Meeting & Exhibition of the AADR, Orlando, USA) CD-ROM, 科研費若手(B)17791413 細形研,保情研,細生研,分析生研,生素研
31. 小田 豊, 下野正基⁽¹⁾, 佐藤 亨⁽²⁾, 村松 敬⁽¹⁾, 松坂賢一⁽³⁾, 三宅菜穂子⁽⁴⁾, 服部雅之, 高橋 賢⁽⁵⁾, 太田 一正⁽⁶⁾ : 唾液腺房細胞の活性化の機序に及ぼすレーザーの影響, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 21~22, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC5A03 細形研,分子生研 (1)病理,(2)補綴II,(3)臨検査,(4)口健臨・補綴科,(5)保存III,(6)生化学
32. 井上 孝⁽¹⁾, 松坂賢一⁽¹⁾, 下野正基⁽²⁾, 吉成正雄, 田崎雅和⁽³⁾, 山田 了⁽⁴⁾, 久保周平⁽⁵⁾, 関根秀志⁽⁶⁾, 茂木悦子⁽⁷⁾, 矢島安朝⁽⁸⁾, 新谷益朗⁽⁹⁾, 石崎 憲⁽¹⁰⁾ : 唾液検査とオーダーメイド治療, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 33, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) (1)臨検査,(2)病理,(3)生理,(4)保存II,(5)小児歯,(6)口健臨・口腔インプラント科,(7)矯正,(8)千病・口腔インプラント,(9)脳科学研究施設,(10)補綴I

33. 吉成正雄, 井上 孝⁽¹⁾, 松坂賢一⁽¹⁾, 阿部伸一⁽²⁾, 見明康雄⁽³⁾, 柴原孝彦⁽⁴⁾, 加藤哲男⁽⁵⁾, 平山明彦⁽⁶⁾ : 唾液タンパク質の吸着特性を制御した生体新素材の開発, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 36~38, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC5A10 細形研, 細生研, 分析生研, 生素研 (1)臨検査, (2)解剖, (3)超微構造, (4)口外, (5)微生物, (6)RI研
34. 小田 豊 : 歯科理工学と保存学の接点, 日本歯科保存学会 50 周年記念誌, 94~96, 2006.(日本歯科保存学会 50 周年記念大会 2005 年度秋季学術大会, 東京) シンポジウム

9. 衛 生 学 講 座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|-------|-------|---|
| 教 授 | 松久保 隆 | 咬合咀嚼機能の客観的および主観的評価に関する研究 (A92-0260-4) 全身機能にかかわる口腔機能 (咬合・咀嚼) の解析 口腔保健情報のデータベース構築とその活用 (A92-0260-5) |
| | 眞木 吉信 | 歯根面齲蝕の要因と予防指針 (A77-0260-1, A86-0260-1, A87-0260-2, A90-0260-1) フッ化物応用の総合的研究 精神障害者の口腔環境の実態とその対応 |
| 名誉教授 | 高江洲義矩 | フッ化物の許容濃度に関する研究 (A87-0260-3) |
| 客員教授 | 山中すみへ | 歯科用素材の安全性評価に関する研究 (A91-0260-1, A91-0260-3) |
| 講 師 | 須山 祐之 | 歯科診療における環境改善に関する研究 (A84-0260-2) |
| | 杉原 直樹 | 老年者の歯科保健に関する研究 (A88-0260-1) |
| 助 手 | 古賀 寛 | フッ化物の許容濃度に関する研究 (A87-0260-3) |
| 研究助手 | 小林 義昌 | 噛みしめと聴覚応答との関連性に関する研究 |
| 大学院生 | 倉 橋 司 | 咬合関連聴力低下に関する研究 |
| | 米山 みき | グラスアイオノマーセメントの in vivo でのう蝕予防効果に関する研究 |
| | 黒川 真衣 | |
| 専 攻 生 | 長 坂 斉 | 咬合関連聴力低下に関する臨床統計学的解析と分類 |
| | 国島真希子 | 咬合関連聴力低下に与える歯科治療の効果に関する研究 |

2. 成果の概要

1) フッ化物の許容濃度に関する研究 (A87-0260-3)

フッ化物の全身的应用において齲蝕予防効果と過剰摂取による歯のフッ素症を防ぐためにフッ化物摂取量基準が要請される。本研究の目的はわが国における年齢群別のフッ化物摂取基準策定のための基礎資料を提示することにあった。まとめとして本年度は「日本におけるフッ物摂取量と健康」(白表紙)として検討資料を作成した。その内容は乳幼児期、おいて水道水フッ化物濃度別におけるフッ化物摂取量の試算した。水道水フッ化物濃度の上限値である 0.8ppm においては、乳児期において体重 1kg あたりでは、0.88~0.105mg と推定された。米国学術会議 (1997) による乳児の一日フッ化物摂取量の適正摂取量は、乳児では 0.5mg で、上限摂取基準値は、0.9mg と設定され、飲料水フッ化物濃度 0.8ppm では、上限摂取基準と同程度であり、これが永久歯の歯のフッ素症発現にどの程度関連しているかは、乳児期における永久歯の石灰化にフッ化物暴露がどのような役割を果たしているかを検討する必要がある。

厚生労働科学補助金「フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」

平成 17 年度総括研究報告書, 55~63, 2005.

2) 咬合咀嚼機能の客観的および主観的評価に関する研究 (A92-0260-4)

研究-1: 偏位性咀嚼習癖を持つ患者の聴力変化の機構を明らかにするため、コントロール噛みしめ時の聴性誘発脳磁場 (AEFs) を定量的に比較検討した。

噛みしめ時の AEFs 応答は、左右側音刺激に対する AEFs 応答はすべての被験者で低下しており、特に噛みしめ側と同じ聴覚野の応答に有意な差が認められた。噛みしめが聴覚野応答を低下させる理由として 1) 顎関節の偏位による形態的变化、2) 中耳および内耳の神経支配への影響、あるいは 3) gate control による中枢での抑制が考察された。本研究結果は、コントロール噛みしめが、聴覚誘発磁場に影響を与えていることを客観的に示すものである。また、本研究に用いた方法は、噛みしめの聴覚応答をはじめとする体性感覚に影響を与えていることを実験的に検討する方法として有用であることを示している。

研究-2: 歯科診療所に来院した患者の偏咀嚼との関連性を疫学的に検討することを目的とした。

オーディオグラムの咬合咀嚼機能の動的評価への応用について 20 症例による検討を行った。その結果、質問紙調査、口腔内診査、プレスケール、咀嚼運動ならびに作業用模型による分析にオーディオグラムの周波数別の聴力低下パターン評価を組み合わせることにより、咬合咀嚼運動のより正確な動的評価が可能であることが示された。

3) 歯科用素材など化学物質の安全性評価に関する研究 (A91-0260-1, A91-0260-3)

歯科用素材をはじめとした化学物質などの安全性を評価するために、とくに歯科金属によるアレルギー発現の簡易なスクリーニング法とともに分子生物学的手法を検討している。平成 16 年度からは、文部科学研究班の「金属アレルギーの基礎的研究」(研究代表者; 大島 浩 (大阪歯科大学・歯科理工学講座)) 研究として、歯科用金属のアレルギー発現のスクリーニング法を進めてきた。また一方、化学物質の安全性評価のためのリスク評価法の研究では、厚生労働科学研究班の「化学物質リスク評価の基盤整備としてのトキシコゲノミクスに関する研究」(研究代表者; 菅野 純 (国立医薬品衛生研究所・安全性生物試験研究センター)) として、「免疫毒性に関わる分子メカニズムの研究」を行なってきた。リンパ細胞の CD4, CD8 細胞を用いた分子生物学的手法により、水銀などの免疫毒性への影響を推し進めることができた。

4) フッ化物応用の総合的研究

歯科保健領域における齲蝕予防法としてのフッ化物は、すでに半世紀を越えてその実績が評価されている。日本歯科医学会医療環境問題検討委員会フッ化物検討部会は平成 9 年から 3 年間にわたる委員会の報告として、平成 11 年 11 月に「フッ化物応用についての総合的な見解」を公表し、①国民の口腔保健向上のためフッ化物の応用を推奨すること、②わが国におけるフッ化物の適正摂取量を確定するための研究の推進を奨励することを結論としている。これを受けて平成 15 年度から「フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」(H15-医療-020) が 3 年計画で実施されることになり、小児から成人にいたるライフステージにおけるフッ化物応用および食品・飲食物から摂取されるフッ化物のモニタリングの確立や、歯の形成期におけるフッ化物摂取の所要量についての普遍的指標の確立など、フッ化物の全身的应用を推進するとともに、ライフステージに応じた局所応用法の普遍的なモデルを作成し、「健康日本 21」等のヘルスプロモーション政策に寄与することを意図している。平成 17 年度は 3 年計画のまとめの年として、「フッ化物配合歯磨剤応用マニュアル」を出版するとともに、「21 世紀における歯科疾患のリスク判定法および予防体系の構築」というタイトルでシンポジウムを開催した (東京歯科大学水道橋病院血脇ホール)。

平成 16 年度厚生労働科学研究報告書, 55~63, 2005.

う蝕予防のためのフッ化物配合歯磨剤マニュアル，社会保険研究所，2006.

5) 歯科診療における環境改善に関する研究（A84-0260-2）

歯科診療室における空気清浄度を評価するための「基準」は明確ではない。歯科診療室内の空中浮遊菌の存在

状態を経過時間ごとに計測が可能なサンプリング装置を開発し、空気清浄度を詳細に調査する事が可能となった。本研究では歯科医療施設のための空気清浄度の指標を提案し、診療室内環境汚染の対策として、最適な歯科用空気清浄装置を開発し、実践的に歯科診療室で応用後の空気環境測定結果より、良好な環境状態を維持していたことを明らかにした。

2004 年より 3 年間の計画で、産・官・学による医療施設ならびに住居室内環境の空中浮遊微生物除去および防止性能評価法を目的に発足したプロジェクトを開始した。本年度は一定量のカビの乾燥胞子を空中超音波により均一に飛散させる方法を行い、その有用性を認めた。

院内感染管理に最も効果的に行うためには空中浮遊菌の存在状況の変動を早期に解析する必要がある。

2005 年より医療施設内にて経過時間ごとの空中浮遊菌測定に温度、湿度、二酸化炭素濃度、浮遊粉塵数の測定を自動計測する監視システムを組み合わせた装置を考案したことから、医療施設内の空気環境状況が迅速に詳細な解析が可能となった。

6) 精神障害者の口腔環境の実態とその対応

本研究は、平成 15 年 4 月から始まり、精神疾患治療のための入院設備を有する病院の協力を得たうえで、精神障害者（統合失調症）の口腔領域における器質的環境ならびに摂食・嚥下などの口腔機能の実態調査を実施した。その後、看護・介護職への口腔保健に関する集団指導とケア教育を行い、入院患者の口腔環境と機能の改善状況を確認した後に、同意の得られた患者を対象として、歯科衛生士による個別の口腔保健指導を導入した。これらの教育・指導の評価には、口腔内の疾患および清掃状態から唾液分泌、細菌叢の検討ならびに口臭の有無まで調査項目に入れた。さらに口腔機能面の評価としては、摂食・嚥下に関する検査項目に咬合状態を加えたものとした。また、対象とした統合失調症患者の指導の受容状況をフェイススケールにより評価すると同時に、この調査期間における病院の看護・介護職の口腔保健ケアに対する意識の変化も調査した。

本研究から、健常者と比較した統合失調症患者の口腔環境の実態を明らかにすることができた。また、看護・介護職への指導と障害者に対する個別の介入指導による口腔環境および口腔機能の改善については、一定の限度の下における効果を得ることができた。この背景には、口腔疾患に対する治療処置が不可能であったことや、唾液分泌を抑制する服用薬剤の存在があり、さらには、精神保健領域の障害の程度を示すスケール（薬原性椎体外路症状の評価 DIEPSS と陽性・陰性症状の評価 PANSS）を考慮した結果の考察が必須であった。

精神障害者の口腔環境の実態とその対応，障害歯誌 **26**(2)，133～144，2005.

精神障害者（統合失調症）者の口腔環境・機能の実態と口臭，障害歯誌 **26**(2)，153～161，2005.

精神障害者（統合失調症）者における摂食機能実態，障害歯誌 **26**(2)，172～179，2005.

3. 学外共同研究

| 担当者 | 研究課題 | 学外研究施設 | | |
|-------|-----------------------------------|----------------------------------|-----------|----------------------------|
| | | 研究施設 | 所在地 | 責任者 |
| 松久保 隆 | 日本および韓国の口腔保健 状態の比較研究 | 延世大学歯学部 | 韓国 | Prof. Kwon and Kim Baek IL |
| 松久保 隆 | 食品の酸産生能評価 | 延世大学歯学部 | 韓国 | Prof. Kwon and Kim Baek IL |
| 眞木 吉信 | 歯根面齲蝕の疫学, 病因および予防手段 | イエテボリ大学歯学部 ハルムシュタット総合病院 | Sweden | Dowen Birkhed |
| 眞木 吉信 | 乳幼児における至適フッ化物摂取量の評価 | チェンマイ大学歯学部 | Thailand | Chalerm pong Chittaisong |
| 眞木 吉信 | 精神障害者施設における口腔ケアの支援 | 昭和大学歯学部 口腔衛生学講座 秦野保健福祉事務所 | 東京 秦野市 | 向井 美恵 渡辺 晃子 |
| 眞木 吉信 | フッ化物応用と地域歯科保健 | ヤンゴン大学歯学部 | Myanmar | Mya Thou |
| 眞木 吉信 | フッ化物洗口事業の評価 | 東京都歯科医師会 ライオン歯科衛生研究所 | 東京 鴨川市 | 貝塚 雅信 松本 亮子 |
| 山中すみへ | 化学物質リスク評価の基盤整備としてのトキシコゲノミクスに関する研究 | 国立医薬品安全衛生研究センター 日歯大・新潟歯・歯科薬理学 | 東京 新潟 | 菅野 純 中村 康則 |
| 山中すみへ | 危険物の海上輸送に関する調査研究 | 日本海事検定協会 | 東京 | 八十川欣勇 |
| 須山 祐之 | 空中浮遊微生物除去及び防止性能評価法プロジェクト | 室内環境学会 | つくば市 | 柳沢 幸雄 |
| 古賀 寛 | フッ化物の代謝に関する研究 | 国立健康・栄養研究所 | 東京 | 西牟田 守 |
| 古賀 寛 | フッ化物の歯質(dentine)との反応性に関する基礎的研究 | 花王株式会社 ヘルスケア研究所 | 東京 | 前田 晃嗣 山岸 敦 |

4. 科学研究費補助金・各種補助金

| 研究代表者 | 研究課題 | 研究費 |
|-------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 松久保 隆 | 咬合咀嚼機能と聴力との関連性に関する臨床疫学ならびに聴覚野応答解析 | 文科省科研費・基盤研究(B) |
| 眞木 吉信 | フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究 | 厚生労働科研費医療技術評価総合研究事業 |
| 杉原 直樹 | 成人および高齢者の歯科疾患の発病と歯の喪失リスクに関する疫学的研究 | 文科省科研費・基盤研究(C) |
| 須山 祐之 | 銅発泡金属の抗菌エアークリスタルによる空気清浄装置への応用に関する研究 | Copper Development Association Inc. |

5. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

| 座 長 | 年月日 | 演 題 | 学会名 | 開催地 |
|-------------------|--------------|--------------------------------|--|-----|
| 眞木 吉信 (座長) | 2005. 10. 8 | 障害者（精神障害）保健における口腔保健 の近未来 | 第 54 回日本口腔衛生学会 | 東京 |
| 眞木 吉信 (シンポジスト) | 2005. 10. 8 | 精神障害者（総合失調症）の口腔環境と機 能の実態と対応 | 第 54 回日本口腔衛生学会 | 東京 |
| 眞木 吉信 (総括報告) | 2006. 3. 3～4 | 「フッ化物応用の総合的研究」の成果と今 後の課題 | 厚生労働科学研究 公開シ ンポジウム「21 世紀における 歯科疾患の予防体系の構築」 | 東京 |

ワークショップ

| 氏 名 | 年月日 | ワークショップ名 | 主 催 | 役割 | 開催地 |
|---------------|-----------------|--|---|--------------|-----|
| 眞木 吉信 | 2005. 4. 8 | Fluoride Toothpaste Conference in Kyoto | 厚生労働科学研究「フッ 化物応用による歯科疾患 の予防技術評価に関する 総合的研究」班 | コーディネー ター | 京都市 |
| 眞木 吉信 | 2005. 10. 14～15 | 歯科衛生士専任教員講習会 V | 全国歯科衛生士教育協議会 | タスクフォース | 新潟市 |
| 眞木 吉信 | 2005. 11. 23～24 | 2005 年度歯科衛生士教育指 導者講習会 | 歯科医療研修振興財団 全国歯科衛生士教育協議会 | タスクフォース | 東京 |
| 古賀 寛 眞木 吉信 | 2006. 3. 3～4 | 合同公開シンポジウム「21 世紀における歯科疾患の予 防体系の構築」 | 厚生労働科学研究 「歯周病(H15-医-15150101)」班 「フッ化物応用(H15-医-15150102)」班 | コーディネーター | 東京 |

研究会

| 演 者 | 年月日 | 研究会名 | 主催 | 開催地 |
|---------------|----------------|---|------------|-----|
| 松久保隆 (主催) | 2005. 8. 28～29 | 第 2 回日本咀嚼学会健康咀嚼指導士研修会 | 日本咀嚼学会 | 東京 |
| 須山 祐之 (座長) | 2006. 2. 19. | 居住者のための化学物質リスク評価 | 日本住環境医学研究会 | 東京 |
| 須山 祐之 (演者) | 2006. 2. 19. | 住環境における空中浮遊微生物除去および防 止器械の性能評価法に関する研究 | 日本住環境医学研究会 | 東京 |

6. 教育講演等教育に関する業績、活動

教育講演等

| 講演者 | 年月日 | 演 題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|----------------|---------------|---------------------------------|---------------------------------|-----|
| 眞木 吉信 | 2005. 4. 2. | 歯根面齲蝕の要因、処置、予防 | 東京歯科大学同窓会山形県支部 | 山形市 |
| 眞木 吉信 | 2005. 4. 24. | 小児のカリエスリスクと予防方法 | 千葉県小児歯科医学会第 1 回学術講演会 | 千葉市 |
| 眞木 吉信 | 2005. 6. 27. | 歯根面う蝕の診断と要因 | 中野区歯科医師会学術講演会 | 東京 |
| 眞木 吉信 | 2005. 6. 4. | フッ素歯みがきって本当に効果あるの | 渋谷区歯科医師会 | 東京 |
| 眞木 吉信 | 2005. 9. 10. | 乳幼児の歯と口の健康について | 港区社会福祉協議会 | 東京都 |
| 眞木 吉信 | 2005. 9. 21. | よくかむことは「あいなのだ」～丈夫な歯で心とからだの健康づくり | 仙台市私立幼稚園・PTA 連合会 | 仙台市 |
| 眞木 吉信 | 2005. 10. 11. | 歯根面う蝕の基礎知識 | 東京歯科大学同窓会下谷支部講演会 | 東京都 |
| 眞木 吉信 | 2005. 10. 17. | 歯と口の健康づくりとフッ化物 | 多摩市教育委員会・多摩市学校保健会 | 多摩市 |
| 眞木 吉信 | 2005. 11. 6. | フッ化物洗口法ーう蝕予防効果と安全性ー | 第 5 回秋田県歯科保健大会 | 秋田市 |
| 杉原 直樹 今井 光枝 | 2005. 11. 17. | 高齢者、障害者（児）の歯科保健医療 | 訪問介護員養成研修 1 級課程（介護労働安定センター千葉支部） | 千葉市 |
| 眞木 吉信 | 2005. 12. 4. | フッ化物局所応用の新しい考え方 | フッ化物応用研修会（福島県歯科医師会） | 郡山市 |
| 眞木 吉信 | 2005. 12. 12. | 最新の乳幼児における歯科保健指導 | 鴨川市歯科保健講習会 | 鴨川市 |
| 眞木 吉信 | 2005. 1. 25. | フッ化物局所応用法の新しい考え方 | 公衆衛生講習会（調布市歯科医師会） | 調布市 |
| 眞木 吉信 | 2005. 1. 13. | 健康日本 21 の推進「歯科保健目標の達成要因から学ぶ」 | 「健康日本 21 の推進」事業事例検討会 | 多摩市 |
| 山中すみへ | 2006. 1. 17. | 薬剤の毒性・安全性と毒劇物の管理 | ビル管理教育センター | 東京 |

教育ワークショップ等

| 氏 名 | 年月日 | ワークショップ名 | 役 割 | 開催地 |
|-------|-------------------|--|-----|-----|
| 松久保 隆 | 2005. 10. 22～23 | 第 1 回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 須山 祐之 | 2006. 3. 17～3. 18 | 第 3 回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティに関するワークショップ | 参加者 | 木更津 |
| 杉原 直樹 | 2005. 10. 22～23 | 第 1 回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |

論文

1. 梅村 智⁽¹⁾, 玄 景華⁽¹⁾, 塚本末廣⁽¹⁾, 塚本 亨⁽¹⁾, 芳賀 定⁽¹⁾, 眞木吉信, 水野明広⁽¹⁾ : 障害者歯科診療における医療保険に関するアンケート, 障害者歯 **26**(1), 83～89, 2005. 原著 2004 年度追加分 (1)日本障害者歯科学会医療保険委員会
2. 河村 誠⁽¹⁾, 笹原妃佐子⁽¹⁾, 高世尚子⁽²⁾, 田口則宏⁽³⁾, 古賀 寛, 小川哲次⁽³⁾ : 若者の口腔保健関連要因の予測に関するダイナミック・シミュレーション, 口腔衛会誌 **55**(2), 118～120, 2005. 原著 (1)広島大・予防歯科,(2)サンスター,(3)広島大・口腔総合診療科
3. 古賀 寛 : 保健政策における社会的資源の最適配分—フッ化物応用による齲蝕予防の保健政策を事例として—, 2005 年度東洋英和女学院大学大学院紀要(創刊号), 73～92, 2005. 原著
4. Miyazaki,H.⁽¹⁾, Motegi,E.⁽²⁾, Yatabe,K.⁽¹⁾, Yamaguchi,H.⁽²⁾, Maki,Y. : A study of occlusion in elderly Japanese over 80 years with at least 20 teeth, Gerodontology **22**, 206～210, 2005. 原著 (1)口健臨・矯正科,(2)矯正
5. 眞木吉信 : 精神障害者の口腔環境の実態とその対応, 障害者歯 **26**(2), 133～144, 2005. 総説
6. 村田尚道⁽¹⁾, 齋島弘之⁽¹⁾, 石川健太郎⁽¹⁾, 弘中祥司⁽¹⁾, 内海明美⁽¹⁾, 大河内昌子⁽¹⁾, 大岡貴史⁽¹⁾, 山本麗子⁽²⁾, 稲本淳子⁽³⁾, 白井麻理⁽³⁾, 黒川亜紀子⁽⁴⁾, 杉原直樹, 山田光彦⁽⁵⁾, 眞木吉信, 向井美恵⁽¹⁾ : 精神障害(統合失調症)者の口腔環境・機能の実態と口臭, 障害者歯 **26**(2), 153～161, 2005. 原著 (1)昭和大・歯・口腔衛生,(2)昭和大・附属鳥山病院・歯科,(3)昭和大・附属鳥山病院・精神科,(4)ライオン歯科衛生研究所,(5)国立精神・神経センター
7. 弘中正祥⁽¹⁾, 齋島弘之⁽¹⁾, 内海明美⁽¹⁾, 大河内昌子⁽¹⁾, 村田尚道⁽¹⁾, 石川健太郎⁽¹⁾, 大岡貴史⁽¹⁾, 山本麗子⁽²⁾, 稲本淳子⁽³⁾, 白井麻理⁽³⁾, 黒川亜紀子⁽⁴⁾, 杉原直樹, 山田光彦⁽⁵⁾, 眞木吉信, 向井美恵⁽¹⁾ : 精神障害(統合失調症)者における摂食機能の実態, 障害者歯 **26**(2), 172～179, 2005. 原著 (1)昭和大・歯・口腔衛生,(2)昭和大・附属鳥山病院・歯科,(3)昭和大・附属鳥山病院・精神科,(4)ライオン歯科衛生研究所,(5)国立精神・神経センター
8. 内海明美⁽¹⁾, 山本麗子⁽²⁾, 村田尚道⁽¹⁾, 弘中正祥⁽¹⁾, 齋島弘之⁽¹⁾, 大河内昌子⁽¹⁾, 石川健太郎⁽¹⁾, 大岡貴史⁽¹⁾, 稲本淳子⁽³⁾, 白井麻理⁽³⁾, 黒川亜紀子⁽⁴⁾, 杉原直樹, 山田光彦⁽⁵⁾, 眞木吉信, 向井美恵⁽¹⁾ : 統合失調症患者の摂食・嚥下機能と錐体外路症状との関連, 障害者歯 **26**(4), 658～666, 2005. 原著 (1)昭和大・歯・口腔衛生,(2)昭和大・附属鳥山病院・歯科,(3)昭和大・附属鳥山病院・精神科,(4)ライオン歯科衛生研究所,(5)国立精神・神経センター
9. Matsumoto,Y.⁽¹⁾, Sugihara,N., Koseki,M., Maki,Y. : A rapid and Quantitative detection system for Streptococcus mutans in saliva using monoclonal antibodies, Caries Res **40**, 15～19, 2006. 原著 (1)ジーシー

解説

1. 眞木吉信 : Q&A 唾液の働きを科学する—答えられますか?唾液のこことネバネバした唾液の人とサラサラした唾液の人では齲蝕発病のリスクが違うのですか?, 歯界展望 **105**(3), 582, 2005. 2004 年度追加分
2. 眞木吉信 : Q&A 唾液の働きを科学する—答えられますか?唾液のこことたくさんの種類の唾液検査がありますが、具体的には何がわかるのでしょうか?, 歯界展望 **105**(3), 596～599, 2005. 2004 年度追加分
3. 松久保 隆 : う蝕になりにくい食品 最新情報, 東京歯医師会誌 **53**(7), 427～435, 2005.

4. 眞木吉信：フッ化物によるう蝕予防(1)フッ化物局所応用の新しい考え方，小児歯臨 **9**(10), 27～42, 2005.

単行図書

1. 眞木吉信(a): 著分担：新しい健康科学への架け橋 歯周病と全身の健康を考える (a)セルフケア，プロフェッショナルケア，コミュニティケアの概論 254～258 頁，医歯薬出版，東京，2004. 2004 年度追加分
2. 松久保 隆(a): 著分担：日本歯科評論増刊 唾液による健康づくり-明日からの臨床に取り組む- (a)Part2 唾液が関わる疾患と臨床対応 8. 唾液で診るう蝕リスク 69～78 頁，ヒョーロン，東京，2005.
3. 櫻井善忠⁽¹⁾，松久保 隆監修，櫻井美和⁽²⁾：共著：歯科医院の患者さんが増える喜ぶ健康歯科，シエン社，東京，2005. DVD (1)全国歯科衛生士教育協議会，(2)太陽歯科衛生士専門学校
4. 櫻井善忠⁽¹⁾，松久保 隆監修，櫻井美和⁽²⁾：共著：歯科衛生士のこれがプロフェッショナルケアだ，シエン社，東京，2005. DVD (1)全国歯科衛生士教育協議会，(2)太陽歯科衛生士専門学校
5. 松久保 隆：共著：口腔保健マニュアル，南山堂，東京，2006.
6. 眞木吉信，古賀 寛：共著：う蝕予防のためのフッ化物配合歯磨剤応用マニュアル，社会保険研究所，東京，2006.

調査報告

1. 眞木吉信：島しょ地区歯科保健普及啓発推進事業報告書－神津島村における 4 年間の取組－，東京都福祉保健局，2005. 2004 年度追加分
2. 松久保 隆：「歯と食事のアンケート調査」報告，文京区歯科医師会，2006.
3. 松久保 隆：8020 運動推進特別事業「シルバー人材センター会員口腔健診補完事業」報告書，千葉県歯科医師会，2006.
4. 松久保 隆：8020 運動推進特別事業「妊婦口腔健診補完事業」報告書，千葉県歯科医師会，2006.

その他

1. 須山祐之：シックハウス症候群の診断基準確立に向けて－予防医学的考察のためのバックデータ収集を早急に－，住宅ジャーナル **2004**(6), 2004. 2004 年度追加分
2. 須山祐之：リサイクル時代の建材 未来予想図－環境と経済の共存が義務－，住宅ジャーナル **2005**(1), 2005. 2004 年度追加分
3. 荒川浩久⁽¹⁾，金澤典子⁽¹⁾，武井典子⁽¹⁾，堀 正子⁽¹⁾，松久保 隆，松田裕子⁽¹⁾：歯科衛生士の学会活動と専門性の推進を考える，デンタルハイジーン **25**(2), 173～176, 2005. 2004 年度追加分 (1)日本口腔衛生学会歯科衛生士委員会

4. 眞木吉信, 山之内浩司⁽¹⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.42:患者さんで舌ピアスをしている方がいます。このまま続けて大丈夫なのでしょうか?, 歯衛士 **29**(4), 92~94, 2005. (1)徳島赤十字病院
5. 眞木吉信, 土屋和子⁽¹⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.43:歯科衛生士臨床における為害性について教えてください, 歯衛士 **29**(4), 95~97, 2005. (1)フリーランス
6. 眞木吉信: フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究, 厚生労働科学研究「フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」(H15-医療-020)平成 16 年度総括研究報告書, 1~11, 2005.
7. 西牟田 守⁽¹⁾, 田中 栄⁽²⁾, 古賀 寛: Project-1 フッ化物の栄養所要量と健康, 厚生労働科学研究「フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」(H15-医療-020)平成 16 年度総括研究報告書, 12~21, 2005. (1)国立健康・栄養研究所,(2)東大・医・整形外科
8. 古賀 寛, 西牟田 守⁽¹⁾: Project-1 乳児のフッ化物摂取量, 厚生労働科学研究「フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」(H15-医療-020)平成 16 年度総括研究報告書, 33~37, 2005. (1)国立健康・栄養研究所
9. 中垣晴男⁽¹⁾, 眞木吉信: Project-2 フッ化物配合歯磨剤マニュアルの検討, 厚生労働科学研究「フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」(H15-医療-020)平成 16 年度総括研究報告書, 43~46, 2005. (1)愛知学院大・歯・口衛
10. 古賀 寛, 眞木吉信: Project-2 地域歯科保健としてのフッ化物洗口事業の齲蝕予防効果 医療経済効果分析, 厚生労働科学研究「フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」(H15-医療-020)平成 16 年度総括研究報告書, 47~55, 2005.
11. 眞木吉信: Project-2 ライフステージおよびカリエスリスクとフッ化物応用, 厚生労働科学研究「フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」(H15-医療-020)平成 16 年度総括研究報告書, 56~66, 2005.
12. 村上多恵子⁽¹⁾, 中垣晴男⁽¹⁾, 西牟田 守⁽²⁾, 古賀 寛: Project-1 幼児のフッ化物摂取量, 厚生労働科学研究「フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」(H15-医療-020)平成 16 年度研究報告書, 59~77, 2005. (1)愛知学院大・口腔衛生,(2)国立健康・栄養研究所
13. 小林清吾⁽¹⁾, 佐久間汐子⁽²⁾, 八木 稔⁽²⁾, 眞木吉信: Project-1 フロリダーションの環境整備ーフッ化物濃度調整装置デモンストレーション・プログラムー, 厚生労働科学研究「フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」(H15-医療-020)平成 16 年度研究報告書, 91~95, 2005. (1)日大松戸・衛生,(2)新潟大・歯医学総合研究科
14. 眞木吉信, 飯田浩司⁽¹⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.44:風邪をひいたときに歯が痛むという患者さんがいますが、なぜでしょう?, 歯衛士 **29**(5), 86~87, 2005. (1)東医歯大・歯科総合診療部
15. 眞木吉信, 田村 恵⁽¹⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.45 オーバーブラッシングについて最近よく耳にしますが、患者さんにブラッシング圧を指導する際、どのように説明したらよいのでしょうか?, 歯衛士 **29**(5), 88~89, 2005. (1)東京都

16. 眞木吉信, 飯島洋一⁽¹⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.46:院長から進行停止期のう蝕だからメンテナンスで
気をつけるようにといわれました。進行停止期のう蝕とはどういったことでしょうか。また、どうメンテナンスすれば
よいでしょうか?, 歯衛士 **29**(6), 78~80, 2005. (1)長崎大・健康予防科学
17. 眞木吉信, 野村義明⁽¹⁾, 中村瑞穂⁽²⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.47:唾液検査の結果、Lactobacillusが特
に多い患者さんがいますが、どの様に食生活指導を行えばよいでしょうか。糖分摂取の仕方などについても教え
てください, 歯衛士 **29**(6), 81~83, 2005. (1)鶴見大・予防歯科,(2)東京都
18. 中根偕夫⁽¹⁾, 大塚哲郎⁽¹⁾, 宮島 毅⁽¹⁾, 須山祐之: 強力音場中の放電ストリーマの挙動, 日本大学生産工学部研
究報告A **38**(1), 29~34, 2005. (1)日大・生産工・電気電子工
19. 眞木吉信, 沼部幸博⁽¹⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.48:臨床的アタッチメントレベルについてわかりやすく
教えてください, 歯衛士 **29**(7), 70~71, 2005. (1)日歯大・歯周病学
20. 眞木吉信, 加治初彦⁽¹⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.49:矯正治療が必要と思われる患者さんがおりますが、
矯正治療を拒んでいます。そのままでも心配ないでしょうか?, 歯衛士 **29**(7), 72~74, 2005. (1)東京都
21. 眞木吉信, 渡邊麻理⁽¹⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.50:新人歯科衛生士ですが、患者さんとのつき合いが
苦手です。コミュニケーションについてこれから研修会などに参加し、勉強していこうと思いますが、何かポイント
などありますか?, 歯衛士 **29**(8), 70~71, 2005. (1)東京都
22. 眞木吉信, 村上恵子⁽¹⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.51:血圧測定の際、どのような患者に対し、どんなとき、
どのタイミングで測定すればよいのでしょうか。、歯衛士 **29**(8), 72~73, 2005. (1)東京都
23. 眞木吉信, 品田佳世子⁽¹⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.52:口臭のひどい患者さんがおりますが、面と向か
ってそれを伝えることができません。どのようにしたらよいでしょうか?, 歯衛士 **29**(9), 82~83, 2005. (1)東医歯大・
健康推進歯学
24. 眞木吉信, 尾形由美子⁽¹⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.53:就寝時には義歯は外すよう指導すべきなのでし
ょうか、それとも外さない方がよいのでしょうか?, 歯衛士 **29**(9), 84~86, 2005. (1)鹿児島県
25. 眞木吉信, 鈴木 章⁽¹⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.54:市販で売られているキシリトールガムと歯科医院で
売られているものとは、どちらがよいのでしょうか?, 歯衛士 **29**(10), 88~89, 2005. (1)日歯大・総合診療科
26. 眞木吉信, 岡崎好秀⁽¹⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.55:妊婦さんから、生後何ヶ月ぐらいから子どもを歯科
医院に連れてくるのが良いのかと聞かれました。まだ歯が萌出していない赤ちゃんでも、連れていった方がよい
のでしょうか?, 歯衛士 **29**(10), 90~92, 2005. (1)岡山大・小児歯科
27. 松久保 隆: 口腔保健領域の学会員に求められるもの(巻頭言), 日咀嚼会誌 **15**(2), 47, 2005.
28. 眞木吉信, 古賀雅子⁽¹⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.56:コーチングという言葉をよく聞きますが、どんなもの
でしょうか?歯科衛生士にはどう関係があるのですか?, 歯衛士 **29**(11), 96~97, 2005. (1)東京都
29. 眞木吉信, 赤井綾美⁽¹⁾: Q&A あなたの質問に答えます No.57:子どもの授乳期間が長いと、う蝕が多いと聞いた
のですが、どう対応したらよいのでしょうか?, 歯衛士 **29**(12), 92~94, 2005. (1)関西ウィルビーイング

30. 松久保 隆：咬合咀嚼機能と聴力との関連性に関する臨床疫学ならびに聴覚野応答解析，平成 15 年度～平成 17 年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書，2006.

学会抄録

1. 中村昭二⁽¹⁾，谷本裕子⁽²⁾，小笠原芳晃⁽¹⁾，藤々木英文⁽¹⁾，阿知波正人⁽¹⁾，永原邦茂⁽³⁾，星 詳子⁽⁴⁾，松久保 隆：頸椎から診た生体咬合治療の紹介、その 1.診断・治療と顔面形態的特長，第 14 回日本全身咬合学会学術大会プログラム・抄録集，20，2004.(第 14 回日本全身咬合学会学術大会，東京) 2004 年度追加分 (1)日本生体咬合研究所，(2)岡山大学・歯・補綴，(3)愛知学院大学・歯・矯正，(4)東京都精神医学総合研究所
2. 中村昭二⁽¹⁾，谷本裕子⁽²⁾，玉川秀泰⁽¹⁾，九馬 厚⁽¹⁾，小笠原芳晃⁽¹⁾，永原邦茂⁽³⁾，星 詳子⁽⁴⁾，松久保 隆：咬合関連症候群における咬合紙透過像診断の臨床的意義と有効性，第 14 回日本全身咬合学会学術大会プログラム・抄録集，30，2004.(第 14 回日本全身咬合学会学術大会，東京) 2004 年度追加分 (1)日本生体咬合研究所，(2)岡山大学・歯・補綴，(3)愛知学院大学・歯・矯正，(4)東京都精神医学総合研究所
3. 君塚隆太⁽¹⁾，阿部 修⁽¹⁾，石原和幸⁽¹⁾，加藤哲男⁽¹⁾，奥田克爾⁽¹⁾，寺嶋 毅⁽²⁾，足立三枝子⁽³⁾，松久保 隆，佐々木英忠⁽⁴⁾：高齢者口腔ケアは、誤嚥性肺炎・インフルエンザ予防に繋がる，日歯医会誌 **24**，123，2005.(第 17 年度日本歯科医学学会学術大会，東京) 2004 年度追加分 (1)微生物，(2)市病・内科，(3)府中市民医療センター，(4)東北大・老年・呼吸器内科学
4. 鈴木泰子⁽¹⁾，河野有里⁽¹⁾，眞木吉信：診療所における 3 歳児齲蝕罹患状況の推移，小児歯誌 **43**(1)，133，2005.(平成 16 年度日本小児歯科学会関東地方会，松戸市) 2004 年度追加分 (1)ライオン歯科衛生研究所
5. 石川博美⁽¹⁾，富田友美子⁽²⁾，山中すみへ：日本茶とManukaの脂質およびステロール組成の比較，日衛誌 **60**(2)，263，2005.(第 75 回日本衛生学会総会，新潟市) 2004 年度追加分 生素研，生素研 (1)文教大・教育，(2)生化学
6. 山中すみへ，太田 薫，野村登志夫：ストレス指標としての唾液中コルチゾールおよび S-IgA 濃度，日衛誌 **60**(2)，290，2005.(第 75 回日本衛生学会総会，新潟市) 2004 年度追加分 生素研
7. 須山祐之，阿部恵子⁽¹⁾，中根偕夫⁽²⁾，大塚哲郎⁽²⁾，高久 悟⁽³⁾，山田裕司⁽⁴⁾，村松 淳⁽⁵⁾：空中浮遊微生物除去および防止機器の性能評価法に関する研究 第 1 報—超音波による胞子分散法の検討—，第 23 回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会予稿集，88～91，2005.(第 23 回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会，東京) (1)環境微生物学研究所，(2)日大・生産工・電気工，(3)埼玉県立短大・歯科衛生，(4)放射線総合医学研究所，(5)口健臨・麻酔科
8. Kobayashi,Y., Sakurai,M., Kanehisa,T.⁽¹⁾, Morita,M.⁽¹⁾, Matsukubo,T. : Recognition and acceptance of sweets with dental caries labels by Japanese parents, Abstracts of The 3rd Asian Conference of Oral Health Promotion for School Children, 189, 2005.(The 3rd Asian Conference of Oral Health Promotion for School Children, Caohsiung, Taiwan) (1)北大・大学院
9. Sugihara,N., Kagami,N., Maki,Y., Matsukubo,T., Takaesu,Y. : Comparison of dental explorer and CPI probe for diagnosing pre-caries conditions, Abstract of The 3rd Asian Conference of Oral Health Promotion for Achool Children, 190, 2005.(The 3rd Asian Conference of Oral Health Promotion for Achool Children, Caohsiung, Taiwan)

10. Kagami,N., Sugihara,N., Matsukubo,T. : Significance of parents' recognition of pre-elementary school children's daily health behaviors in Japan, Abstruacts of The 3rd Asian Conference of Oral Health Promotion for School Children, 191, 2005.(The 3rd Asian Conference of Oral Health Promotion for School Children, Caohsiumg, Taiwan)
11. 須山祐之, 阿部恵子⁽¹⁾ : 銅発砲金属のエアーフィルターによる空気清浄装置への応用に関する研究, 日本防菌防黴学会第 32 回年次大会要旨集, 121, 2005.(第 32 回日本防菌防黴学会, 大阪市) (1)環境生物学研究所
12. 大塚義顕⁽¹⁾, 尾形明美⁽²⁾, 村田尚道⁽²⁾, 向井美恵⁽²⁾, 杉原直樹, 眞木吉信, 石田 僚⁽²⁾, 黒川亜紀子⁽³⁾ : ALS患者のための口腔ケア, 医療 **59**(6), 338, 2005.(第 59 回国立病院総合医学会, 広島市) (1)国立療養所千葉東病院,(2)昭和 大・歯・口腔衛生,(3)ライオン歯科衛生研究所
13. 柴田力, 杉原直樹, 松久保 隆 : 施設入所者における訪問歯科診療前後での ADL の変化, 第 16 回日本老年歯科医学会総会・学術大会プログラム・事前抄録集, 99, 2005.(第 16 回日本老年歯科医学会総会・学術大会, 東京)
14. 杉原直樹, 柴田力, 眞木吉信, 松久保 隆, 高江洲義矩 : 高齢者の dental visits に関わる要因, 歯科学報 **105**(3), 280, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会, 千葉市)
15. 古賀 寛, 松本亮子⁽¹⁾, 野宮和歌子⁽¹⁾, 眞木吉信 : 地域歯科保健としてのフッ化物洗口事業の齲蝕予防と医療経済効果分析, 日公衛誌 **52**(8), 509, 2005.(第 64 回日本公衆衛生学会総会, 札幌市) (1)鴨川市健康管理課
16. 小泉信隆⁽¹⁾, 市川信一⁽¹⁾, 森岡俊介⁽¹⁾, 高野直久⁽¹⁾, 兵藤英昭⁽¹⁾, 清水明美⁽²⁾, 梅田善之⁽²⁾, 山下三雄⁽³⁾, 土屋律子⁽⁴⁾, 黒川亜紀子⁽⁵⁾, 山田 清⁽⁵⁾, 眞木吉信 : 島しょ地区歯科保健普及啓発推進事業報告ー神津島村における 4 年間の取組ー, 日公衛誌 **52**(8), 907, 2005.(第 64 回日本公衆衛生学会, 札幌市) (1)東京都歯科医師会,(2)神津島村,(3)元島しょ保健所,(4)東京都福祉保健局,(5)ライオン歯科衛生研究所
17. 小泉信隆⁽¹⁾, 市川信一⁽¹⁾, 森岡俊介⁽¹⁾, 高野直久⁽¹⁾, 兵藤英昭⁽¹⁾, 清水明美⁽²⁾, 梅田善之⁽²⁾, 山下三雄⁽³⁾, 土屋律子⁽⁴⁾, 黒川亜紀子⁽⁵⁾, 山田 清⁽⁵⁾, 眞木吉信 : 島しょ地区歯科保健普及啓発推進事業報告ー神津島村における 4 年間の取組ー, 日公衛誌 **52**(8), 907, 2005.(第 64 回日本公衆衛生学会, 札幌市) (1)東京都歯科医師会,(2)神津島村,(3)元島しょ保健所,(4)東京都福祉保健局,(5)ライオン歯科衛生研究所
18. 富田友美子⁽¹⁾, 三宅菜穂子⁽²⁾, 山中すみへ : ラットの唾液腺中脂質成分の加齢による変化, 口腔衛会誌 **55**(4), 324, 2005.(第 54 回日本口腔衛生学会・総会, 東京) 生素研,生素研 実動施設 (1)生化学,(2)口健臨・補綴科
19. 古賀 寛, 山岸 敦⁽¹⁾, 高柳篤史, 前田晃嗣⁽¹⁾,松久保 隆 : セルフケアにおけるフッ化物の有効性研究 4ーフッ化物配合歯磨剤の象牙質へのフッ化物取り込み挙動の解析, 口腔衛会誌 **55**(4), 356, 2005.(第 54 回日本口腔衛生学会・総会, 東京) (1)花王・ヘルスケア研究所
20. 森田十誉子⁽¹⁾, 山崎洋治⁽¹⁾, 市橋 透⁽¹⁾, 小川洋子⁽¹⁾, 眞木吉信, 渋谷耕司⁽¹⁾ : 成人のう蝕に影響する生活習慣および口腔保健行動要因の解析, 口腔衛会誌 **55**(4), 416, 2005.(第 54 回日本口腔衛生学会・総会, 東京) (1)ライオン歯科衛生研究所

21. 安藤雄一⁽¹⁾, 平田幸夫⁽²⁾, 石川清子⁽³⁾, 臼井和弘⁽⁴⁾, 鶴本明久⁽⁵⁾, 眞木吉信 : 都道府県におけるフッ化物利用に関する取り組みの現状, 口腔衛会誌 **55**(4), 422, 2005.(第54回日本口腔衛生学会・総会, 東京) (1)国立保健医療科学院口腔保健部,(2)神歯大・社会歯科学講座,(3)埼玉県朝霞保健所,(4)秋田県健康福祉部健康対策課,(5)鶴見大・歯・予防歯科学講座
22. Yoshino,K., Fukai,K., Matsukubo,T., Takaesu,Y. : Relationship between oral health behaviors and condition (Ten year cohort study in adult), 口腔衛会誌 **55**(4), 427, 2005.(第54回日本口腔衛生学会・総会, Tokyo)
23. 深井穫博⁽¹⁾, 吉野浩一, 高江洲義矩 : Standard Ganbleで評価した選好ウェイトと患者満足度との関係, 口腔衛会誌 **55**(4), 428, 2005.(第54回日本口腔衛生学会・総会, 東京) (1)深井保健科学研究所
24. 田辺吉彦, 鏡 宣昭, 櫻井美和, 村松康子, 杉原直樹, 松久保 隆 : 歯科衛生士専門学校生の入学時の意識と歯科に関する知識, 口腔衛会誌 **55**(4), 432, 2005.(第54回日本口腔衛生学会・総会, 東京)
25. 須山祐之, 高橋義一⁽¹⁾, 村松 淳⁽²⁾, 高久 悟⁽³⁾, 大川由一⁽⁴⁾, 小林美香⁽⁵⁾ : 歯科医療施設での空気感染に関する実践的な感染対策(その4), 口腔衛会誌 **55**(4), 483, 2005.(第54回日本口腔衛生学会・総会, 東京) (1)社会歯,(2)口健臨・麻酔科,(3)埼玉県立短大・歯科衛生,(4)千葉衛短大・歯衛,(5)東京都
26. 柴田力, 杉原直樹, 松久保 隆 : 要介護高齢者における訪問歯科診療の効果, 口腔衛会誌 **55**(4), 495, 2005.(第54回日本口腔衛生学会・総会, 東京)
27. Kobayashi,Y., Matsukubo,T., Shintani,M.⁽¹⁾, Ishikawa,T.⁽²⁾ : Method of minimizing magnetic fields generated from masticatory muscle with Fourier analysis, 口腔衛会誌 **55**(4), 507, 2005.(第54回日本口腔衛生学会・総会, 東京) 脳科学研 (1)脳科学研究施設,(2)保存III
28. Yoneyama,M., Kobayashi,Y., Sakurai,M., Sugihara,N., Nakamura,S., Matsukubo,T. : Dynamic evaluation of occlusal and chewing functions with pattern analysis using audiograms, 口腔衛会誌 **55**(5), 635, 2005.(第54回日本口腔衛生学会・総会, Tokyo)
29. 村田尚道⁽¹⁾, 齋島弘之⁽¹⁾, 石川健太郎⁽¹⁾, 山本麗子⁽²⁾, 黒川亜紀子⁽³⁾, 老川由紀⁽³⁾, 山田 清⁽³⁾, 弘中祥司⁽¹⁾, 内海明美⁽¹⁾, 大河内昌子⁽¹⁾, 大岡貴史⁽¹⁾, 杉原直樹, 眞木吉信, 稲本淳子⁽⁴⁾, 白井麻理⁽⁴⁾, 井口 喬⁽⁴⁾, 山田光彦⁽⁵⁾, 住谷 要⁽⁶⁾, 向井美恵⁽¹⁾ : 精神障害(統合失調症)者の口腔環境・機能の実態と口臭, 障害者歯 **26**(3), 539, 2005.(第22回日本障害者歯科学総会および学術大会, 甲府市) (1)昭和大・歯・口腔衛生,(2)昭和大・附属鳥山病院・歯科,(3)ライオン歯科衛生研究所,(4)昭和大・附属鳥山病院・精神科,(5)国立精神・神経センター,(6)昭和大・歯・顎口腔疾患制御外科学
30. Koga,H., Kurokawa,M., Sugihara,N., Matsukubo,T. : Acid Resistance of Bovine enamel treated with fluoride-containing pit-and fissure-sealant short term in vitro, The Journal of the Korean Academy of Dental Health **29**, 16~17, 2005.(44th The Korean Academy of Dental Health, Seoul, Korea)
31. Ito,S.⁽¹⁾, Sakurai,M., Sugihara,N., Matsukubo,T. : Questionnaire on spread of preventive dentistry in private dental clinics in Japan, The Journal of the Korean Academy of Dental Health **29**, 42~43, 2005.(44th The Korean Academy of Dental Health, Seoul, Korea) (1)東歯大・学生

32. Matsukubo,T., Tsuchiya,R.⁽¹⁾, Miyatake,K.⁽²⁾, Takano,N.⁽³⁾, Sugihara,N. : Five-year survey of oral-health behaviors and status of adults in Tokyo, The Journal of the Korean Academy of Dental Health **29**, 54～55, 2005.(44th The Korean Academy of Dental Health, Seoul, Korea) (1)東京都福祉保健局,(2)鶴見大,(3)東京都歯科医師会
33. 飯島洋一⁽¹⁾, 古賀 寛, 眞木吉信, 高江洲義矩 : Benchmark Dose法を用いた歯のフッ素症発現に関する解析, 口腔衛会誌 **55**(4), 322, 2005.(第 54 回日本口腔衛生学会・総会, 東京) (1)長崎大・大学院・医歯薬学総合研究科予防科学講座口腔保健管理学分野
34. 佐々木江美⁽¹⁾, 眞木吉信, 小野 繁⁽²⁾ : 心身症患者と一般歯科受診者の口腔乾燥状態の比較, 口腔衛会誌 **55**(4), 503, 2005.(第 54 回日本口腔衛生学会・総会, 東京) (1)ライオン歯科衛生研究所,(2)東医歯大・頭頸部心身医学
35. 古賀 寛, 高柳篤史, 松久保 隆 : 歯質へのフッ化物取り込みと口腔内フッ化物濃度を指標としたフッ化物配合歯磨剤の使用量の検討, 歯科学報 **105**(5), 538, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会, 千葉市)
36. 杉山剛史⁽¹⁾, 佐藤 亨⁽¹⁾, 齋藤文明⁽¹⁾, 松久保 隆, 中尾祐介⁽¹⁾, 松木佳史⁽¹⁾, 五十嵐由佳⁽¹⁾, 山中喜男⁽²⁾, 川村康中⁽³⁾, 宮田右京⁽⁴⁾ : 睡眠時無呼吸症候群患者と健常者の咬合接触状態の観察, 歯科学報 **105**(5), 542, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会, 千葉市) (1)補綴II,(2)東京都,(3)広島市,(4)岩手県
37. 須山祐之 : 空中浮遊微生物除去装置および防止機器の性能評価法(テーマ I), 室内環境学会誌 **8**(2), 257～259, 2005.(平成 17 年度室内環境学会総会・研究発表会, 北九州市)
38. 阿部 智⁽¹⁾, 門井兼典⁽²⁾, 中村彩花⁽²⁾, 平田幸夫⁽³⁾, 眞木吉信 : 日本の歯科大学における国際交流の実態調査, 神奈川歯学 **40**(抄録集), 76, 2005.(第 40 回神奈川歯科大学学会, 横須賀市) (1)神歯大・歯科医療社会学,(2)歯科保健医療国際協力協議会,(3)神奈川歯大・歯科医療社会学
39. 眞木吉信, 杉原直樹, 黒川亜紀子⁽¹⁾, 山田 清⁽¹⁾ : 歯肉退縮と歯根面齲蝕の発病に関する研究, 老年歯医 **20**(3), 250～251, 2005.(第 16 回日本老年歯科医学会大会, 東京) (1)ライオン歯科衛生研究所
40. 宮本壮基⁽¹⁾, 小西秀次⁽¹⁾, 笠原正明⁽¹⁾, 佐久間博史⁽¹⁾, 三木 哲⁽¹⁾, 向井健介⁽¹⁾, 松田一郎⁽¹⁾, 岸田 隆⁽¹⁾, 杉原直樹, 今井光枝, 松久保 隆 : 妊婦歯科健診未実施市町村における妊婦の口腔状態, 第 44 回千葉県公衆衛生学会演題抄録集, 32, 2006.(第 44 回千葉県公衆衛生学会, 千葉市) (1)千葉県歯科医師会
41. 三木 哲⁽¹⁾, 小西秀次⁽¹⁾, 笠原正明⁽¹⁾, 宮本壮基⁽¹⁾, 佐久間博史⁽¹⁾, 向井健介⁽¹⁾, 松田一郎⁽¹⁾, 岸田 隆⁽¹⁾, 杉原直樹, 今井光枝, 松久保 隆 : 介護予防を目的とした高齢者歯科保健活動のための基礎調査, 第 44 回千葉県公衆衛生学会演題抄録集, 56, 2006.(第 44 回千葉県公衆衛生学会, 千葉市) (1)千葉県歯科医師会

10 . 法 歯 学 講 座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|-------|-------|--|
| 教 授 | 水口 清 | DNA の遺伝的多型の分析と法医学的応用 (A93-0300-11) 唾液の遺伝標識に関する研究 (A75-0300-2) |
| 助 教 授 | 花岡 洋一 | 硬組織からの DNA 分析に関する研究 (A90-0300-10) |
| 助 手 | 丸山 澄 | DNA の遺伝的多型の分析と法医学的応用 (A93-0300-11) |
| | 伊藤 春雄 | DNA の遺伝的多型の分析と法医学的応用 (A93-0300-11) |
| 大学院生 | 野平 千鶴 | DNA の遺伝的多型の分析と法医学的応用 (A93-0300-11) |

2. 成果の概要

1) 日本人およびマレー人におけるミトコンドリア DNA 多型 の系統分化 (A93-0300-11)

211 人の血縁関係の無い人の血液試料を用いてミトコンドリア DNA の coding 領域の多型検査範囲を拡大し、ほぼ全ゲノムに近い情報に基づいた日本人のミトコンドリア DNA 多型の系統分化を確立した。結果的に新たに 79 箇所の coding 領域の変異を調査し、日本人を 106 系統に分類した。M7a1、G1a などの下流の系統は、比較的均一な系統が日本でボトルネックを受けた後、多様化したものと考えられた。また日本人に高頻度に出現する D4 系統を細分化したことも含め、coding 領域を含めた分類は法医学における個人識別のみで無く、対象者の地理的由来の推定に有用であることを示した。また、新たな 80 人の日本人について DNA 多型の検査を行いそれぞれの系統を明らかにし、211 人のデータには見い出されなかった 5 系統と、新しい M* 系統を見い出した。30 人のマレー人の mtDNA の系統を検査したところ、33% (13 人) に 10 種の日本人には認められない系統が見い出された。これらのうち 8 系統は東アジアのデータに認められず、南アジアに広がった系統に属するものと考えられた。以上のデータは日本人に存在する mtDNA 系統分化をより明確にすると共に、南アジアを含めた、東南アジアを対象とした法医学的個人識別と地理的由来の推定に有用なデータを提供し、mtDNA 多型の法医学的応用範囲を拡大した。

DNA 多型, **13** 251-252, 2005.

DNA 多型, **13** 253-255, 2005.

2) 変性 DNA からの多型検査に関する検討 (A93-0300-11)

158 例の個体の LPL locus の STR 多型を検査したところ、6 種の allele が見い出され、ヘテロ接合度は 48.8% と低かったが、日本人は allele 10 が高頻度で、90%前後の人が allele 10 を有することがわかった。この頻度はヨーロッパ人が 40-65%であるところから、両者の識別の補助となりうると考えられた。LPL locus と PCR 増幅産物のわずかに大きな D21S11 locus を対象に、変性 DNA からの多型検出効率を比較したところ、LPL の検出効率が高く、PCR 増幅サイズの減少は検出効率を増加させることを示した。また高度変性資料を対象とした DNA 鑑定において、mtDNA 多型の正確なデータベースを残すことが、DNA 検査結果の評価に重要な役割を果たすこと、DNA 多型検査は歯科的個人識別法と併用されることにより、さらに互いの有用性を増す事例を提示した。

Bull Tokyo Dent Coll **46**(4), 115-121, 2005.

Bull Tokyo Dent Coll **46**(4), 145-153, 2005.

3. 学外共同研究

| 担当者 | 研究課題 | 学外研究施設 | | |
|-------|------------------------|------------------------|--------|-------------------------|
| | | 研究施設 | 所在地 | 責任者 |
| 水口 清 | シスタチンの分子生物学的・機能的 研究 | 日本歯科大学新潟歯学部・口 腔生化学 | 新潟市 | 斎藤 英一 |
| 水口 清 | マレー人の DNA 多型に関する研究 | マレー大学歯学部 | Malaya | Phrabhakaran Nambiar |
| 花岡 洋一 | 口腔内用小型スキャナーの開発 | (株) ミットヨ川崎研究開発 センター | 川崎市 | 安田 守 |
| 花岡 洋一 | デジタル機器の身元確認への応用 | 杏林大学医学部法医学教室 | 三鷹市 | 佐藤 喜宣 |

4. 科学研究費補助金・各種補助金

| 研究代表者 | 研究課題 | 研究費 |
|-------|---|----------------|
| 水口 清 | DNA 多型を用いた法歯学的個人識別検査法の適用範囲の拡大と検査 法の転換 | 文科省科研費・基盤研究(B) |
| 水口 清 | 法医学的個人識別における DNA 多型を用いた日本人と近縁集団との 識別 | 文科省科研費・萌芽研究 |
| 花岡 洋一 | 手指による汚染は歯科補綴物を DNA 源とした個人識別にどれだけの 影響をおよぼすか | 文科省科研費・基盤研究(C) |
| 丸山 澄 | 高度変性資料に対応可能な DNA 多型を用いた法歯学的個人の識別 | 文科省科研費・若手研究(B) |

5. 研究活動の特記すべき事項

学会・研究会主催

| 主催者 | 年月日 | 学会・研究会 | 会場 | 主催地 |
|-------|--------------|--------------------|------------|-----|
| 花岡 洋一 | 2005. 11. 26 | 第 26 回法医学歯科研究会セミナー | 神奈川県歯科医師会館 | 横浜市 |

シンポジウム

| シンポジスト | 年月日 | 主題名 | 学会名 | 開催地 |
|--------|--------------|-----------------------------------|--|------|
| 水口 清 | 2005. 5. 14 | 個人識別での歯科学検査と DNA 検査 | 和歌山県警察歯科医会発足 10 周年記念 第 3 回和歌山県警察歯科医 会・和歌山県警察合同研修会 | 和歌山市 |
| 花岡 洋一 | 2005. 12. 11 | 子ども虐待の早期発見を目指して ー歯科臨床からのアプローチー | 神奈川歯科大学同窓会学術講 演会 | 横浜市 |

6. 教育講演等教育に関する業績、活動

教育講演

| 講演者 | 年月日 | 演題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------|--------------|---|---|-------|
| 花岡 洋一 | 2005. 6. 23 | 大規模災害における身元確認班の位置づけ | 平成 17 年度東京都・町田市 合同総合防災訓練第 1 回検 視検案身元確認訓練研修会 | 東京 |
| 花岡 洋一 | 2005. 7. 14 | 歯からわかること | 警察庁検視実務専科 | 東京 |
| 花岡 洋一 | 2005. 7. 16 | 歯科的個人識別 2-警察歯科医の役割- | 平成 17 年度北海道警察歯 科協力医会研修会 | 札幌市 |
| 花岡 洋一 | 2005. 7. 28 | 防災訓練参加の意義 | 川口市総合防災訓練研修 会 | 川口市 |
| 花岡 洋一 | 2005. 8. 25 | 大規模災害時の身元確認について 5 | 埼玉県歯科医師会第 5 回 身元確認班研修会 | さいたま市 |
| 花岡 洋一 | 2005. 8. 28 | 身元確認訓練における実習指導 | 平成 17 年度川口市総合防 災訓練 | 川口市 |
| 花岡 洋一 | 2005. 8. 29 | 大規模災害における歯科身元確認班の位 置づけ | 平成 17 年度東京都・町田 市合同総合防災訓練事前 講習会 | 東京 |
| 花岡 洋一 | 2005. 9. 1 | 災害時歯科医療救護活動における実習指導 | 平成 17 年度東京都・町田 市合同総合防災訓練 | 東京 |
| 花岡 洋一 | 2005. 9. 4 | 身元確認訓練における実習指導 | 平成 17 年度八都県市合同 総合防災訓練 | 富津市 |
| 花岡 洋一 | 2005. 9. 11 | 誤解していませんか？ -インフォームドコンセントとリスクマ ネージメント- | 平成 17 年度 DH フレッシ ュアップセミナー | 東京 |
| 花岡 洋一 | 2005. 10. 20 | 航空機事故救難総合訓練における実習指導 | 平成 17 年度新東京国際空 港航空機事故消火救難総 合訓練 | 成田市 |
| 水口 清 | 2005. 10. 17 | 法歯学 | 警察大学校・現場鑑識専科 | 東京 |
| 花岡 洋一 | 2005. 10. 22 | 歯科医師の新たな役割 | 平成 17 年度安房歯科医師 会学術講演会 | 館山市 |
| 花岡 洋一 | 2005. 10. 26 | 歯科的個人識別の実際 -いかにして所見をとるか- | 東京都調布市警察歯科医 会平成 17 年度学術講演会 | 東京 |
| 水口 清 | 2005. 11. 9 | 死体の法医的観察・法歯学について | 海上保安庁門司分校・鑑 識科学研修 | 門司市 |
| 水口 清 | 2005. 11. 19 | 顎顔面領域の情報からの個人識別 | 夷隅郡市歯科医師会学術 講習会 | 夷隅郡市 |
| 花岡 洋一 | 2005. 12. 11 | 歯科医に与えられた新たな役割 | 神奈川歯科大学同窓会学 術講演会 | 横浜市 |

| 講演者 | 年月日 | 演題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-----------------------|-------------|---------------------------------|-----------------------------|-----|
| 花岡 洋一 | 2006. 1. 16 | 歯からわかること 1 | 警察庁検視実務専科 | 東京 |
| 花岡 洋一 | 2006. 1. 23 | 歯からわかること 2 | 警察庁検視実務専科 | 東京 |
| 花岡 洋一 | 2006. 1. 28 | 歯科領域における医事紛争の最新動向 | 東京歯科大学同窓会石川支部学術講演会 | 和倉市 |
| 花岡 洋一 | 2006. 2. 4 | 歯科的個人識別の実際 | 福岡県警察歯科医会特別講演会 | 福岡市 |
| 花岡 洋一 | 2006. 2. 9 | 歯科領域からの子ども虐待防止と早期発見について | 東京歯科大学市川総合病院歯科臨床研修セミナー | 市川市 |
| 花岡 洋一 | 2006. 2. 14 | 歯科的個人識別の実際 －いかにして所見をとるか 実習編－ | 東京都台東区浅草歯科医師会身元確認講習会 | 東京 |
| 花岡 洋一 | 2006. 2. 17 | 歯科身元確認班におけるX線写真と歯科医の役割 | 城南地区歯科医師会デジタルX線画像解析装置操作講習会 | 東京 |
| 水口 清 花岡 洋一 丸山 澄 | 2006. 2. 27 | 災害時歯科医療救護における身元確認作業の実務 | 東京都健康局医療政策部・身元確認に関する歯科医師研修会 | 東京 |
| 水口 清 花岡 洋一 丸山 澄 | 2006. 3. 13 | 災害時歯科医療救護における身元確認作業の実務 | 東京都健康局医療政策部・身元確認に関する歯科医師研修会 | 東京 |

教育ワークショップ等

| 氏名 | 年月日 | ワークショップ名 | 役割 | 開催地 |
|-------|-------------------|--------------------------------------|-----|-----|
| 花岡 洋一 | 2005. 12. 3～12. 4 | 第2回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |
| 丸山 澄 | 2005. 8. 6～7 | 第18回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ | 参加者 | 千葉市 |

論文

1. Sekiguchi,H.⁽¹⁾, Wang,X.⁽²⁾, Minaguchi,K., Yakushiji,M.⁽¹⁾ : A point mutation of the ED1 gene in a Japanese family with X-linked hypohidrotic ectodermal dysplasia, Int J Paediatr Dent **15**(1), 73～77, 2005. 原著 分子生研 (1)小児歯,(2)Dept. of Paediatric Dentistry, the Stomatological Coll. of the Fourth Military Medical Univ. Xian, China
2. 野平千鶴, 丸山 澄, 水口 清, P.Nambiar⁽¹⁾ : 日本人およびマレー人のDNA多型, DNA多型 **13**, 251～252, 2005. 原著 A93-0300-11, 科研費・基盤(B) 分子生研 (1)Dept.of Oral Biology, University of Malaya
3. 丸山 澄, 水口 清 : 日本人におけるmtDNA 多型系統の枝葉, DNA 多型 **13**, 253～255, 2005. 原著 A93-0300-11, 科研費・基盤(B), 科研費・若手(B) 分子生研
4. Maruyama,S., Minaguchi,K. : Polymorphism of LPL locus in Japanese and comparison of PCR amplification efficiency from degraded DNA between LPL locus and the D21S11, Bull Tokyo Dent Coll **46**(4), 115～121, 2005. 症例 A93-0300-11, 科研費・基盤(B), 若手(B) 分子生研
5. Minaguchi,K., Maruyama,S., Kasahara,I., Nohira,C., Hanaoka,Y., Tsai,T., Kiriyaama,T., Takahashi,N.⁽¹⁾ : Identification of unknown body using DNA analysis and dental characteristics in chest X-ray photograph, Bull Tokyo Dent Coll **46**(4), 145～153, 2005. 症例 A93-0300-11, 科研費・基盤(B) 分子生研 (1)Scientific Crime Laboratory, Chiba Prefectural Headquarters
6. 加藤哲男⁽¹⁾, 高橋尚子⁽¹⁾, 水口 清, 斎藤英一⁽²⁾, 宝田恭子⁽³⁾, 奥田克爾⁽¹⁾ : 口腔保健への天然物利用, 日歯医学会誌 **25**, 82～86, 2006. 原著 A83-0180-1, HRC5A04 細形研,分子生研,細生研 (1)微生物,(2)新潟工大,(3)東京都

解説

1. 花岡洋一 : 歯科医師が防げる児童虐待—歯科医師のための虐待総論—, 歯界展望 **106**(1), 132～133, 2005.
2. 水口 清 : 法歯学における唾液検査, 歯界展望(特別号), 100, 2006. A75-0300-2

単行図書

1. 花岡洋一(a): 著分担 :臨床家のための矯正 YEAR BOOK'05(初版) (a)矯正歯科臨床におけるリスクマネジメント 55～58 頁, クインテッセンス出版, 東京, 2005.

調査報告

1. 水口 清: 写真鑑定(警視庁公安第1課からの鑑定嘱託) (a)公安事件の写真鑑定による個人識別 1～19 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005.
2. 水口 清,丸山 澄, 花岡洋一 : 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成16年8月依頼, 058-010 の遺骨のDNA 鑑定 20～28 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
3. 水口 清,花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成16年1月依頼, 058-021 の遺骨のDNA 鑑定 20～28 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研

4. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-030 の遺骨の DNA 鑑定 20～28 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
5. 花岡洋一(a): 検査報告書(福岡県警察本部からの検査依頼) (a)身元不明遺体における口腔内所見 on site 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005.
6. 水口 清: 鑑定書(千葉県警察本部からの鑑定嘱託) (a)殺人事件における付着物の DNA 鑑定 1～17 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
7. 水口 清,丸山 澄, 花岡洋一 : 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-002 の遺骨の DNA 鑑定 47～61 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
8. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-026 の遺骨の DNA 鑑定 47～61 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
9. 水口 清,花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-005 の遺骨の DNA 鑑定 47～61 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
10. 水口 清,丸山 澄, 花岡洋一 : 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-008 の遺骨の DNA 鑑定 47～61 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
11. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-038 の遺骨の DNA 鑑定 47～61 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
12. 水口 清,丸山 澄, 花岡洋一 : 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-007 の遺骨の DNA 鑑定 47～61 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
13. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-001 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
14. 水口 清,丸山 澄, 花岡洋一 : 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-004 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
15. 水口 清,丸山 澄, 花岡洋一 : 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-006 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
16. 水口 清,丸山 澄, 花岡洋一 : 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-009 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
17. 水口 清,花岡洋一 : 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-012 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
18. 水口 清,花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-013 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研

19. 水口 清,花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-014 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
20. 水口 清,花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-015 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
21. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-016 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
22. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-017 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
23. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-018 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
24. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-019 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
25. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-020 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
26. 水口 清,花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-022 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
27. 水口 清,花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-023 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
28. 水口 清,花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-024 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
29. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-028 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
30. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-029 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
31. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-031 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
32. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-032 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
33. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-033 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研

34. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-034 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
35. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-035 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
36. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-039 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
37. 水口 清,丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-040 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
38. 水口 清: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-041 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
39. 水口 清: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-042 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
40. 水口 清: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-043 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
41. 水口 清: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-045 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
42. 水口 清: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-047 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
43. 水口 清, 丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-052 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
44. 水口 清, 丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-053 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
45. 水口 清, 丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-056 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
46. 水口 清, 丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 058-057 の遺骨の DNA 鑑定 22～29 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
47. 水口 清: 捜査関連事項照会回答書(神奈川県警察本部からの鑑定嘱託) (a)ミトコンドリア DNA 多型のデータ 1 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2005. 分子生研
48. 水口 清: 鑑定書(千葉県警察本部からの鑑定嘱託) (a)営利略取、逮捕監禁、強盗被疑事件における毛髪の DNA 鑑定 1～11 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研

49. 水口 清: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託)(a)平成 16 年 1 月依頼, 14012 追加家族の DNA 鑑定 1～4 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
50. 水口 清 : 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託)(a)平成 16 年 1 月依頼, 015-001 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
51. 水口 清, 花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託)(a)平成 16 年 1 月依頼, 015-002 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
52. 水口 清, 花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託)(a)平成 16 年 1 月依頼, 015-003 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
53. 水口 清, 花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託)(a)平成 16 年 1 月依頼, 015-004 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
54. 水口 清, 花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託)(a)平成 16 年 1 月依頼, 015-007 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
55. 水口 清: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託)(a)平成 16 年 1 月依頼, 015-014 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
56. 水口 清, 花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託)(a)平成 16 年 1 月依頼, 015-015 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
57. 水口 清, 花岡洋一 : 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託)(a)平成 16 年 1 月依頼, 015-018 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
58. 水口 清, 花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託)(a)平成 16 年 1 月依頼, 015-019 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
59. 水口 清, 花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託)(a)平成 16 年 1 月依頼, 015-020 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
60. 水口 清, 花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託)(a)平成 16 年 1 月依頼, 015-021 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
61. 水口 清, 花岡洋一: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託)(a)平成 16 年 1 月依頼, 015-022 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
62. 水口 清, 伊藤春雄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託)(a)平成 16 年 1 月依頼, 015-023 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
63. 水口 清, 伊藤春雄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託)(a)平成 16 年 1 月依頼, 015-024 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研

64. 水口 清, 伊藤春雄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 015-025 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
65. 水口 清, 伊藤春雄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 015-026 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
66. 水口 清, 伊藤春雄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 015-027 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
67. 水口 清, 伊藤春雄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 015-028 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
68. 水口 清, 丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 015-030 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
69. 水口 清, 丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 015-032 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
70. 水口 清, 丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 015-033 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
71. 水口 清, 丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 015-034 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
72. 水口 清, 丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 015-035 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
73. 水口 清, 丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 015-036 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
74. 水口 清, 丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 015-037 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
75. 水口 清, 丸山 澄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 015-038 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
76. 水口 清, 伊藤春雄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 015-039 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研
77. 水口 清, 伊藤春雄: 戦没者遺骨の鑑定(厚生労働省からの鑑定嘱託) (a)平成 16 年 1 月依頼, 015-040 の遺骨の DNA 鑑定 1～9 頁, 東京歯科大学法歯学講座, 2006. 分子生研

その他

1. Minaguchi,K. : Forensic DNA typing protocol, Legal Med **8**(2), 137, 2006. Books Review

学会抄録

1. 丸山 澄, 水口 清 : ミトコンドリア DNA 多型による日本人と近縁集団との個別配列の識別, 日法医誌 **59**(1), 50, 2005.(第 89 次日本法医学会総会, 高松市) A93-0300-11, 科研費・基盤(B) 分子生研
2. 都築民幸⁽¹⁾, 花岡洋一, 吉田昌記⁽²⁾, 上野麻夫⁽²⁾, 梶原正弘⁽²⁾, 高篠 智⁽²⁾, 棕木 礼⁽²⁾, 水口 清, 佐藤喜宣⁽²⁾ : 遺体の口腔内画像採取における歯科用小型スキャナーの有用性, 日法医誌 **59**(1), 88, 2005.(第 89 次日本法医学会総会, 高松市) A-03-0300-14 (1)日歯大・歯科法医学センター,(2)杏林大・医・法医学
3. 花岡洋一, 高橋信行⁽¹⁾, 都築民幸⁽²⁾, 梶原正弘⁽³⁾, 水口 清, 佐藤喜宣⁽³⁾ : 身元不明死体の歯科所見記録に関する考察—累積身元不明死体の保管記録から—, 日法医誌 **59**(1), 94, 2005.(第 89 次日本法医学会総会, 高松市) A-03-0300-14 (1) 千葉県警・科捜研,(2)日歯大・歯科法医学センター,(3)杏林大・医・法医学
4. 大熊一豊⁽¹⁾, 花岡洋一, 斎藤隆史⁽²⁾, 森 真里⁽¹⁾ : 剖検後の個人識別事例における一考察, 北医療大歯会誌 **24**(1), 121, 2005.(東日本歯学会第 23 回学術大会, 札幌市) (1)北医大・歯・保存 1,(2)北医大・歯・保存 2
5. 丸山 澄, 野平千鶴, 水口 清 : ミトコンドリア DNA 多型による日本人と近縁集団との地理的由来の識別の可能性, 歯科学報 **105**(3), 249, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) A93-0300-11, 科研費・基盤(B) 分子生研
6. 田中秀夫⁽¹⁾, 渡邊洋夫⁽¹⁾, 兵藤英昭⁽¹⁾, 浮地文夫⁽¹⁾, 渡邊儀一郎⁽¹⁾, 大越壽和⁽¹⁾, 山崎一男⁽¹⁾, 岡部綱好⁽¹⁾, 水口 清, 都築民幸⁽²⁾, 小室歳信⁽³⁾, 花岡洋一, 山田良広⁽⁴⁾ : 東京都総合防災訓練における都歯科医師会 10 年のゆみ, 警察歯科医会全国大会(4), 27, 2005.(第 4 回警察歯科医会全国大会, 秋田市) (1)東京都,(2)日歯大・歯科法医学センター,(3)日大・歯・法医,(4)神歯大・歯・法医
7. 丸山 澄, 野平千鶴, 水口 清 : マレー人のミトコンドリア DNA 多型, 歯基礎医会誌 **47**, 195, 2005.(第 47 回歯科基礎医学会総会, 仙台市) A93-0300-11, 科研費・基盤(B), 科研費・若手(B) 分子生研
8. 花岡洋一, 水口 清, 都築民幸⁽¹⁾ : 公開身元捜査における歯科情報の有効活用に関する検討—アンケート調査から—, J Oral Biosci **47**, 195, 2005.(第 47 回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会, 仙台市) A-03-0300-14 (1)日歯大・歯科法医学センター
9. 花岡洋一, 高橋信行⁽¹⁾, 都築民幸⁽²⁾, 梶原正弘⁽³⁾, 水口 清, 佐藤喜宣⁽³⁾ : 累積身元不明死体の歯科所見記録に関する検討—身元不明死体の保管記録から—, 法科学技術 **10**, 181, 2005.(日本法科学技術学会第 11 回学術集会, 大阪市) A-03-0300-14 (1) 千葉県警・科捜研,(2)日歯大・歯科法医学センター,(3)杏林大・医・法医学
10. 吉田昌記⁽¹⁾, 都築民幸⁽²⁾, 花岡洋一, 梶原正弘⁽¹⁾, 上野麻夫⁽¹⁾, 安田 守⁽³⁾, 渡邊知明⁽³⁾, 水口 清, 佐藤喜宣⁽¹⁾ : 歯科用小型スキャナーによる口腔内所見の採取 第 2 報—装置の改良とデジタルデンタルチャート作成用ソフトの開発—, 法科学技術 **10**, 183, 2005.(日本法科学技術学会第 11 回学術集会, 大阪市) A-03-0300-14 (1)杏林大・医・法医学,(2)日歯大・歯科法医学センター,(3)(株)ミットヨ川崎研究開発センター

11. 花岡洋一, 丸山 澄, 水口 清 : 新たな口腔内画像撮影装置の歯科的個人識別への有用性, 歯科学報 **105**(5), 533, 2005.(第 280 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) A-03-0300-14
12. 花岡洋一, 都築民幸⁽¹⁾, 吉田昌記⁽²⁾, 上野麻夫⁽²⁾, 梶原正弘⁽²⁾, 丸山 澄, 水口 清, 佐藤喜宣⁽²⁾ : 歯科用超小型スキャナーによるデジタルデンタルチャートの構築, 第 74 回日本法医学会関東地方会要旨集, 20, 2005.(第 74 回日本法医学会関東地方会, 相模原市) A-03-0300-14 (1)日歯大・歯科法医学センター,(2)杏林大・医・法医学
13. 水口 清, 丸山 澄, 野平千鶴, 佐々木継泰⁽¹⁾, 石川 昂⁽¹⁾, P.Nambiar⁽²⁾ : マレーシア・クアラルンプール周辺に在住するマレー人のミトコンドリアDNA多型解析, 日本DNA多型学会第 14 回学術集会抄録集, 29, 2005.(日本DNA多型学会第 14 回学術集会, 高松市) A93-0300-11, 科研費・基盤(B) 分子生研 (1)東京歯科大学学生,(2)Dept. of Oral Biology, University of Malaya
14. Minaguchi,K., Maruyama,S., Nohira,C., Nambiar,P.⁽¹⁾ : Phylogrny of mitochondrial DNA polymorphisms and its application to forensic science, 2005 Forensic Science Symposium Program & Abstracts, 95~96, 2005.(2005 Forensic Science Symposium, Taipei) A93-0300-11, 科研費・基盤(B) 分子生研 (1)Faculty of Dentistry, University of Malaya
15. Minaguchi,K., Kasahara,I. : Phylogrny of Y-chromosomal DNA polymorphisms and its application to forensic science, 2005 Forensic Science Symposium Program & Abstracts, 97~98, 2005.(2005 Forensic Science Symposium, Taipei) A93-0300-11, 科研費・基盤(B) 分子生研
16. 伊藤春雄, 笠原 育, 水口 清 : 日本人を対象とした AmpFISTR-Yfiler による 5 種の Y-STR の追加と 21-YSTR haplotype および Binary Haplogroup との関連, 日本DNA多型学会第 14 回学術集会抄録集, 88, 2005.(日本DNA多型学会第 14 回学術集会, 前橋市) A93-0300-11 分子生研
17. 見明康雄⁽¹⁾, 柳澤孝彰⁽¹⁾, 片倉 朗⁽²⁾, 内山健志⁽²⁾, 水口 清 : 唾液による歯牙硬組織石灰化度の恒常性維持の解明, 平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 39~41, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC5A11 (1)超微構造,(2)口外

11. 社会歯科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授 石井 拓男 歯科分野における診療ガイドライン構築に関する総合的研究
助 教 授 岡田 真人 歯科医学教育における医療倫理に関する研究

2. 成果の概要

1) 歯科分野における診療ガイドライン構築に関する総合的研究

国内外の診療ガイドラインに関する情報を収集し、開発ステップの総合的調査分析を行い、さらに歯科の特異性を構築している補綴領域を中心に診療ガイドラインを開発することを目的として以下のことを行った。

①国内外における歯科関連の診療ガイドラインと称される文献をできる限り収集し歯科関連の診療ガイドラインを検索、抽出した。その結果、国内では5編、国外では115編のガイドラインと称される文献が収集された。今年度は英文ガイドライン60編を和訳し、ガイドラインの内容について検討を開始した。収集した文献には parameter、position paper、あるいはマニュアル的なものも多く含まれていた。エビデンスレベル、推奨度まで記された質の高いガイドラインは和訳を終了した60編中、9編(15.0%)であった。今後日本の歯科診療ガイドライン作成基準を明確化するとともに、どの分野の診療ガイドラインを優先して作成すべきかについても検討する必要がある。②歯科補綴学領域に限定して、エビデンスを基にした診療ガイドラインを構築するためにまず歯科補綴領域における症型分類を作成した。そしてその有用性を測定するためのプロトコルを作成した。

平成17年度厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)

2) 歯科医学教育における医療倫理に関する研究

現在の歯科大学における歯科医療倫理教育は、担当講座、担当者、対象学年等は様々であり、一貫した教育体制はない。平成16年度より開催している日本歯科医学教育学会の研究集会をふまえて、本年度においてはカリキュラムWSを開催し、行動目標について①歯科医療倫理教育を概説する。②カリキュラムプランニングを説明する。③歯科医療倫理教育を実践する。を設定して歯科医学教育における医療倫理に関して学生が習得すべき知識、態度を研究した。

3. 学外共同研究

| 担当者 | 研究課題 | 学外研究施設 | | |
|-------|--|-------------------|-------|-------|
| | | 研究施設 | 所在地 | 責任者 |
| 石井 拓男 | 地域住民の口腔保健と全身的な健康状態の関係についての総合的研究 | 人間総合科学 大・人間科学部 | さいたま市 | 小林 修平 |
| 石井 拓男 | 口腔疾患、特に歯周疾患に及ぼす煙草煙の悪影響とその対策に関する研究 | 阪大・大学院・ 歯学研究科 | 吹田市 | 雫石 聡 |
| 石井 拓男 | 歯科医師の臨床研修施設群内における協力型臨床研修施設と研修歯科医とのマッチングシステムの開発 | 日歯大・歯・附 属病院 | 東京 | 住友 雅人 |

4. 科学研究費補助金・各種補助金

| 研究代表者 | 研究課題 | 研究費 |
|-------|-------------------------------|----------------------------|
| 石井 拓男 | 歯科医療分野における診療ガイドライン構築に関する総合的研究 | 厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業) |

5. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

| 座長 | 年月日 | 演題 | 学会名 | 開催地 |
|-----------------|--------------|----------------------------|--|-----|
| 石井 拓男 | 2005. 7. 28 | 新たな歯科医療の質の向上を目指して | 平成 17 年度関東地区歯科医師会役員連絡協議会 | 千葉市 |
| 石井 拓男 | 2005. 10. 30 | 21 世紀、歯科界、日本のあるべき姿―各界からの提言 | 第 26 回千葉県十二歯科大学同窓会・校友会・懇話会 | 市川市 |
| 石井 拓男 | 2005. 7. 24 | 住民・患者との協働を目指して | 柏歯科医師会シンポジウム | 柏市 |
| 石井 拓男 (市民公開) | 2005. 11. 12 | 8020 運動の課題 | 第 25 回 (社) 日本口腔インプラント学会中国・四国支部総会・学術大会 | 岡山市 |
| 石井 拓男 | 2005. 10. 13 | 住民・患者参加型の保健・医療 | 第 64 回日本矯正歯科学会大会 | 横浜市 |
| 石井 拓男 | 2006. 3. 30 | 協力型研修施設と研修歯科医の組み合わせ決定の実情 | 歯科医師臨床研修関連シンポジウム 研修方略における物的資源ならびに郡内マッチングシステム | 東京 |

6. 学会招待講演

| 講演者 | 年月日 | 演題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------|-------------|----------------------------|------------------------------------|------|
| 石井 拓男 | 2005. 4. 28 | 歯科医療行政の昨日・今日・明日 | 滋賀県歯科医師連盟 平成 17 年度政経座談会 | 大津市 |
| 石井 拓男 | 2005. 5. 20 | 介護保険制度について | 東京都武蔵野市歯科医師会 口腔ケア研修会 | 武蔵野市 |
| 石井 拓男 | 2005. 5. 28 | 最近の歯科界と取り巻く諸事情 | 平成 17 年度東海地区歯科医師会役員・同国保組合役員合同連絡協議会 | 岐阜市 |
| 石井 拓男 | 2005. 6. 12 | 新歯科医師臨床研修 | 沖縄県歯科医師会 歯科医師臨床研修必修化に伴う講演会 | 浦添市 |
| 石井 拓男 | 2005. 7. 9 | 30 周年記念フォーラム 生涯研修の現状と課題 | TDC 卒後セミナー2005 | 東京 |
| 石井 拓男 | 2005. 7. 27 | 病診連携について | 東京歯科大学千葉市同窓会 (水曜会) | 千葉市 |

| 講演者 | 年月日 | 演題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------|--------------|------------------------------------|---|----------|
| 石井 拓男 | 2005. 7. 28 | 新たな歯科医療の質の向上を目指してーによせて | 平成 17 年度関東地区歯科医師会役員連絡協議会 | 千葉市 |
| 石井 拓男 | 2005. 8. 1 | 看護と歯科の連携を目指して | 千葉県歯科病診連携連絡協議会主催「急性期から慢性期における口腔ケアについての研究集会」 | 千葉市 |
| 石井 拓男 | 2005. 8. 20 | 歯科界をめぐる諸事情 | 歯科理工学懇話会第 449 回例会ならびに理工懇談会夏期特別講演会 | 神奈川県足柄下郡 |
| 石井 拓男 | 2005. 9. 9 | 医療保険制度の今後について | 東京歯科大学同窓会保険部情報交換会 | 東京 |
| 石井 拓男 | 2005. 10. 2 | 歯科治療・口腔ケアに効果とクリニカルパスの応用 | 第 114 回日本補綴歯科学会学術大会 | 新潟市 |
| 石井 拓男 | 2005. 11. 5 | 健康日本 21～発足から 5 年を迎えて、地域歯科医療の役割について | 名古屋市北区・東区・守山区三地区歯科医師会合同学術講演会 | 名古屋市 |
| 岡田 真人 | 2005. 11. 27 | 歯科疾患の疫学調査および分析 | 第 33 回産業歯科医研修会（アドバンストコース） | 東京 |
| 岡田 真人 | 2006. 1. 28 | 「食育基本法」について | 千葉県歯科医師会食育と口腔保健円卓会議 | 千葉市 |

7. 教育講演等教育に関する業績、活動

教育講演

| 講演者 | 年月日 | 演題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------|--------------|------------------------|-------------------------------|------|
| 石井 拓男 | 2005. 5. 29 | これからの歯科衛生士業務 | 2005 九州デンタルショー | 福岡市 |
| 石井 拓男 | 2005. 6. 20 | 歯科医師臨床研修制度の概要とマッチングの流れ | 第 43 回歯科医学教育セミナー | 千葉市 |
| 石井 拓男 | 2005. 10. 22 | これからの歯科衛生士教育と歯科保健医療ニーズ | 日本歯科衛生士会 平成 17 年度専門研修Ⅱ「特定コース」 | 東京 |
| 石井 拓男 | 2005. 10. 31 | 歯科医師臨床研修修了後の進路 | 第 46 回歯科医学教育セミナー | 千葉市 |
| 石井 拓男 | 2005. 11. 26 | これからの歯科衛生士教育について | 日本歯科衛生士会 平成 17 年度教育養成部門研究会 | 東京 |
| 石井 拓男 | 2005. 12. 10 | これからの歯科衛生士教育と歯科保健医療ニーズ | 日本歯科衛生士会 平成 17 年度専門研修Ⅱ「特定コース」 | 名古屋市 |
| 石井 拓男 | 2006. 2. 18 | これからの歯科衛生士教育と歯科保健医療ニーズ | 日本歯科衛生士会 平成 17 年度専門研修Ⅱ「特定コース」 | 熊本市 |

| 講演者 | 年月日 | 演題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------|-------------|--------------------------|--|-----|
| 石井 拓男 | 2006. 3. 8 | 介護保険制度改正の中での口腔ケアの重要性について | 岩手県二戸保健所 平成 17 年度寝たきり予防のための口腔ケア推進評価事業 「施設従事者全体研修会」 | 二戸市 |
| 石井 拓男 | 2006. 3. 17 | 研修歯科医教育のあり方 | 国立保健医療科学院 平成 17 年度特定研修 歯科医師臨床研修制度・研修管理委員会・委員長研修 | 和光市 |

8. 教育ワークショップ等

| 氏名 | 年月日 | ワークショップ名 | 役割 | 開催地 |
|-------|-----------------|---|----------|------|
| 石井 拓男 | 2005. 5. 21～22 | 第 17 回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ | サブディレクター | 千葉市 |
| 石井 拓男 | 2005. 8. 6～7 | 第 18 回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ | サブディレクター | 千葉市 |
| 石井 拓男 | 2005. 11. 19～20 | 第 19 回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ | サブディレクター | 千葉市 |
| 石井 拓男 | 2005. 12. 4～8 | 第 8 回歯科医師臨床研修指導歯科医ワークショップ | 講師 | 裾野市 |
| 石井 拓男 | 2005. 12. 19～20 | 歯科医学教育における歯科医療倫理教育カリキュラムプランニングワークショップ | コーディネーター | 船橋市 |
| 石井 拓男 | 2006. 1. 21～22 | (社) 愛知県歯科医師会主催 第 2 回指導歯科医講習会 | 企画責任者 | 名古屋市 |
| 石井 拓男 | 2006. 3. 8 | 平成 17 年度寝たきり予防のための口腔ケア推進評価事業 「施設従事者全体研修会」 | 助言者 | 二戸市 |
| 岡田 真人 | 2005. 12. 19～20 | 歯科医学教育における歯科医療倫理教育カリキュラムプランニングワークショップ | タスクフォース | 船橋市 |
| 岡田 真人 | 2005. 12. 3～4 | 第 2 回東京歯科大学試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップ | 参加者 | 船橋市 |

共用試験等

| 氏 名 | 年月日 | 種 別 | 役 割 | 開催地 |
|-------|------------|--------------------|------|-----|
| 石井 拓男 | 2006. 2. 9 | 平成 17 年度第 4 学年 CBT | 運営委員 | 千葉市 |

単行図書

1. 櫻井 薫⁽¹⁾編集協力, 石井拓男(a), 井出吉信⁽²⁾(b), 松井 隆⁽³⁾(c): 著分担 : POSによる歯科診療録の書き方 (a)教育改革の流れと大学における診療録書き方指導 16~17 頁, (b)口腔解剖の名称と記載要領 86~92 頁, (c)処方ならびに処方せんの書き方 97~101 頁, 医歯薬出版, 東京, 2005. (1)補綴I, (2)解剖, (3)口健臨・口外科
2. 荒川浩久⁽¹⁾, 石井拓男, 磯崎篤則⁽²⁾, 上村参生⁽³⁾, 尾崎哲則⁽⁴⁾, 神原正樹⁽³⁾, 車田文雄⁽⁵⁾, 後藤田宏也⁽⁶⁾, 小林清吾⁽⁷⁾, 雫石 聡⁽⁸⁾, 清水良昭⁽⁹⁾, 末高武彦⁽¹⁰⁾, 竹下 玲⁽¹¹⁾, 鶴本明久⁽¹²⁾, 中垣晴男⁽¹³⁾, 埴岡 隆⁽¹⁴⁾, 前野正夫⁽¹⁵⁾, 松久保 隆⁽¹⁶⁾, 松本 勝⁽¹¹⁾, 三宅達郎⁽³⁾, 宮澤忠蔵⁽¹⁷⁾, 向井美恵⁽¹⁸⁾, 安井利一⁽⁹⁾, 米満正美⁽¹⁹⁾ : 共著 : 口腔保健マニュアル , 南山堂, 東京, 2005. (1)神歯大・口衛, (2)朝日大・口感染医療, (3)大歯大・口衛, (4)日大・医療人間科学, (5)奥羽大・口衛, (6)日大松戸歯, (7)日大松戸歯・衛生, (8)阪大・予歯, (9)明海大・歯・口衛, (10)日歯大, (11)明海大・口衛, (12)鶴見大・予歯, (13)愛知学院大・口衛, (14)福歯大・口健康科学, (15)日大, (16)衛生, (17)奥羽大・歯・口衛, (18)昭和歯大・口衛, (19)岩手医大・歯・予歯
3. 石井拓男(a): 著分担 : デンタルIT ナビゲーション (a)個人情報保護法と歯科医院 64~70 頁, デンタルダイヤモンド社, 東京, 2006.

調査報告

1. 石井拓男, 市川哲雄⁽¹⁾, 櫻井 薫⁽²⁾, 川崎浩二⁽³⁾: 歯科医療分野における診療ガイドライン構築に関する総合的研究 , 東京歯科大学社会歯科学研究室 石井拓男, 2006. (1)徳島大・大学院・ヘルスバイオサイエンス研究部, (2)補綴I, (3)長崎大・医・歯学部附属病院・地域医療連携センター
2. 雫石 聡⁽¹⁾, 埴岡 隆⁽²⁾, 瀬戸皖一⁽³⁾, 奥田克爾⁽⁴⁾, 川口陽子⁽⁵⁾, 石井拓男 : 喫煙が及ぼす歯科医療費への経済的影響に関する研究 , 大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座 雫石 聡, 2006. (1)阪大・口腔分子感染制御, (2)福岡歯大・歯・口腔健康, (3)鶴見大・歯・口外, (4)微生物, (5)東医歯大・大学院・健康増進歯学
3. 小林修平⁽¹⁾, 宮崎秀夫⁽²⁾, 才藤栄一⁽³⁾, 井上修二⁽⁴⁾, 泉福英信⁽⁵⁾, 安藤雄一⁽⁶⁾, 花田信弘⁽⁷⁾, 今井 奨⁽⁸⁾, 石井拓男, 植松 宏⁽⁹⁾ : 咀嚼と肥満の関連性に関する研究 , 人間総合科学大学人間科学部健康栄養学科 小林 修平, 2006. (1)人間総合科学大, (2)新潟大・大学院・口腔健康科学, (3)藤田保健衛生大・医・リハビリテーション, (4)共立女子大・家政, (5)感染研・口腔科学, (6)国立保健医療科学院・口腔保健・健康情報, (7)国立保健医療科学院・口腔保健, (8)国立保健医療科学院・口腔保健・健康技術, (9)東医歯大・大学院・口腔老化制御学
4. 住友雅人⁽¹⁾, 石井拓男, 出口眞二⁽²⁾, 土田泰治⁽³⁾ : 外国におけるマッチングプログラムの調査に関する研究 , 日本歯科大学附属病院 住友 雅人, 2006. RI研 脳科学研 (1)日歯大・附属病院, (2)神歯大・歯周病学, (3)三菱電機(株)

その他

1. 石井拓男 : 8020 運動の意味と問題点, 日補綴歯会誌 **49**(2), 168~178, 2005.
2. 岡田真人 : 介護保険施設における口腔ケア, 日本歯科新聞(1417), 5, 2005.
3. 石井拓男 : 個人情報保護法施行と歯科医療, ザ・クインテッセンス **24**(6), 177~181, 2005.

4. 石井拓男：かかりつけ歯科医とは何ですか?, 日歯評論 **65**(10), 13～16, 2005.
5. 石井拓男, 岡田眞人, 平田幸夫⁽¹⁾, 尾崎哲則⁽²⁾, 宮武光吉⁽³⁾：歯科に求められる医療倫理教育, 日歯評論 **65**(11), 22～24, 2005. (1)神歯大・社歯・歯科医療社会学分野,(2)日大・歯・医療人間科学,(3)鶴見大・歯
6. 石井拓男：教育現場からみた生涯研修とは一臨床研修必修化を中心に, 日歯評論 **65**(12), 153～158, 2005.
7. 石井拓男：学会設立検討会報告書, 日衛学誌 **34**(2), 8～11, 2006.
8. 石井拓男：歯科医師臨床研修制度の経緯と概要, 日歯医師会誌 **58**(11), 9～13, 2006.

学会抄録

1. 杉戸博記⁽¹⁾, 古澤成博⁽²⁾, 角田正健⁽¹⁾, 杉山利子⁽³⁾, 山倉大紀⁽⁴⁾, 一戸達也⁽⁵⁾, 外木守雄⁽⁶⁾, 石井拓男, 佐藤 亨⁽⁷⁾, 山田 了⁽¹⁾, 小田 豊⁽⁸⁾, 井出吉信⁽⁹⁾：第2 学年病院実習と臨床研修歯科医の初期研修を組み合わせた新しい多目的カリキュラム, 第24 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会抄録集, 96, 2005.(第24 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 徳島市) (1)保存II,(2)口健臨・総合歯科,(3)保存III,(4)補綴III,(5)歯麻,(6)市病・オーラルメディシン,(7)補綴II,(8)理工,(9)解剖
2. 武井典子⁽¹⁾, 小笠原妙子⁽²⁾, 折津政江⁽³⁾, 村越倫明⁽⁴⁾, 柳沢幸江⁽⁵⁾, 渋谷耕司⁽¹⁾, 石井拓男：咀嚼と肥満の関連性に関する研究 第3 報咀嚼機能訓練ガムの肥満の改善への効果, 口腔衛会誌 **55**(4), 412, 2005.(第54 回日本口腔衛生学会・総会, 東京) (1)ライオン歯研,(2)ライオン(株)健康管理室,(3)日赤医療センター・検診部,(4)ライオン(株)オーラルケア研究所,(5)和洋女子大
3. 平田幸夫⁽¹⁾, 青山 旬⁽²⁾, 薄井司文歩⁽³⁾, 阿部 智⁽¹⁾, 山田善裕⁽⁴⁾, 石井拓男, 雫石 聰⁽⁵⁾：喫煙が及ぼす歯科医療費への経済的影響に関する研究一歯周疾患医療費における超過医療費の推定一, 口腔衛会誌 **55**(4), 482, 2005.(第54 回日本口腔衛生学会・総会, 東京) (1)神歯大・社歯・歯科医療社会学分野,(2)栃木県立衛生福祉大学校・歯科技術学部,(3)川崎市中原区役所保健福祉センター,(4)江東区保健所,(5)大阪大学口腔分子感染制御学講座
4. 須山祐之⁽¹⁾, 高橋義一, 村松 淳⁽²⁾, 高久 悟⁽³⁾, 大川由一⁽⁴⁾, 小林美香⁽⁵⁾：歯科医療施設での空気感染に対する実践的な感染対策(その4), 口腔衛会誌 **55**(4), 483, 2005.(第54 回日本口腔衛生学会・総会, 東京) (1)衛生,(2)口健臨・麻酔科,(3)埼玉県立短大・歯科衛生,(4)千葉衛短・歯衛,(5)東京都
5. 石井拓男, 渡邊 裕⁽¹⁾, 蔵本千夏⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 岡田眞人, 今村嘉宣⁽²⁾, 大川由一⁽³⁾, 山田善裕⁽⁴⁾, 新庄文明⁽⁵⁾, 宮武光吉⁽⁶⁾：介護保険施設における口腔機能評価に関する研究 第2 報施設種別の比較, 口腔衛会誌 **55**(4), 487, 2005.(第54 回日本口腔衛生学会・総会, 東京) (1)市病・オーラルメディシン,(2)補綴III,(3)千葉衛短・歯衛,(4)江東区保健所,(5)長崎大・大学院・医歯薬学・健康予防,(6)鶴見大・歯
6. 佐々木良紀⁽¹⁾, 高橋義一：海上自衛隊における Oral Health Promotion5 一管楽器奏が歯周疾患罹患に及ぼす影響について一, 口腔衛会誌 **55**(4), 512, 2005.(第54 回日本口腔衛生学会・総会, 東京) (1)自衛隊中央病院

7. 片倉 朗⁽¹⁾, 宍倉邦明⁽²⁾, 中山修一⁽²⁾, 水谷哲夫⁽²⁾, 大前寛明⁽²⁾, 上野正志⁽²⁾, 星野浩之⁽²⁾, 川村正樹⁽²⁾, 中島真理子⁽²⁾, 小太刀健二⁽²⁾, 宮間幹夫⁽²⁾, 入江洋文⁽²⁾, 阿佐美葉子⁽²⁾, 蔵本 誠⁽²⁾, 伊藤陽介⁽²⁾, 池田廣明⁽²⁾, 湯浅一洋⁽²⁾, 木屋和彦⁽²⁾, 並木泰次⁽²⁾, 高橋仁人⁽²⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 高野伸夫⁽¹⁾, 内山健志⁽¹⁾, 笠原清弘⁽¹⁾, 山内智博⁽¹⁾, 武田栄三⁽¹⁾, 野村武史⁽¹⁾, 石井拓男, 山本信治⁽¹⁾: 口腔癌検診の現状と将来展望 -歯科医師会と協力して行っている口腔癌検診-, 第12回千葉県歯科医学大会プログラム, 54, 2006.(第12回千葉県歯科医学大会, 千葉市) (1)口外,(2)千葉県